

4-3 心理学

研究・教育活動の概要と特色

心理学専攻分野の教員は、現在、教授3名、准教授1名、研究助手1名の5名構成である。それぞれの専門は社会・犯罪心理学、認知心理学、社会・生理心理学、文化心理学と、他領域にわたっている。基礎研究から社会の多様な方面と連携した応用的な研究まで、研究の幅が広いことは、本専攻分野の大きな特色である。他の学問領域・機関と連携した共同研究、海外の研究者との共同研究も多い。学部、大学院とも、卒業生は、学・官・民の多様な社会的分野で、バランスのよい活躍をしている。教員の研究は国際的水準の成果をあげている。また教育の結果である大学院生の研究発表の生産性は高く、とくに国際的学会や国際的ジャーナルでの発表を行う院生が多いことは、文学研究科内でも突出している。その結果、日本学術振興会特別研究員としての採用も着実である。21世紀COE、グローバルCOEの中核的なメンバーとして活動している教員の指導のもとに、COE研究員に採用される大学院生もいる。研究成果を、公開講座や公開シンポジウム等で社会的に還元する努力も十二分になされている。

組織

1 教員数（2011年9月末現在）

教授：3

准教授：1

講師：0

助教：0

研究助手：1

教授：大淵憲一、行場次朗、阿部恒之

准教授：辻本昌弘

研究助手：柴田寛

2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
51	4	13	15	0

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	17	6	4
08	16	6	3
09	15	3	6
10	15	3	4
11	0	0	0
計	63	18	17

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	4	0	4
08	1	0	1
09	7	1	8
10	4	0	4
11	0	0	0
計	16	1	17

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

大類純子、2007年度、『摂食障害の心理的特性に関する研究』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・行場次朗、教授・大淵憲一、教授・海野道郎、准教授・阿部恒之

今在景子、2007年度、『裁判外紛争処理の社会心理学的研究 - 手続き的公正の視点から - 』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・仁平義明、教授・行場次朗、教授・長谷川公一、准教授・阿部恒之

荒木 剛、2007年度、『いじめ被害体験者の青年期後期におけるリズィリエンス

(resilience)』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・海野道郎、准教授・阿部恒之

柴田 寛、2007年度、『受け渡し動作の表出と適切さの認識に関する心理学的・脳科学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、准教授・阿部恒之、准教授・小泉政利

河地庸介、2008年度、『物体同一性の知覚を支える感覚内・感覚間情報統合』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、准教授・阿部恒之、准教授・小泉政利、准教授・辻本昌弘

佐藤 拓、2009年度、『虚偽検出に関する認知心理学的研究』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・吉原直樹、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

池田和浩、2009年度、『転換的語り直しによる自伝的記憶の変容に関する研究』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・木村邦博、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

菊地史倫、2009年度、『嘘の目的達成に関する感情心理学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、教授・戸島貴代志、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

田村 達、2009年度、『非人間的ラベリングが対象に対する認知判断と攻撃行動に及ぼす効果』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・仁平義明、教授・行場次朗、教授・佐藤嘉倫、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

鶴巻（秦）正子、2009年度、『注意欠陥／多動性障害の子どもにおける漢字の書字学習に関する研究—構成見本合わせ課題による指導の効果—』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教授・木村邦博、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

日高聡太、2009年度、『運動物体の脳内表現とその機能的意義に関する心理物理学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・仁平義明、教授・大淵憲一、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

山本佳子、2009年度、『広汎性発達障害学生の大学適応に関する研究』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・大淵憲一、教授・行場次朗、教

授・吉原直樹、准教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘

佐々木隆之、2009年度、『聴覚的リズムのカテゴリ知覚と演奏』

審査委員：教授・仁平義明（主査）、教授・行場次朗、教授・木村邦博

中川知宏、2010年度、『青年期の集団と非行：非行の集団過程モデルの検証』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、教授・正村俊之、准教授・辻本昌弘

渥美恵美、2010年度、『リハビリテーションと対人関係 作業療法学生の社会的交流技能に関する研究』

審査委員：教授・大淵憲一（主査）、教授・行場次朗、教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘、准教授・下夷美幸

柴田理瑛、2010年度、『視覚的アウェアネスの生起と消失からの回復に関する実験心理学的検討』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准教授・小泉政利、准教授・辻本昌弘

鈴木結花、2010年度、『粗さの触知覚におよぼす聴覚情報の影響に関する心理物理学的研究』

審査委員：教授・行場次朗（主査）、教授・大淵憲一、教授・阿部恒之、准教授・辻本昌弘、准教授・小泉政利

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	6	1	10	0	17
08	15	4	4	0	25
09	22	6	3	0	31
10	3	3	1	0	8
11	16	6	7	0	29
計	62	21	27	0	110

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	14	39	4	0	57

08	13	53	4	1	71
09	14	43	14	2	73
10	15	39	14	3	71
11	18	28	0	0	46
計	74	202	36	6	318

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

- 荒木 剛. 「性格：“その人らしさ”を理解する」 今在慶一郎（編著）『30分で学ぶ心理学の基礎』 北樹出版 pp.64-72, 2007.
- 荒木 剛. 「青年：“子ども”から“大人”へ」 今在慶一郎（編著）『30分で学ぶ心理学の基礎』 北樹出版 pp.80-89, 2007.
- 渥美恵美・大淵憲一・稲垣成昭・勅使河原麻衣 「作業療法臨床実習のための社会的交流技能事前教育プログラムに関する研究（第1報）：学生の持つ交流技能の分析」 『リハビリテーション科学：東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 3, 3-11, 2007.
- 渥美恵美・稲垣成昭・勅使河原麻衣・高橋千賀子 「作業療法学生の社会的交流技能養成教育プログラムの開発に向けて：試行的実施」 『リハビリテーション教育研究』, 13, 160-165, 2008.
- 渥美恵美・大淵憲一・稲垣成昭・勅使河原麻衣 「社会的交流技能実習事前教育プログラムに関する研究：社会的交流技能自己評価(SA)尺度 Ver2作成と因子分析」 『リハビリテーション科学：東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 4, 11-19, 2008.
- 渥美恵美・大淵憲一. 「OT臨床実習のための社会的交流技能の検討：概念構成と尺度開発」 『文化』, 71, 253-270, 2008.
- 渥美恵美・大淵憲一. 「作業療法学生の社会的スキル学習に対する臨床実習の効果」 『応用心理学研究』, 36, 114-123, 2011.
- 渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣. 「社会的交流技能自己評価尺度の妥当性の検証 臨床実習指導者評価を用いて」 『感性福祉研究所年報』, 12, 163-174, 2011.
- 原野明子・朴香花・佐藤拓・鶴巻正子. 「福島県内の幼稚園における個別の指導計画作成の現状」 『福島大学総合教育研究センター紀要』, 7, 93-101, 2009.

- 日高聡太・行場次朗 「仮現運動事態で内的に形成される運動物体表象」 『心理学評論』, 51, 220-234, 2008.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Depth Representation of Moving 3D Objects in Apparent Motion Path」 『Perception』, 2007
- Hidaka, S., Shigeta, R., Kawachi, Y., Sakuta, Y., & Gyoba, J. 「Speed and consistency of sound-color association in a colored-hearing test」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 68-74, 2007.
- 日高聡太・行場次朗. 「東北大学心理学研究室における古典的実験機器の歴史と特色—京都大学との比較から—」 『心理学史・心理学論』, 10/11, 49-55, 2009.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The representation of moving 3-D objects in apparent motion perception」 『Attention, Perception & Psychophysics』, 71, 1294-1304, 2009.
- Hidaka, S., Manaka, Y., Teramoto, W., Sugita, Y., Miyauchi, R., Gyoba, J., Suzuki, Y., & Iwaya, Y. 「Alternation of sound location induces visual motion perception of a static object」 『PLoS ONE』, 4, e8188. 2009.
- Hidaka, S., Nagai, M., & Gyoba, J. 「Spatiotemporally coherent motion direction perception occurs even for spatiotemporal reversal of motion sequence」 『Journal of Vision』, 9(13):6, 1-12, 2009.
- 引地博之・青木俊明・大淵憲一. 「地域に対する愛着の形成機構 - 物理的環境と社会的環境の影響 - 」 『土木学会論文集』, 65, 2, 101-110, 2009.
- Hikichi, H. 「Local cooperation and social inequalities」 In K. Ohbuchi & N.Asai (Eds.), 『Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation (chap. 9)』 Melbourne: Trans Pacific Press, in press.
- Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Transfer effects on auditory skills from playing virtual three-dimensional auditory display games」 In B. N. Weiss (Ed), 『New Research on Acoustics, Hauppauge』, NY: Nova Science Publishers, 141-157, 2008.
- Ikeda, K., & Shibayama, M. 「Gender Differences in the Effects of Autobiographical Advertisements on Autobiographical Memory」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 89-96, 2007.
- 池田和浩・仁平義明. 「ネガティブな体験の肯定的な語り直しによる自伝的記憶の変容」 『心理学研究』, 79, 481-489, 2008.
- 稲垣成昭・渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能事前教育プロ

- グラムに関する研究：学生の自己評価と性格要因の検討」 『リハビリテーション科学：東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 4, 21-28, 2008.
- 菅藤健一・森 丈弓・上埜高志. 「非行臨床における処遇課程の分析について」 『東北大学大学院教育学研究科研究年報』, 57(2), 255-268, 2009.
- Kawachi, Y., Kawabe, T., & Gyoba, J. 「Spatiotemporal integration of object features in the stream/bounce event perception」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 25, 2, 273-274, 2007.
- Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Physical offset of an invisible object can recover visual awareness suppressed by motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 27(1), 109-110, 2008.
- 河地庸介・行場次朗. 「視覚的事象の知覚に関する最近の研究動向 —物体同一性, 因果性、通過・反発事象の知覚—」 『心理学評論』, 51(2), 206-219, 2008.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子. 「社会階層と公正感：多元的公正判断と社会的属性の関係」 『文化』, 73, 83-99, 2009.
- 川嶋伸佳・大淵憲一. 「日本における社会的な不平等の正当化：体制正当化理論の検証」, 大淵憲一（編）『日本思想からみた正義・公正観念：社会心理学的検討（平成19年度～21年度科学研究費補助金研究成果報告書）』, 113-125, 2010.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子. 「多元的公正感と抗議行動：社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」 『社会心理学研究』、印刷中.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子. 「社会的な不平等とマイクロ公正感：不公正感受性の効果」 『法と心理』、印刷中.
- Kawashima, N. 「Social Inequality and Sense of Fairness in Japan: Multi-Level Sense of Fairness, Social Ideals and Rationalization Mechanisms」 K. Ohbuchi and N. Asai (Eds.) 『Inequality, Discrimination, and Conflict in Japan: Ways to Social Justice and Cooperation』 Melbourne: Transpacific Press, in press.
- Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T. 「Effects of a personal relationship between deceiver and lie-receiver on ratings of veracity and forgiveness」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 40-45, 2007.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之・仁平義明 「過失に対する赦しの評価に怒り感情・信憑性・重大性の評価が及ぼす影響」 『感情心理学研究』, 15, 97-105, 2008.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之. 「弁明としてのウソが利益とコストの評価に及

- ぼす影響」 『感情心理学研究』, 16, 220-228, 2009.
- Kikuchi, F., Sato, T., Kawashima, M., & Abe, T. 「Is a humorous excuse better than lying?」 『Tohoku Psychologica Folia』, in press.
- 小嶋かおり. 「絵本に見られる対人葛藤と心の理論による物語理解」 『新潟青陵大学短期大学部研究報告』, 41, 163-173, 2010.
- 小嶋かおり. 「日本の昔話と対人葛藤」 『文化』, 74, 2010.
- 小宮山みなみ・阿部恒之・上原俊介・菊地史倫. 「学生の QOL に影響する要因の検討—社会的行動制御スタイル・感情を中心に—」 『早稲田大学臨床心理学研究』, 8, 53-65, 2009.
- 今野晃嗣・仁平義明 「ヒト乳幼児の気質モデルに基づいたイヌとネコの気質尺度」 『ヒトと動物の関係学会誌』, 20, 56-65, 2008.
- 今野晃嗣・丸山俊・日高聡太・田中章浩・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「英語活動経験が英語音素対聴取時における幼児の脳活動に及ぼす影響—NIRS による検討—」 『信学技報 IEICE Technical Report TL2008-20(2008-8)』, 108(184), 45-48, 2008.
- Kumagai, T. 「Intra-group fairness, group identification, and inter-group aggression」 In K. Ohbuchi (Ed.). 『Social Justice in Japan: Concept, theories, and paradigms』 Melbourne: Trans Pacific Press, 2007.
- 熊谷智博 「集団成員性と攻撃行動」 潮村公弘・福島治(編) 『社会心理学概説』 第5章第3節 北大路書房, 2007.
- 熊谷智博 「集団間葛藤」大淵憲一(編) 『シリーズ 21 世紀の社会心理学: 葛藤と紛争の社会心理学』, 北大路書房, 2008.
- 熊谷智博・大淵憲一 「非当事者攻撃に対する集団同一化と被害の不公正さの効果」 『社会心理学研究』, 24(3), 200-207, 2009.
- 森 丈弓・花田百造 「少年鑑別所に入所した非行少年の再犯リスクに関する研究 - split population model による分析 - 」 『犯罪心理学研究』, 44 (2), 1-14, 2007.
- 森 丈弓・津富 宏 「年齢犯罪曲線に対する Moffitt 仮説と General Theory of Crime の検証」 『犯罪心理学研究』, 44 (2), 23-38, 2007.
- 森 丈弓・津富 宏. 「自己申告式の非行調査」 浜井浩一(編) 『犯罪統計入門』 日本評論社. pp.192-215, 2008.
- 森 丈弓. 「犯罪・非行のリスクアセスメント」 『青少年問題 財団法人青少年問題研究会』 640, pp.8-13, 2010.

- 森 丈弓. 「こんなときの叱り方のコツ 万引きをした」 『児童心理』 金子書房
9, pp.91-95, 2010.
- 森 丈弓. 「Mathematica による構造方程式モデリング」 『いわき明星大学人文
学部紀要』, 24, 84-96, 2011.
- 森 丈弓. 「犯罪と非行」 林 洋一(監) 『心の科学 基礎から学ぶ心理学』 明星
大学出版部 pp.235-256, 2011.
- 森 丈弓. 「サイコパス」 林 洋一(監) 『心の科学 基礎から学ぶ心理学』 明星
大学出版部 pp.150-152, 2011.
- 森 丈弓. 「再犯のリスクアセスメント」 『カウンセリング実践ハンドブック』
丸善. pp.490-491, 2011.
- 岡本吉生 「救済しあう夫婦の子育て期」 日本加除出版 『住民行政の窓』 第
359号 pp.128-131, 2011.
- 岡本吉生 「青少年問題この10年」 財団法人青少年問題研究会 『青少年問題』
第643号 第58巻夏季号 pp.8-13, 2011.
- 岡本吉生 「非行リスクとしての障害と関連問題」 生島浩・岡本吉生・廣井亮
一(編) 『非行臨床の新潮流』, 金剛出版, pp.69-81, 2011.
- 大坂紘子 「児童養護施設の職員のストレス対処と職員間連携に関する探索的研
究」 『東北文化研究室紀要』, 49, 1-13, 2007.
- 大坂紘子 「中高年女性のボランティア開始後のライフコースとネガティブ・イ
ベントへの対処」 『社会心理学研究』, 24, 1-10, 2008.
- Saito, T., & Ohbuchi, K. 「Gender differences in the cognitive cause of Japanese conflict
avoidance: An approach in pluralistic ignorance」 『Tohoku Psychologica Folia』, 66,
62-67, 2007.
- Saito, T., & Ohbuchi, K. 「Who suffers pluralistic ignorance of conflict avoidance among
Japanese? Individual differences in the value of social harmony」 『International
Journal of Conflict Management』, in press.
- Saito, T., & Ohbuchi, K. 「Gender differences in Japanese conflict avoidance: An
interpretation from closeness」 『Tohoku Psychologica Folia』, in press.
- 佐藤 拓・仁平義明 「言葉から嘘を見分ける: C B C A と R M による判別」 『現
代のエスプリ 481: 嘘の臨床・嘘の現場』, 186-196, 2007
- Sato, T., Nihei, Y., & Kikuchi, F. 「Adolescent and young adult beliefs about deception」
『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 54-61, 2007.
- 佐藤 拓. 「消防士の高所恐怖」 仁平義明(編) 『防災の心理学—ほんとうの

- 安心とは何か―』, 東信堂, 2008.
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Sex differences in beliefs about cues to deception」 『Psychological Reports』, 104, 759-769, 2009.
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Contrast tactics in deceptive impression management」 『Social Behavior and Personality: An International Journal』, 37, 267-272, 2009.
- Sato, T., & Nihei, Y. 「Gender differences in confidence about lying and lie detection」 『Tohoku Psychologica Folia』, 67, 71-73, 2009.
- 佐藤 拓・仁平義明. 「青年期のキャリア・レジリエンス—進路決定のリスク要因・促進要因—」 『東北大学学生相談所年報』, 3, 23-27, 2009.
- Shibata, H., Suzuki, M., & Gyoba, J. 「Cortical activity during the recognition of cooperative actions」 『NeuroReport』, 18, 697-701, 2007.
- 柴田 寛・行場次朗 「他者から手渡された物体を受け取る動作の選択」 『生態心理学研究』, 2008.
- Shibata, H., Gyoba J., & Suzuki, Y. 「Event-related potentials during the evaluation of the appropriateness of cooperative actions」 『Neuroscience Letters』, 452, 189-193, 2009.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「Motion-induced blindness を用いた近接・閉合の手がかりが物体表象に及ぼす相互作用の定量的検討」 『信学技報 IEICE Technical Report HIP2007-130(2007-12)』, 7-12, 2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・矢入 聡・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「運動誘発盲により消失した視覚意識を復活させる短バースト音」 『信学技報 IEICE Technical Report EA 2008-50 (2007-8)』, 29-34, 2008.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba J. 「Combined effects of perceptual grouping cues on object representation: Evidence from motion-induced blindness」 『Attention, Perception, & Psychophysics』, 72, 387-397, 2010.
- Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「A short noise burst can trigger the release of motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 29, 85-86, 2010.
- 潮村公弘・田村 達 「偏見・差別とその認知的メカニズム」 潮村公弘・福島治 (編) 『社会心理学概説』 北大路書房, 39-41, 2007.
- 生島 浩 『学校臨床の現場から』 SEEDS 出版 2009.
- 生島 浩 「保護観察官に期待されるもの」 『更生保護と犯罪予防』, 151, 6-15, 2009.

- 生島 浩・岩崎陽子 「少年鑑別所における収容鑑別」 吉川悟編『システム論からみた援助組織の協働』 金剛出版 167-174 2009.
- 生島 浩 「非行臨床からのアプローチ」 『生徒指導学研究』, 8, 27-34, 2009.
- 生島 浩 「立ち直りの手立てとしての家族」 『家族療法研究』, 26(3), 70-74, 2009.
- 生島 浩・森丈弓 「少年司法の対応」 齋藤万比古（編）『子どもの攻撃性と破壊的行動障害』 中山書店, 242-257, 2009 .
- 生島 浩 「犯罪・非行と家族 - リスク・ファミリーの臨床」 『犯罪と非行』, 163, 5-21, 2010 .
- 生島 浩 「少年非行と家族」 井上眞理子（編）『家族社会学を学ぶ人のために』, 世界思想社, 202-219, 2010 .
- 生島 浩 「非行臨床モデルの意義と課題」 生島浩・岡本吉生・廣井亮一（編）『非行臨床の新潮流』, 金剛出版, 135-147, 2011.
- 杉原沙千子・生島浩・久保貴 「更生保護における犯罪心理臨床の歴史と展望」 『犯罪心理学研究 50 周年記念特集号』, 73-87, 2011 .
- Suzuki, M. Okamura, N., Kawachi, Y. Tashiro, M., Arao, H., Hoshishiba, T., Gyoba, J., Yanai, K. 「Discrete cortical regions associated with the musical beauty of major and minor chords」 『Cognitive, Affective, & Behavioral Neuroscience』, 8(2), 126-131, 2008.
- Suzuki, Y., Gyoba, J., & Sakamoto, S. 「Selective effects of auditory stimuli on tactile roughness perception」 『Brain Research』, 1242, 87-94, 2008.
- Suzuki, Y. & Gyoba, J. 「Correspondence of tactile and auditory information modifies the effects of sound on the tactile perception of roughness」 『The Journal of Psychonomic Science』, 28, 181-182, 2009.
- 田上義之・渥美恵美・高橋千賀子 「実習後のアンケート結果から把握できた臨床実習 の実態」 『リハビリテーション科学：東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 4, 45-54, 2008.
- Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness and Justice: Victim Psychology in Conflict Resolution」 Ohbuchi, K (Ed) 『Social Justice in Japan: Concepts, Theories and Paradigm』, 107-126, Trans Pacific Press, 2007.
- 高田奈緒美・大淵憲一. 「対人葛藤における寛容性の研究：寛容動機と人間関係」 『社会心理学研究』, 24, 208-218, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗. 「視覚パターンの空間位置記憶における好みの影響の多様性」 『電子情報通信学会技術研究報告』, 108(356), 41-46, 2008.

- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Location memory of visual patterns modulated by preference」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 28, 163-164, 2009.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschool children」 『Neuroscience Research』, 69, 246-251, 2011.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschoolers」 『Tohoku Psychologica Folia』, in press.
- Takahashi, J. & Hatakeyama, T. 「Spatial and nonspatial working memory and visual search」 『Psychological Reports』, 108, 893-907, 2011.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Different effects of expanding/contracting motion on visual short-term memory」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science (Summary of Awarded Presentation)』, in press.
- 高久聖治・高田奈緒美 「葛藤と寛容性」大淵憲一（編）『葛藤と紛争の社会心理学』北大路書房, 2008.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The auditory velocity illusion by sounds of different intensities」 『Tohoku Psychologica Folia』, in press.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Modification of velocity perception by loud sounds」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, in press.
- Tamura, T. 「Justified Discrimination」 in Ohbuchi, K (ed.), 『Social Justice in Japan: Concepts, theories and paradigms』. Melbourne: Trans Pacific Press, 127-148. 2007.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：指導者との葛藤場面の分類」 『リハビリテーション教育研究』, 13, 83-87, 2008.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美. 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：指導者への葛藤解決方略」 『リハビリテーション教育研究』, 14, 126-128, 2009.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美. 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：学生の悩みとの関連性」 『リハビリテーション教育研究』, 15, 2011.
- 外川江美 「「暴れる子ども」の理解と対応」 『神奈川県警少年育成課機関誌「学警連だより」』, 印刷中.
- 鶴巻正子・右高真由美 「TEC (The Education Cooperative)における特殊教育プログラム」 『福島大学総合教育研究センター紀要』, 3, 51-58, 2007.
- Tsurumaki, M. 「Self-esteem enhancement in children with attention-deficit/hyperactivity

- disorder」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 66, 105-111, 2007.
- 鶴巻正子・齋藤はるか 「ADHDのある子どもへの漢字の書字指導 - コンピュータを用いた支援法の開発と個別式 e - ラーニングの可能性 - 」 『福島大学生涯学習教育研究センター年報』 , 13, 57 - 62, 2008.
- 鶴巻正子 「注意欠陥多動性障害者の心理」, 田中農夫男・木村進(編著) 『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』 , 2009 .
- 鶴巻正子・朴香花・原野明子・佐藤 拓 . 「福島県内の幼稚園における保育者が考える特別支援教育の課題」 『福島大学総合教育研究センター紀要』 , 7, 103-108, 2009.
- 鶴巻正子・岩谷美奈・佐藤 拓・原野明子 . 「小学校入学前の発達障害幼児に指導が必要なソーシャルスキル - 小学校・中学校・特別支援学校の教員を対象としたアンケート調査から - 」 『福島大学総合教育研究センター紀要』 , 7, 109-116, 2009.
- Tsurumaki, M., Sato, T., & Nihei, Y. 「The effect of negatively worded measures of self-esteem on children」 『Social Behavior and Personality: An International Journal』 , 37, 1383-1384, 2009 .
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Kunisa, Y., & Ohbuchi, K. 「Motives of anger in relationships: Relationship closeness moderates anger evoked motives」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 68, 1-11, 2009.
- 上原俊介・船木真悟・大淵憲一 「関係規範の違反に対する怒り感情: 人間関係タイプ、欲求の関係特異性、及び欲求伝達の影響」 『実験社会心理学研究』 , 51, 32-42, 2011.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Komatsu, S., & Ohbuchi, K. 「The role of social anxiety in anger against norm violations」 『Tohoku Psychologica Folia』 , in press.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., & Ohbuchi, K. 「When does anger evoke self-interest and fairness motives? The moderating effects of perceived responsibility for needs」 『Japanese Psychological Research』 , in press.
- 山本佳子・仁平義明 「統合失調症の大学生に対する卒業をゴールとしない支援」 『学生相談研究』 , 30(1), 12 -22, 2009.
- Yamamoto.Y. , Nihei.Y. 「Difficulties in adjusting to college life experienced by students with pervasive developmental disorders: comparison with schizophrenic students」 『Tohoku Psychological Folia』 , 67, 1-5, 2009.

(2) 口頭発表 (ポスター発表を含む)

(国際学会)

- Aoki T., & Hikichi, H. 「Determinants of cooperative behavior in the process of infrastructure planning in Japan: Self-benefits and fairness of administrative authority」Proceedings of 10th international conference on Application of Advanced Transportation Technologies, No.358, pp.14, Athens, Greece, 2008.
- Aoki, T. & Hikichi, H. 「Determinants of Co-operative Behavior in relation to Community Policy: Self-Profit and Fairness」 Conference Program of 2nd International Conference on Community Psychology, pp.143, Lisbon, Portugal, 2008.
- Fukumitsu, Y., Suzuki, Y., Shibata, H., Koizumi, M., Gyoba, J., & Hagiwara, H. 「Children's awareness of morpho-syntactic information: an auditory ERP study」 13th Annual Conference on Architectures and Mechanisms for Language Processing (Turku, Finland; August 26), 2007.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Depth information contained in the representation of moving 3-D objects in apparent motion perception」 ECVF 2007, (Arezzo, Italy ; August 28),2007
- Hidaka, S., Satoh, S., and Gyoba, J. 「Psychophysical analyses of the size effects of spatial attention on figure-ground assignment」 Fechner Day 2007, (Tokyo, Japan ; October 22),2007
- Hidaka, S., Nagai, M., & Gyoba, J. 「Non-reversed motion perception induced by the spatiotemporal reversal of apparent motion sequences」 8th Annual Meeting of Vision Sciences Society (Naples, Florida; May 11), 2008
- Hidaka, S., Nagai, M., Bennett, P. J., Sekuler, A. B., and Gyoba, J. 「Impaired luminance detection in apparent motion trajectory」 9th Annual Meeting of Vision Sciences Society, 2009.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Effects of tone-sequence frequency changes on visible persistence of apparently moving visual stimuli」 International Multisensory Forum, 2009.
- Hikichi, H. 「Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community」 東北大学文学研究科グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」国際シンポジウム “How do people react when they face social justice/injustice?: Determinants of cooperation and integration.” 2009 .

- Hikichi, H., Ohbuchi, K. & Aoki, T. 「Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community」 The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Hikichi, H. 「How do community residents determine cooperation to community activity?: Influence of social unfairness and commitment to the community」 東北大学文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」第4回東アジア若手研究者国際シンポジウム, 2010 .
- Hikichi, H. 「Social disparity and cooperation among community residents: Effect of sense of relative poverty and community commitment」 東北大学文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」ワークショップ, 2010 .
- Hikichi, H. 「Effect of local historical heritages on community commitment: history of glory and history of tragedy」 東北大学文学部 GCOE プログラム国際シンポジウム “Intergroup Conflict and Social Identity: Impact of History, Continuity and Stability of Group.” , 2010 .
- Hikichi, H., Ohbuchi, K., & Aoki. 「Effects of the perceived relative deprivation on community commitment and willingness to participate in community activities」 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2011.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K., & Aoki. 「Effects of local historical heritages of glorious or tragic past events on residents' community commitment」 Pre-Conference of 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (Group Processes & Intergroup Relationships), 2011.
- Kawabata, T., Muroki, T., Uchiyama, Y., Taya, K., & Ohbuchi, K. 「The Effect of Perspective Taking on Violent Crime」 第49回日本犯罪心理学会（於神戸国際会議場）, 2011.
- Kawabata, T. & Sugawara, M. 「Neuropsychology of Cooperativeness」 第12回ヨーロッパ心理学会（於イスタンブール）, 2011.
- Kawachi, Y., Kawabe, T., & Gyoba, J. 「Temporal window of colour-motion binding in the stream/bounce event perception」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Auditory modulation of an ambiguous motion sequence affects sequence affects the resolution of subsequent

- motion displays」 Second International Workshop on Kansei, (Fukuoka, Japan; March 6), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Two streams make a bounce: Induced motion reversal by crossing the trajectories of two motion sequences」 Vision Sciences Society 8th Annual Meeting, (Naples, Florida; May 10), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Temporal window of crossmodal interaction between multiple visual events and a single auditory tone」 Asia Pacific Conference on Vision, (Brisbane, Australia; July 19), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Crossmodal effects of a single auditory tone on multiple visual events」 31th European Conference on Visual Perception, (Utrecht, The Netherlands; August 25), 2008.
- Kawachi, Y., Matsue, Y., Shibata, M., Imaizumi, O., & Gyoba, J. 「Self-stimulated prepulse inhibition」 29th International Congress of Clinical Neurophysiology, 2010.
- Kawachi, Y., Shibata, M., Kawabata, H., Kitamura, M., & Gyoba, J. 「An fMRI study on temporal characteristics of crossmodal/unimodal bouncing effects」 11th International Multisensory Research Forum, 2010.
- Kawashima, M., Nomura, M., Hikima, R., Nagasaki, F. & Abe, T. 「The modern meaning of 'TOKIMEKI', the Japanese traditional word on the emotional state」 International Society for Research on Emotion, 2009.
- Kawashima, N. 「How do People Justify Social Inequalities? : An Examination of System Justification Theory with Japanese People」 The 3rd International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, 2009.
- Kawashima, N. 「Multidimensionality of social unfairness and social protests among Japanese」 Verbal presentation at the Lind Seminar for Young Social Scientists. 2009.
- Kawashima, N., Ohbuchi, K., Kumagai, T., Asai, N. 「Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of the immutability belief」 Poster presentation at The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Kawashima, N. 「Who feel a sense of unfairness? : The Relationship between Socioeconomic Status and Micro Unfairness in Japan」 Verbal presentation at the Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young

- Scholars in Asia, 2010.
- Kawashima, N. 「Effects of the perceptions of Japanese society on macro fairness」 The 9th Workshop in the Center for the Study of Social Stratification and Inequality, 2010.
- Kawashima, N. 「Social Inequalities and Psychological Well-being in Japan: The Effects of Micro and Macro Fairness」 Verbal presentation at the International Symposium “Social Inequality and Justification of It,” Tokyo, December 18th, 2010.
- Kawashima, N. & Ohbuchi, K. 「Micro fairness mediates the relationship between social inequalities and psychological well-being.」 Poster presentation at The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, San Antonio, January 28th, 2011.
- Kikuchi, F., Sato, T., Abe, T., & Nihei, Y. 「The effects of the deception as a result of varying contents concerning the possibility of occurrence on ratings of truthfulness and forgiveness」 29th International Congress of Psychology, (Berlin, Germany ; July 21), 2008.
- Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T. 「Is humor a better excuse than lies?」 Society for Applied Research on Memory and Cognition, 2009.
- Kikuchi, F., Sato, T., & Abe, T. 「The double-edged sword of humor: Humor perception as a key of tolerance for mistakes」 International Society for Research on Emotion, 2009.
- Kikuchi, F., Akita, Y., & Abe, T. 「Influence of olfactory cognition on the perceived effect of lip balm」 The 9th Meeting of the Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Konno, A., & Nihei, Y. 「Development of a temperament scale for dogs and cats: (2) A factor analysis and a cross-species comparison」 11th International Conference on Human-Animal Interactions, (Tokyo, Japan ; October 6-8), 2007.
- Kumagai, T. 「The effects of implicit self-esteem on moral dilemma」 15th General Meeting of the European Association for Experimental Social Psychology (Opatija, Croatia; June 13), 2008.
- Mori, T., Takahashi, M., Kanto, K. & Ohbuchi, K. 「Risk Assessment of Delinquents in Japanese Juvenile Classification Home」 Annual meetings of the American Society of Criminology, 2008.
- Mori, T., Takahashi, M., Kanto, K. & Ohbuchi, K. 「Predictive validity of Youth Level of

- Service/Case Management Inventory among Japanese juvenile population」 Annual meetings of the American Society of Criminology, San Francisco, 2010.
- Nakamata, T. 「The Tendency to approach and avoid the pleasant and unpleasant stimuli」 Tohoku University Global COE “International workshop for young researchers”, 2010.
- Nakamata, T. & Ohbuchi, K. 「Predispositions to approach and avoid the positive and negative stimuli.」 The 16th General Meeting of the European Association for Social Psychology, 2011.
- Sakurai, K, Shibata, M, Kubodera, T, & Ono, H. 「Enhanced predominance of motion-parallax stimuli under binocular rivalry.」 32th European Conference on Visual Perception, 2009.
- Sato, T., Kikuchi, F., & Nihei, Y. 「Linguistic cues for detecting deception: Morphological and content-based analysis」 The 8th Biennial Meeting of the Society for Applied Research in Memory & Cognition, 2009.
- Shibata, H. & Gyoba, J. 「Effects of loading a weight on the perceived limb length」 14th International Conference on Perception and Action, (Japan, Kanagawa; July 2-3), 2007.
- Shibata, H. & Gyoba, J. 「Event-related potentials elicited by processing the appropriateness of visually presented cooperative actions」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 30), 2007.
- Shibata, M, Kawachi, Y, & Gyoba, J. 「Combined effects of perceptual-grouping cues on object representations revealed by motion-induced blindness」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Effective spatial ranges for perceptual grouping cues in motion-induced blindness」 Asia Pacific Conference on Vision, (Brisbane, Australia; July 20), 2008.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Suppressed visual awareness can be recovered by sounds presented in the relevant locations」 31th European Conference on Visual Perception, (Utrecht, The Netherlands; August 27), 2008.
- Shibata, M, Kubodera, T, & Sakurai, K. 「Binocular rivalry between motion parallax stimuli in depth and motion stimuli yoked to lateral head movements」 Mini RIEC workshop on multimodal perception, 2009.
- Shibata, M., Yousuke., K, Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Latencies for

- the crossmodal release of motion-induced blindness」 11th International Multisensory Research Forum, 2010.
- Shojima, H., 「Community-Based Treatment of Juvenile Delinquents with Pervasive Developmental Disorders in Japan」 国際犯罪学会第16回世界大会, 神戸, 2011.
- Shojima, H., 「Psycho-therapeutic Rehabilitation Program for Juvenile delinquent in Japan」 第8回国際思春期青年期精神医学会議, Berlin, 2011.
- Suzuki, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Spatial memory bias effects in viewing preferred stimuli」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Suzuki, Y., & Gyoba, G. 「Selective modification of tactile roughness perception in terms of auditory stimuli」 8th International Multisensory Research Forum, (Sydney, Australia; July 5), 2007.
- Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Koizumi, M., Gyoba, J., & Hagiwara, H. 「An event-related potential study on semantic congruity during listening to Japanese sentences in children and adults」 13th Annual Conference on Architectures and Mechanisms for Language Processing, (Turku, Finland; August 24), 2007.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of task-irrelevant sounds on the tactile perception of roughness」 The 23rd Meeting of the International Society of Psychophysics, (Tokyo, Japan; October 20), 2007.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of Sounds on Tactile Roughness Depend on the Congruency between Modalities」 Third Joint Eurohaptics Conference and Symposium on Haptic Interface for Virtual Environment and Teleoperator Systems (World Haptics 2009), 2009.
- Suzuki, Y., Takahashi, J., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「An ERP Study on the Semantic Processing of Native Language in Children Enrolled in a Foreign Language Immersion Program」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, 2009.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Spatial factors influencing the sound effects on the tactile perception of roughness」 11th International Multisensory Research Forum, Liverpool, 2010.
- Takada, N. 「Forgiveness in Conflict Resolution: Recovery of justice by an audience」 International Symposium Forgiveness and Justice in Social Relations, (Sendai, Japan; March 24), 2007.

- Takada, N., Fukuno, M., & Soma, Y. 「Forgiveness in intragroup conflict: Discrepancy between Internal forgiveness and forgiving behavior」 Annual Conference of International Association for Conflict Management, (Budapest, Hungary; July 1), 2007.
- Takada, N. and Ohbuchi, K. 「Forgiveness between China and Japan: The Effect of Categorical Level on Chinese Forgiveness toward Japanese」 The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, 2009.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language activities on the semantic processing of native language in preschool children」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, 2009.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「Visual preference modulates the spatial location memory of visual patterns」 8th Tsukuba International Conference on Memory, 2010.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., and Gyoba, J. 「Encoding-efficiency of visual pattern modulates the audio-visual interaction in repetition blindness」 11th International Multisensory Research Forum, 2010.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The capacity of visual short-term memory for expanding and contracting objects」 15th annual meeting of the ASSC (Association for the Scientific Study of Consciousness), 2011.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., and Gyoba, J. 「Repetition blindness modulated by objects' encoding-efficiency」 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「An ERP study on the semantic processing of native language in preschoolers: The effects of development and non-native language exposure」 Tohoku International Symposium on Multidisciplinary Neuroscience, 2011.
- Takahashi, M. & Mori, M. 「The actuarial and clinical predictors of recidivism using YLS/CMI in a sample of Japanese juvenile offenders」 Annual meetings of the American Society of Criminology, San Francisco, 2010.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Louder sounds make objects ' apparent sizes larger」 The 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.

- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The effect of auditory stimuli on visual size perception」
The 15th Annual Meeting of The Association for the Scientific Study of
Consciousness, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The occurrence rate of the fission illusion differs depending
on the complexity of visual stimuli」 The 12th International Multisensory Research
Forum, 2011.
- Tamura, T., & Ohbuchi, K. 「The moderating effect of rationality of aggression between
dehumanizing labels and aggression」 The Society for Personality and Social
Psychology 8th Annual Meeting, (Memphis, Tennessee, 1月27日), 2007.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Sound can enhance visual
representational momentum」 IMRF 2008 (Hamburg, Germany; July 16), 2008
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Dynamic auditory cues modulate
visual motion processing」 ECVP 2008 (Utrecht, the Netherlands; August, 26),
2008
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Completion of a visual motion
representation by auditory information」 International Multisensory Forum, 2009.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Intra- and inter-modal
completion of a visual motion representation」 European Conference on Visual
Perception, 2009.
- Tsurumaki, M. 「Teaching Handwriting of Chinese Characters to Children with ADHD」
Association for Behavior Analysis International, 33rd Annual ABA Convention,
International Symposium, (San Diego, USA; May 26), 2007.
- Wiwattanapantuwong, J. & Abe, T. 「Psychological Impact on Natural Disaster
Preparation: A Cross-Country Comparison between Thai and Japanese Citizen (The
Preliminary Study)」 The 3rd Thailand-Japan International Academic Conference,
2010.
- Wiwattanapantuwong, J. & Abe, T. 「The Role of Emotions in Disaster Preparation: A
Cross-Country Comparison between Japan and Thailand」 International Society for
Research on Emotion, 2011.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism
on Women's task Performance.」 The 11th Annual Conference of Society for
Personality and Social Psychology, 2010.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Benevolent sexism: Do women expect it?」 GCOE

- International Symposium: Inequality, Discrimination and Social Identity, 2010.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「The Effect of Women's Social Status on the Attitude toward Benevolent Sexism」 The Thirteenth Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2011.

(国内学会)

- 荒木 剛・佐藤 拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係」 日本認知療法学会第9回大会・日本行動療法学会第35回大会, 2009.
- 荒木 剛・佐藤 拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係(2)」 日本心理学会第74回大会, 2010.
- 渥美恵美・稲垣成昭・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能実習事前教育プログラムに関する研究—社会的交流技能自己評価(SA)尺度 Ver2 の因子分析—」 第41回日本作業療法学会(鹿児島市民文化ホール, 6月23日) 2007.
- 渥美恵美・稲垣成昭・勅使河原麻衣・高橋千賀子 「作業療法学生の社会的交流技能養成教育プログラムの開発に向けて: 試行的実施」 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会第20回教育研究大会 (ホテル東京ガーデンパレス, 8月24日), 2007.
- 渥美恵美・大淵憲一・稲垣成昭・勅使河原麻衣 「作業療法学生の社会的交流技能に対する臨床実習の効果」第42回日本作業療法学会(長崎県立総合体育館, 6月21日), 2008.
- 渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣・稲垣成昭. 「作業療法学生の社会的交流技能に対する臨床実習効果に関する研究—評価技術実習と総合実習での比較—」 第43回日本作業療法学会, 2009.
- 渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣「臨床実習の指導者評価に対する社会的交流技能の効果の検討」 第45回日本作業療法学会, 2011.
- 遠藤光男 「検出と基礎レベルの分類における顔認識過程の特性」 日本心理学会第75回大会, 2011.
- 福光優一郎・鈴木結花・柴田 寛・小泉政利・行場次朗・萩原裕子「意味および統語処理に関する幼児と成人の事象関連電位の比較」 第4回日本子ども学会議(慶応大学, 9月15, 16日), 2007
- 船木真悟 「自己愛と攻撃行動に関する研究—ソーシャルサポートの調整効果に注目して—」 東北心理学会第62回大会(東北大学, 7月20日), 2008

- 古畑麻紗子・上原俊介 「手続き的公正と提案の信憑性が裁判員の主観的量刑判断に及ぼす影響：体制正当化信念に注目して」 日本法と心理学会第9回大会（南山大学，10月18日），2008.
- 濱口 佳和・三浦 秀徳・森 丈弓 「高校生の能動的・反応的攻撃性と関係性挑発場面における社会的情報処理ならびに応答的行動との関連（1）」 日本犯罪心理学会第46回大会,2008.
- 日高聡太・河地庸介・行場次朗 「仮現運動中の3次元物体表象が保持する奥行情報の検討」 日本認知心理学会第5回大会（京都大学，5月26日），2007
- 日高聡太・行場次朗 「運動物体表象の更新（Object updating）は特徴ベースか表面ベースか？」 東北心理学会第61回大会（岩手大学，9月7日），2007
- 日高聡太・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「成人と幼児を対象とした母語_非母語発話刺激聴取時におけるNIRSを用いた脳活動測定」 日本心理学会第71回大会（東洋大学，9月18日），2007
- 日高聡太・行場次朗 「ワークショップ：国内における実験心理学機器のアーカイブ化の現状と問題点」（話題提供者） 日本心理学会第72回大会（北海道大学，9月19日），2008
- 日高聡太・宮内良太・行場次朗・鈴木陽一・岩谷幸雄 「聴覚運動手がかりによって駆動される視覚運動知覚」 日本心理学会第72回大会（北海道大学，9月20日），2008
- 日高聡太・永井聖剛・行場次朗 「時空間的な逆行を含む事態における仮現運動知覚の検討」 日本視覚学会2008年冬季大会（工学院大学，1月23日），2008
- 日高聡太・永井聖剛・行場次朗 「運動系列が逆行する事態で生じる時空間一貫性のある仮現運動知覚」 日本認知心理学会第6回大会（千葉大学，5月31日），2008
- 日高聡太・永井聖剛・行場次朗 「静止刺激の一過的な消失によって駆動される運動知覚」 東北心理学会第62回大会（東北大学，7月19日），2008
- 日高聡太・寺本渉・行場次朗・鈴木陽一 「聴覚刺激によって変容する視覚運動刺激の視覚的痕跡（Visible persistence）」 日本基礎心理学会第27回大会（東北大学，12月），2008
- 日高聡太・寺本渉・行場次朗・鈴木陽一 「視覚運動物体の視覚的持続（Visible persistence）に聴覚情報変化が及ぼす影響」 電子通信情報学会ヒューマン情報処理研究会, 2008.

- 日高聡太・永井聖剛・行場次朗. 「仮現運動刺激が一時的に消失する静止刺激に駆動する運動知覚」 日本視覚学会 2009 年冬季大会, 2009.
- 日高聡太・宮内良太・寺本渉・行場次朗・鈴木陽一・岩谷幸雄. 「聴覚運動手がかりによって駆動される静止視覚刺激の運動」 日本バーチャルリアリティ学会 V R 心理学研究委員会第 13 回研究会, 2009.
- 日高聡太. 「仮現運動軌道上での運動物体表象の時空間補完」 日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル(P&P)」研究分科会第 1 回研究会, 2009.
- 日高聡太・寺本 渉・行場次朗・鈴木陽一. 「聴覚情報変化によって生じる視覚運動刺激の視覚的持続 (Visible persistence) の変容」 多感覚研究会, 2009.
- 日高聡太・永井聖剛・Allison B. Sekuler・Patrick J. Bennett・行場次朗. 「仮現運動軌道上で生じる輝度検出の抑制」 日本基礎心理学会第 28 回大会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一 「地域に対する愛着と協力：コミットメントと連帯感の効果」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手大学, 9 月 6 日), 2007.
- 引地博之・青木俊明・大淵憲一 「地域に対する協力行動の要因：地域に対する評価と愛着の効果」 日本社会心理学会第 48 回大会 (早稲田大学, 9 月 22 日), 2007.
- 引地博之, 大淵憲一：居住地に対する協力行動の促進要因：居住地への愛着と集団志向性の効果, 東北心理学会第 62 回大会,(東北大学, 7 月 20 日), 2008.
- 引地博之・大淵憲一. 「歴史資産の熟知度が地域コミットメント形成に与える効果」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「居住地における協力行動の促進要因：歴史資産と愛着の効果」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「居住地における協力行動の促進—歴史資産と地域コミットメントの効果—」 日本社会心理学会第 50 回大会, 2009.
- 引地博之・青木俊明・大淵憲一. 「居住地における協力行動の促進—歴史資産の熟知度と地域コミットメントの効果—」 第 40 回土木計画学研究発表会, 2009.
- 引地博之. 「地域活動に対する協力の促進 - 地域コミットメントの効果とその形成機構 - 」 環境心理学研究会, 2009.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「格差社会における地域内協力の形成機構—地域コミットメントと相対的貧困感の効果—」 日本応用心理学会第 77 回大会, 2010.
- 引地博之・大淵憲一・青木俊明. 「歴史資産による地域コミットメントの形成 - 栄誉の歴史と悲劇の歴史 - 」 日本社会心理学会第 51 回大会, 2010.

- 引地博之・大淵憲一 「物質主義傾向の要因とそれが相対的剥奪感に与える効果」
日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 本多明生・柴田寛・日高聡太・行場次朗・岩谷幸雄・鈴木陽一 「頭部運動なら
びにフィードバックが音源定位学習に及ぼす影響」 第 348 回音響工学研究
会（東北大学, 7 月 26 日）, 2007
- 本多明生・柴田寛・日高聡太・行場次朗・岩谷幸雄・鈴木陽一 「音源定位学習
におけるフィードバック効果」 日本バーチャルリアリティ学会第 12 回大会
（九州大学, 9 月 21 日）, 2007
- 本多明生・柴田寛・日高聡太・行場次朗・岩谷幸雄・鈴木陽一 「音源定位学習
における頭部運動とフィードバックの効果」 HIP2007（東北大学, 12 月 6
日）, 2007
- 池田和浩・仁平義明 「主観的視点による物語の想起が後の記憶課題に及ぼす影
響」 認知心理学会第 5 回大会（京都大学, 5 月 27 日）, 2007
- 池田和浩・仁平義明 「物語の転換的語り直しがその後の記憶に与える影響」 東
北心理学会第 61 回大会（岩手大学, 9 月 7 日）, 2007
- 池田和浩・仁平義明 「転換的語り直しがストーリーの記憶に与える影響」 認
知心理学会第 6 回大会（千葉大学, 5 月 31 日）, 2008
- 池田和浩・仁平義明 「転換的語り直しがストーリーの記憶に与える影響—物語
全体としての出来事の感情価と語りの中に現れた感情表現の関連性—」 第
72 回日本心理学会（北海道大学, 9 月 19 日）, 2008
- 稲垣成昭・渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能実習事前教育
プログラムに関する研究 - 学生の自己評価と性格要因の検討—」 第 41 回日
本作業療法学会（鹿児島市民文化ホール, 6 月 23 日）, 2007.
- 稲垣成昭・渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能実習事前教育
プログラムに関する研究 - 学生自己評価 (SA 尺度 Ver2) と実習指導者評定の
関係—」 第 41 回日本作業療法学会（鹿児島市民文化ホール, 6 月 23 日）,
2007.
- 井上英治・松川亮太・今野晃嗣・Alexander Weiss・吉原正人・島原直樹・伊藤慎一・
村山美穂. 「動物園におけるチンパンジーの性格評定および遺伝子型との関
連解析 - 予報 -」. SAGA10 in Tokyo（恩賜上野動物公園, 11 月 17 日）, 2007
- 岩谷美奈・鶴巻正子. 「発達障害児に対する「相手から情報を得る」スキルの
指導」 日本行動分析学会第 27 回年次大会, 2009.
- 岩谷美奈・鶴巻正子. 「発達障害のある幼児に対するソーシャルスキル・トレ

- ーニング - 「順番を守る」スキルの獲得を目指して - 」 日本自閉症スペクトラム学会第 8 回大会, 2009 .
- 岩谷美奈・鶴巻正子 . 「発達障害のある就学前幼児に指導が必要なソーシャルスキル - 教員を対象としたアンケート調査から - 」 日本行動分析学会第 27 回年次大会, 2009 .
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「触る位置で面の粗さ知覚が変わる？」第 2 回多感覚研究会, 2010.
- 柿崎星哉・鈴木結花・行場次朗 「粗さの触知覚における頭部近傍面の優位性」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会, 2011.
- 神田敬幸・本多明生・柴田寛・浅井暢子・寺本渉・坂本修一・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「視聴覚コンテンツにおける臨場感・迫真性の規定因」 第 16 回日本バーチャルリアリティ学会大会, 2011.
- 柏瀬啓起・河地庸介 「両安定性透明視図形を用いた自発的な注意状態の変化の検討」 日本視覚学会 2007 年夏季大会(豊橋技術科学大学, 7 月 23 日), 2007 .
- 加藤ちあき・阿部恒之. 「学生生活における気晴らしに関する心理学的研究」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 加藤ちあき・阿部恒之. 「携帯型ゲームの生理心理学的効果」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 川畑秀明・河地庸介・鈴木美穂・柴田理瑛・行場次朗 「俳句印象の心理的構造と脳活動の対応」電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会(東北大学, 10 月 23 日), 2008.
- 河地庸介・行場次朗 「主観的に消失した物体の offset による運動誘発盲からの解放」 東北心理学会第 61 回大会(岩手大学, 9 月 7 日), 2007.
- 河地庸介・行場次朗 「主観的に消失した物体の物理的消去が解放する運動誘発盲」 日本基礎心理学会第 26 回大会(上智大学, 12 月 8 日), 2007.
- 河地庸介・Philip M. Grove・櫻井研三・行場次朗 「2 つの通過事象の軌道直交に誘引される反発知覚」 日本視覚学会 2008 年冬季大会(工学院大学, 1 月 23 日), 2008.
- 河地庸介・Philip M. Grove・櫻井研三・行場次朗 「多重通過・反発刺激による二重結合問題」 日本心理学会第 72 回大会(北海道大学, 9 月 19 日), 2008.
- 河地庸介・鈴木美穂・柴田理瑛・川畑秀明・行場次朗 「絵画印象の心理的構造と脳活動の対応」電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会(東北大学, 10 月 23 日), 2008.

- 河地庸介・柴田理瑛・川畑秀明・北村美穂・行場次朗. 「通過・反発事象の知覚をもたらず視聴覚情報統合における事前的・事後的側面の心理脳科学的解明」日本基礎心理学会第 27 回大会, 2008.
- 河地庸介・柴田理瑛・今泉 修・行場次朗・松江克彦 「知覚的消失現象におけるセルフアウェアネス」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 河地庸介・柴田理瑛・今泉 修・行場次朗・松江克彦. 「消失事象を主観的なものであると混同させる刺激要因の検討」 日本基礎心理学会第 28 回大会, 2009.
- 川嶋伸佳・大淵憲一 「識別性欲求が社会的行動に与える効果」 日本社会心理学会第 48 回大会 (早稲田大学, 9月22日), 2007.
- 川嶋伸佳・大淵憲一 「識別性脅威および充足が感情に及ぼす影響」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手大学, 9月6日), 2007.
- 川嶋伸佳・Tin Aung Moe・大淵憲一 「現代日本人の価値観：2つの国不変信念が抗議行動に及ぼす効果」 東北心理学会第 62 回大会(東北大学, 7月20日), 2008.
- 川嶋伸佳. 「社会的不公正の正当化方略：日本における体制正当化理論の検証」 東北大学 GCOE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」公正部門ワークショップ, 2008.
- Kawashima, N. 「How do people justify social inequalities?: An examination of system justification hypothesis with Japanese people」 The 13th Workshop in the Center for the Study of Social Stratification and Inequality, 2008.
- 川嶋伸佳・佐藤若菜. 「血液型性格判断に対する肯定的態度と偏見」 日本社会心理学会第 49 回大会, 2008.
- 川嶋伸佳・佐藤若菜 「血液型性格判断に対する肯定的態度と偏見」 日本社会心理学会第 49 回大会 (かごしま県民交流センター, 11月), 2008.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・佐藤嘉倫. 「日本における社会的不平等の正当化方略：体制正当化理論の検証」 日本心理学会 73 回大会, 2009.
- Kawashima, N. 「Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of social-economic and social psychological variables」 Tohoku-Stanford Summer School, 2009.
- Kawashima, N. 「Determinants of social protests: Perceptions of social and personal fairness, the immutability belief of and self efficacy for the society, and costs of protest」 The 8th Workshop in the Center for the Study of Social Stratification and

Inequality, 2009.

川嶋伸佳 . 「日本における不平等の正当化方略：体制正当化理論の検証」 「科学技術と日本人の価値意識」研究ワークショップ, 2009.

Kawashima, N. 「Justification of social inequalities in Japan: An examination of system justification theory」 The Hewstone Seminar for Young Social Scientists, 2009.

川嶋伸佳・熊谷智博・浅井暢子・大淵憲一 . 「抗議行動の規定因：不公正感、社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」 日本社会心理学会第 50 回大会 日本グループダイナミクス学会第 56 回大会合同大会, 2009.

川嶋伸佳 . 「低階層者における社会的な不平等の合理化機構：不平等への敏感さの効果」 科学技術と日本人の価値意識第 2 回研究ワークショップ, 2010 .

川嶋伸佳 . 「格差と公正感：社会的な不平等維持メカニズムの検討」 第 2 回公正研究会, 2010 .

川嶋伸佳 . 「多元的公正感の要因：階層モデルと集団価値モデルの複合的效果」 社会的葛藤研究会第 1 回ワークショップ, 2010.

川嶋伸佳・大淵憲一 . 「社会的な不平等と社会に対する知覚の関係」東北心理学会第 64 回大会, 2010.

川嶋伸佳・大淵憲一 . 「日本における不平等の合理化機構：社会に対する信念がマクロ公正感に及ぼす効果」 日本社会心理学会第 51 回大会, 2010.

川嶋伸佳 . 「ミクロ公正感の要因：社会的経済的地位と不公正への敏感さの効果」 法と心理学会第 11 回大会, 2010.

川嶋伸佳 . 「社会経済的地位に対する認知とミクロ公正感」若手研究者のための公正研究ワークショップ, 2011.

川嶋伸佳・大淵憲一 . 「階層帰属意識とミクロ公正感」日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.

川嶋伸佳 . 「社会的な不平等とミクロ公正感：公正関心の多様性の基づく検討」日本社会心理学会第 52 回大会ワークショップ「『関係性』に注目した公正概念の検討—手続きなのか人間関係なのか—」, 2011.

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 . 「生起確率操作によるウソの検討—“真実性”と“許容性”」 日本感情心理学会第 15 回大会（大阪学院大学，5 月 20 日）, 2007

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 . 「生起確率操作によるウソの検討—ウソをつかれるときの信じることと赦すこと」 日本認知心理学会第 5 回大会（京都大学，5 月 26 日）, 2007

- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「日常生活における利己的・利他的動機に基づくウソ」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学，9 月 6 日），2007
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討—信じさせることと赦してもらうこと」 日本心理学会第 71 回大会（東洋大学，9 月 18 日），2007
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之 「利他的なウソが自己と他者の感情評価に及ぼす影響」 日本感情心理学会第 16 回大会（吾妻女子大学，5 月 18 日），2008.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之 「強調語が利他的ウソの社会的機能に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 6 回大会（千葉大学，6 月 1 日），2008.
- 菊地史倫・阿部恒之・庄司 耀・樋口貴弘 「基本精油がもたらすストレス緩和効果の生理心理学的検討」 日本生理心理学会第 26 回大会（琉球大学，7 月 6 日），2008.
- 菊地史倫・庄司 耀・阿部恒之 「モラルと感情に関する探索的研究—新聞記事「モラルを問う」への投書内容の検討—」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大学，9 月 21 日），2008.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之. 「ユーモア知覚が過失に対する寛容さに及ぼす影響」 日本感情心理学会第 17 回大会, 2009.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之. 「他者との関係維持方略としてのウソ」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 菊地史倫・庄司 耀・阿部恒之. 「嗅覚の単純接触効果□睡眠中の嗅覚刺激呈示が嗜好に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 7 回大会, 2009.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之. 「ユーモアによる過失の言い訳—笑い反応の表示効果」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 菊地史倫・庄司 耀・阿部恒之. 「嗅覚の単純接触効果—ジャスミン・ローズの睡眠中呈示が嗜好に及ぼす影響—」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 菊地史倫・佐藤 拓. 「嘘つきの代償—嘘の露見が弁解の効能に与える影響—」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之. 「ユーモア受入の余地—他者との関係性・状況の影響—」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 菊地史倫・佐藤 拓・阿部恒之. 「嘘の誤算—嘘の露見が弁解の効能に与える影響—」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.
- 小嶋かおり・大淵憲一. 「葛藤時の子どもの行動に対する親の原因帰属」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.

- 小嶋かおり・大淵憲一 「対立者の動機推測と対人葛藤方略」 社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 今野晃嗣・仁平義明 「飼い主の評定によるイヌとネコの気質尺度の開発」 日本認知心理学会第 5 回大会 (京都大学, 5 月 26 日), 2007.
- 今野晃嗣・仁平義明 「飼育下ニホンザル *Macaca fuscata* の気質測定」 東北心理学会第 61 回大会(岩手ホテルアンドリゾート盛岡グランドホテル, 9 月 7 日), 2007.
- 今野晃嗣・日高聡太・丸山俊・柴田寛・栗原通世・田中章浩・藤本茉莉・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「母語と非母語の物語聴取時における脳活動の NIRS による測定 —成人と幼児の比較—」 第 4 回子ども学会議 (日本子ども学会学術集会) (慶應義塾大学, 9 月 15-16 日), 2007.
- 今野晃嗣・仁平義明 「イヌ(*Canis familiaris*)とネコ(*Felis catus*)の気質評定尺度の開発 (1) : 13 次元尺度の信頼性と気質タイプ」 日本心理学会第 71 回大会 (東洋大学, 9 月 19 日), 2007.
- 今野晃嗣・村山美穂・友永雅己・仁平義明 「動物園で暮らすニホンザル *Macaca fuscata* のパーソナリティ測定」 SAGA10 in Tokyo (恩賜上野動物公園, 11 月 17 日), 2007
- 今野晃嗣・丸山 俊・日高聡太・田中章浩・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「英語活動経験が英語音素対聴取時における幼児の脳活動に及ぼす影響: NIRS による検討」 電子情報通信学会・思考と言語研究会 (鬼首, 8 月 8 日), 2008
- 今野晃嗣・仁平義明 「動物恐怖の獲得とその修正過程に関する調査」 東北心理学会第 62 回大会 (東北大学, 7 月 20 日), 2008
- 今野晃嗣・仁平義明 「イヌ恐怖とネコ恐怖の比較」 日本心理学会第 72 回大会 (北海道大学, 9 月 19 日), 2008
- 今野晃嗣・早坂正美・村山美穂・友永雅己・仁平義明 「ニホンザルの『性格』展示 —動物園来園者の行動変化—」 SAGA11 (Support for African/Asian Great Apes) in Tokyo, 2008.
- 李佳容・阿部恒之 「日台の化粧習慣と美容意識」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会, 2011.
- 李佳容・阿部恒之 「化粧意識についての日台比較 半構造化面接を中心に」 日本感情心理学会第 19 回大会・日本パーソナリティ心理学会第 20 回大会合同大会, 2011.
- 中俣友子・大淵憲一 「快・不快表情に対する接近回避反応」 北海道心理学会・

- 東北心理学会合同第 11 回大会 (兼 北海道心理学会第 58 回大会、東北心理学会第 65 回大会) 2011.
- 中俣友子 「中学生の友人関係における怒り表出に関する研究—日本とオーストラリアの比較—」日本心理学会第 75 回大会, 2011.
- 小山香織・大淵憲一 「E メール相互作用の時間特性：印象形成における反応潜時の役割」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手大学, 9 月 7 日), 2007
- 熊谷智博 「公正判断に対する道德ジレンマと潜在的自尊心の効果」 日本社会心理学会第 48 回大会ワークショップ 公正研究の理論的展開と展望 (早稲田大学, 9 月 22 日), 2007
- 磯部志保里・行場次朗. 「静止した誘導刺激による視覚的消失現象の分析」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 岩淵絵里・上原俊介. 「拒絶の敏感さは関係構築反応を促進するか？」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 丸山 俊・河地庸介・行場次朗 「単眼奥行き手がかりの時間的特性についての検討」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手ホテルアンドリゾート盛岡グランドホテル, 9 月 7 日), 2007
- 丸山 俊・河地庸介・行場次朗 「絵画的奥行き手がかりの時間的特性に関する検討 —マスクパターンの効果—」 東北心理学会第 62 回大会 (東北大学, 7 月 19 日), 2008
- 丸山 俊・今野晃嗣・日高聡太・柴田 寛・栗原通世・田中章浩・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「英語活動経験が物語聴取時における幼児の脳活動に及ぼす影響—NIRS による検討—」 電子情報通信学会・思考と言語研究会 (鬼首, 8 月 8 日), 2008
- 丸山 俊・今野晃嗣・日高聡太・柴田 寛・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「母語と非母語の物語聴取時における脳活動の NIRS による測定—幼児の英語活動経験の観点から—」 日本心理学会第 72 回大会 (北海道大学, 9 月 19 日), 2008.
- 丸山 俊・河地庸介・行場次朗 「絵画的奥行き手がかりの時間的実行範囲」 日本基礎心理学会第 27 回大会, 2008.
- 松崎博文・昼田源四郎・鶴巻正子 「発達障害幼児の保護者支援の在り方と課題 - 福島大学「つばさ教室」でのペアレント・トレーニングの取り組みから - 」 第 26 回日本教育大学協会全国特殊教育部門合同研修会熊本大会年 (熊本大学, 11 月 22 日), 2007.

- 三浦 秀徳・濱口 佳和・森 丈弓 「青年の能動的・反動的攻撃性に関する研究（２）」 日本犯罪心理学会第 46 回大会,2008 .
- 森 丈弓・大淵憲一 「非行少年用リスクツールの作成」 日本心理学会第 71 回大会（東洋大学，9 月），2007.
- 森 丈弓・三浦秀徳 「日本語版低自己統制尺度の信頼性と妥当性の検証」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学，9 月），2007.
- 森 丈弓・大淵憲一 「3G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント」 日本犯罪心理学会第 45 回大会（福島大学，9 月），2007.
- 森 丈弓・小坂 清文・中村 隆・市川 守・島田 貴仁． 「シンポジウム 犯罪・非行の計量分析」 日本犯罪心理学会第 46 回大会, 2008 .
- 森 丈弓・菅藤 健一・高橋 哲・丸山 もゆる・相澤 優・石黒 裕子・内山八重・小野 広明・吉澤 淳・大淵 憲一． 「3G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント（２）」 日本犯罪心理学会第 46 回大会, 2008 .
- 森 丈弓・菅藤 健一・高橋 哲・丸山 もゆる・相澤 優・石黒 裕子・内山八重・小野 広明・吉澤 淳・大淵 憲一． 「3G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント(3).」 日本犯罪心理学会第 74 回大会 沖縄国際大学, 2009.
- 森 丈弓・高橋 哲・菅藤健一・丸山もゆる・相澤 優・石黒裕子・内山八重・小野広明・吉澤 淳・大淵憲一． 「3G リスクツールによる非行少年のリスクアセスメント(4)」 日本犯罪心理学会第 75 回大会 目白大学, 2010.
- 村田朱音・鶴巻正子・仁平義明 「自閉傾向のある児童への包括的な学級支援 - 授業を阻害する発言に対する担任の働きかけ - 」 日本自閉症スペクトラム学会第 7 回研究大会（東北大学，9 月 13 日），2008
- 長崎芙美・上原俊介・大淵憲一 「親密な人間関係と嫉妬：拒絶の敏感さが嫉妬反応に及ぼす影響」 東北心理学会第 62 回大会（東北大学，7 月 20 日），2008
- 長崎芙美・上原俊介・大淵憲一 「親密な人間関係と嫉妬—拒絶の敏感さが嫉妬反応に及ぼす影響—」 日本社会心理学会第 49 回大会（鹿児島大学，11 月 2 日），2008
- 長崎芙美・河島三幸・野村美佳・阿部恒之． 「『ときめき』という心理現象の実態把握—対象と生理反応の自覚を中心に—」 日本社会心理学会第 73 回大会, 2009.
- 中川知宏・仲本尚史・國吉真弥・森丈弓・山入端津由・大淵憲一 「個人および集団差別と集団境界透過性が非行集団への同一化に及ぼす効果」 日本犯罪心

- 理学会第 46 回大会, 2008.
- 中川知宏・仲本尚史・國吉真弥・森丈弓・山入端津由・大淵憲一. 「非行集団の組織性が集団同一化に及ぼす効果□集団境界透過性の調整効果□」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 朴 香花・鶴巻正子. 「機能的アセスメントに基づき幼稚園の担任と一緒に作る行動支援計画」 日本行動分析学会第 27 回年次大会, 2009.
- 朴 香花・鶴巻正子. 「自閉症幼児に対する機能的アセスメントを用いた個別の指導計画の作成」 日本自閉症スペクトラム学会第 8 回大会, 2009.
- 朴 香花・鶴巻正子. 「幼稚園における個別の指導計画の作成状況 - 福島県内の幼稚園を対象とした質問紙調査の結果分析 - 」 日本特殊教育学会第 47 回大会, 2009.
- 大坂紘子・高橋知久・小谷佐知・澤村岳人 「うつ病入院患者の職場復帰事例—心理士による関わり」 第 53 回防衛衛生学会（陸上自衛隊三宿駐屯地衛生学校, 2月6日）2008.
- 大坂紘子・阿部眞理子・高橋知久・小谷佐知・宇都宮勝之 「職場、家族、病院を含めた調整を行った心因性嘔吐の一例—心理士の関わり—」 第 47 回防衛衛生学会（小牧グランドホテル, 2月14日）2008.
- 齋藤高史・大淵憲一. 「葛藤回避と集合的勘違い：社会的調和に基づく価値との関連」 科学技術と日本人の価値意識研究ワークショップ, 2009.
- 齋藤高史・大淵憲一. 「日本人の葛藤回避における性差：親密性に注目して」 日本社会心理学会第 51 回大会, 2010.
- 齋藤高史・大淵憲一・川嶋伸佳. 「日本人における社会的調和」. 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 齋藤高史. 「日本人における社会的調和価値：抗議行動と政治的コミュニケーションとの関連」 社会的葛藤研究会第 1 回ワークショップ, 2010.
- 齋藤高史. 「日本人の葛藤回避と社会的調和価値：葛藤回避の抑制メカニズムを探る」 科学技術と日本人の価値意識第 2 回研究ワークショップ, 2010.
- 齋藤高史・山本雄大・大淵憲一. 「携帯メールの即返行動：集合的勘違いか？」 日本社会心理学会第 52 回大会, 名古屋大学, 2011.
- 齋藤高史. 「集合的勘違いが携帯メールの即返行動を促進するのか？」 社会的葛藤研究会第 2 回ワークショップ, 岩手県立大学, 2011.
- 櫻井研三・鈴木結花・坂本修一・行場次朗・鈴木陽一 「視覚と前庭覚のクロスモーダルな随伴性残効について」 電子情報通信学会（ヒューマン情報処理

- 研究会), 2010.
- 佐藤智穂・阿部恒之 「メーキャップが顔の知覚に及ぼす影響」 東北心理学会
第 62 回大会 (東北大学, 7月 20 日) 2008.
- 佐藤智穂・阿部恒之 「アイシャドーが目の大きさ知覚に及ぼす影響」 第 13 回
日本顔学会大会 (東京大学, 10月 11 日) 2008.
- 佐藤潤美・山本雄大・大淵憲一 「シングリズム: 独身者差別は存在するか?」
日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- 佐藤 拓・仁平義明・菊地史倫 「ウソの手がかりの信念に対する性格特徴の影
響」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手大学, 9月 7 日), 2007
- 佐藤 拓・仁平義明 「ウソの手がかりに関する信念の男女差」 日本心理学会
第 71 回大会 (中京大学, 9月 18 日), 2007.
- 佐藤 拓・仁平義明 言語からの虚偽検出: 形態素解析と CBCA の判別力の比較」
日本認知心理学会第 6 回大会 (千葉大学, 6月 1 日) 2008.
- 佐藤 拓・仁平義明 「嘘のリバイズ: 真実らしく見せるためのストラテジー」
東北心理学会第 62 回大会 (東北大学, 7月 19 日) 2008 .
- 佐藤 拓・仁平義明 「自閉症スペクトラム傾向と被害妄想的観念の関連性」日
本自閉症スペクトラム学会第 7 回大会 (東北大学 9月 13 日) 2008.
- 佐藤 拓・仁平義明 「嘘のリバイズ: 練られた嘘は見抜くことは可能か?」 日
本心理学会第 72 回大会 (北海道大学, 9月 21 日) 2008.
- 佐藤 拓・仁平義明. 「消防士の高所恐怖」 日本感情心理学会第 17 回大会, 2009.
- 佐藤 拓・山本佳子・富田 香. 「回復力共有体験によるメンタルヘルスへの影響」
日本学生相談学会第 27 回大会, 2009.
- 佐藤 拓・兼田康宏・住吉チカ・住吉太幹・曾良一郎. 「Measurement and Treatment
Research to Improve Cognition in Schizophrenia (MATRICS) 検査バッテリー日
本語版の開発」 第 19 回日本臨床精神神経薬理学会・第 39 回日本神経精神
薬理学会 合同年会, 2009 年 .
- 柴田 寛・行場次朗 「二者間の協同動作の適切さを評定しているときの事象関
連電位」 日本認知心理学会第 5 回大会 (京都大学, 5月 27 日), 2007
- 柴田 寛・行場次朗 「他者から手渡された物体を受け取る動作の適切さの検討」
電子情報通信学会 HIP 研究会 (金沢工業大学, 11月 19 日), 2007
- 柴田 寛・日高聡太・行場次朗・今泉 修・松江克彦 「二者間の協同動作を観
察する視点と適切さ評価に關与する脳内基盤」 日本認知心理学会第 6 回大
会 (千葉大学, 5月 31 日), 2008

- 柴田 寛・日高聡太・行場次朗・今泉 修・松江克彦 「手渡された物体を受け取る動作の適切さと観察視点がの活動に及ぼす影響—NIRS を用いた検討—」 東北心理学会第 62 回大会（東北大学，7 月 20 日），2008
- 柴田 寛・日高聡太・行場次朗・今泉 修・松江克彦 「自己もしくは他者が動作を協調させるときの脳活動—fMRI と NIRS による検討—」 日本感性福祉学会第 8 回大会, 2008.
- 柴田寛・乾敏郎・小川健二 「社会的な文脈で行われる手の動作の理解における下前頭回の役割」 第 34 回日本神経科学大会, 2011.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「近接・閉合の要因が物体単一性に及ぼす影響—motion-induced blindness を指標として—」 日本視覚学会（東京工業大学，1 月 31 日），2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「物体の知覚的消失に及ぼす知覚的群化要因の相互作用に関する定量的検討」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学，9 月 7 日），2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「Motion-induced blindness を用いた近接・閉合手がかりが物体表象に及ぼす 相互作用の定量的検討」 ヒューマン情報処理研究会（東北大学, 12 月 6 日），2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・行場次朗 「物体の知覚的消失に及ぼす近接・閉合の手がかりの実効範囲の検討」 日本基礎心理学会第 26 回大会（上智大学，12 月 8 日），2007.
- 柴田理瑛・河地庸介・矢入 聡・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「運動誘発盲により消失した視覚意識を復活させる短バースト音」 応用音響研究会（東北大学, 8 月 4 日），2008.
- 柴田理瑛・河地庸介・矢入 聡・行場次朗 「消失した視覚意識を回復させる聴覚情報の効果と視聴覚相互作用の水準」 日本基礎心理学会第 27 回大会, 2008.
- 柴田理瑛・久保寺俊朗・櫻井研三 「側方頭部運動に連動した運動刺激と運動視差奥行刺激との視野闘争」 第 13 回 VR 心理学研究会, 2009.
- 柴田理瑛・行場次朗 「ターゲットの運動方向が運動誘発盲における知覚的消失に及ぼす影響」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 柴田理瑛・河地庸介・矢入 聡・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一 「運動誘発盲により主観的に消失した標的の知覚を即座に回復させる音の効果」 日本基礎心理学会第 28 回大会, 2009.
- 柴田理瑛・斉藤昂之・行場次朗 「断続音聴取時に生じる運動物体の速度知覚の

- 遅延」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 柴田理瑛・行場次郎 「断続的な聴覚刺激呈示が運動物体の速度知覚に及ぼす影響」 日本感性福祉学会第 10 回大会, 2010.
- 設楽茉莉絵・阿部恒之. 「性別判断における顔の色彩情報の影響」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之. 「ときめきは表情にあらわれるか」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.
- 設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之. 「ときめいている顔の表情と魅力」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 庄司 耀・阿部恒之 「感情の適応的機能に関する研究」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手大学, 9 月 6 日), 2007
- 庄司 耀・菊地史倫・阿部恒之「社会生活マナー形成における感情の役割—エスカレーター乗車に関する調査—」 日本感情心理学会第 16 回大会 (大妻女子大学, 5 月 17, 18 日) 2008.
- 庄司 耀・阿部恒之「睡眠中の香り接触による生理心理学的変化」 東北心理学会第 62 回大会 (東北大学, 7 月 19, 20 日) 2008 .
- 庄司 耀・阿部恒之・菊地史倫・樋口貴広「ストレス課題に対する香りの認知的効果の検討—印象・嗜好の関連について—」 日本心理学会第 72 回大会 (北海道大学, 9 月 19, 20, 21 日) 2008 .
- 生島 浩. 「リスク・ファミリーの臨床」 日本家族研究・家族療法学会第 27 回大会, 大会長講演, 2010.
- 鈴木美穂・河地庸介・行場次郎 「絵画鑑賞時の知覚変容 - location memory を指標として - 」 日本心理学会第 71 回大会 (東洋大学, 9 月 18 日), 2007.
- 鈴木結花・柴田 寛・福光優一郎・小泉政利・行場次郎・萩原裕子 「幼児と成人における意味逸脱文聴取時の事象関連電位」 日本認知心理学会第 5 回大会 (京都大学, 5 月 26 日), 2007
- 鈴木結花・行場次郎 「微細テクスチャの触覚的粗さ知覚におよぼす聴覚刺激の影響」 東北心理学会第 61 回合同大会 (岩手ホテルアンドリゾート盛岡グラウンドホテル, 9 月 6 日), 2007
- 鈴木結花・柴田 寛・福光優一郎・小泉政利・行場次郎・萩原裕子 「幼児と成人における事象関連電位を用いた意味処理の比較」 第 4 回日本子ども学会議 (慶応大学, 9 月 15 日), 2007
- 鈴木結花・行場次郎 「触りに無関連な聴覚刺激が触覚的粗さ知覚におよぼす影

- 響について」ヒューマン情報処理研究会（金沢工業大学，11月19日），2007
- 鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・小泉政利・行場次朗・萩原裕子 「日本語意味処理に関わる ERP の幼児期における発達的变化と英語活動の影響」日本認知心理学会第6回大会（千葉大学，6月1日），2008
- 鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・小泉政利・行場次朗・萩原裕子「幼児期における母語意味処理の発達的变化と非母語活動の影響—ERP を用いた縦断的検討—」TL2008-21, 49-54, (ホテルオニコウベ，8月8日），2008
- 鈴木結花「テクスチャ知覚における触覚・聴覚の相互作用（ワークショップ「『触』経験と多感覚統合）」日本心理学会第72回大会（北海道大学，9月19日），2008
- 鈴木結花・行場次朗 「テクスチャの粗さ知覚におよぼす聴覚情報の一貫性の影響」日本基礎心理学会第27回大会，2008
- 鈴木結花・行場次朗 「粗さの触覚知覚におよぼす聴覚情報の影響—粗さ情報の一貫性と空間配置の観点から—」第1回多感覚研究会，2009.
- 鈴木結花・行場次朗 「粗さの触覚知覚におよぼす聴覚情報の空間配置の影響」日本基礎心理学会第28回大会，2009.
- 鈴木結花・寺本 渉・行場次朗 「多感覚情報の順序判断」東北心理学会第64回大会，2010.
- 鈴木結花 「幼児を対象とした意味処理に関する ERP 研究（ワークショップ「幼児期の認知発達とその脳内機構の探求：ERP, MRI, NIRS を用いた試み」日本心理学会第74回大会，2010.
- 鈴木結花・河地庸介 「触運動知覚を変容させる聴覚・触覚刺激の時間特性」第2回多感覚研究会，2010.
- 鈴木結花・河地庸介 「運動情報のない聴覚刺激による触覚運動知覚の変容」日本基礎心理学会第29回大会，2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「空間位置情報処理における好み（preference）の影響」東北心理学会第62回大会（東北大学，7月19日），2008
- 高橋純一・畠山孝男 「視覚的探索と視空間ワーキングメモリの個人差」日本心理学会第72回大会（北海道大学，9月21日），2008
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚パターンの空間位置情報処理における好みの影響」日本感性福祉学会第8回大会，2008.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚パターンの空間位置記憶における好みの影響の特異性」日本基礎心理学会第27回大会，2008.

- 高橋純一・河地庸介・行場次郎 「視覚パターンの空間位置記憶における好みの影響の多様性」 電子情報通信学会 (HIP), 2008.
- 高橋純一・鈴木結花・柴田寛・福光優一郎・加藤幸子・小泉政利・行場次郎・萩原裕子 「幼稚園年長期における母語意味処理に関わる ERP におよぼす非母語活動の影響」 第 11 回日本ヒト脳機能マッピング学会, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次郎 「視覚パターンの空間位置記憶における感性情報処理と物理特性の関連」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次郎 「パターン認知における冗長度からは予測できない感性特性の検討」 日本認知心理学会第 7 回大会, 2009.
- 高橋純一・行場次郎 「視覚パターンの冗長度と認知的情報負荷量の関連」 日本心理学会第 73 回大会, 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次郎 「視覚パターンの接近/後退運動が好みの形成に及ぼす影響」 日本感性福祉学会第 9 回大会, 2009.
- 高橋純一・日高聡太・寺本 渉・行場次郎 「視覚刺激の冗長度に依存して変容する反復の見落とし現象における聴覚刺激の効果」 日本基礎心理学会第 28 回大会, 2009.
- 高橋純一・日高聡太・寺本 渉・行場次郎 「反復の見落とし現象における視聴覚相互作用に視覚パターンの冗長度が及ぼす影響」 第 1 回多感覚研究会, 2009.
- 高橋純一・日高聡太・寺本 渉・行場次郎 「視覚パターンの冗長度が反復の見落とし現象における視聴覚相互作用に及ぼす影響」 電子情報通信学会 (HIP), 2009.
- 高橋純一・河地庸介・行場次郎 「拡大/縮小運動によって変容する視覚的短期記憶」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 高橋純一・日高聡太・寺本 渉・行場次郎 「視覚表象の符号化に要する情報負荷量が反復の見落とし現象に及ぼす影響」 日本イメージ心理学会第 11 回大会, 2010.
- 高橋純一・日高聡太・寺本 渉・行場次郎 「視覚刺激の冗長度が反復の見落とし現象に及ぼす影響とその時間特性に関する検討」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次郎 「視覚パターン認知に影響を及ぼす主要な感性因子の推定」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次郎 「視覚的短期記憶を変容させる拡大/縮小運動」

- 電子情報通信学会 (HIP), 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「拡大/縮小運動が視覚的短期記憶に及ぼす影響とその時間特性の検討」 日本感性福祉学会第 10 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚的短期記憶の保持時間に依存して変容する拡大・縮小運動情報の優位性」 日本基礎心理学会第 29 回大会, 2010.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「視覚的選好 (visual preference) に依存して変容する視覚的短期記憶」 日本認知心理学会第 9 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗 「健常大学生を対象とした自閉症スペクトラム指数における視覚的短期記憶容量の違い」 日本教育心理学会第 53 回大会, 2011.
- 高橋純一・行場次朗 「視覚表象と聴覚表象の長期持続性の違いについて」 東北心理学会第 65 回大会, 2011.
- 高橋純一・河地庸介・行場次朗 「拡大/縮小運動情報に依存して変容する視覚的短期記憶容量」 日本心理学会第 75 回大会, 2011.
- 竹島康博・行場次朗・柴田理瑛 「速度錯覚における視聴覚相互作用の検討」 日本認知心理学会第 8 回大会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「聴覚刺激によって生じる大きさ錯視」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「聴覚刺激によって引き起こされる大きさ錯視」 電子情報通信学会 (HIP), 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「情報負荷量が分裂錯覚 (“ fission ” illusion) の生起に与える影響の検討」 日本基礎心理学会第 29 回大会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「視覚刺激形状の情報負荷量操作による分裂錯覚の特性の検討」 第 2 回多感覚研究会, 2010.
- 竹島康博・行場次朗 「視聴覚相互作用による大きさ錯視」 日本認知心理学会第 9 回大会, 2011.
- 竹島康博・行場次朗 「視聴覚統合が即時数量把握に及ぼす影響」 北海道・東北心理学会第 11 回合同大会, 2011.
- 竹島康博・行場次朗 「知覚処理効率に依存して生起する分裂錯覚」 日本心理学会第 75 回大会, 2011.
- Tamura, T. 「Mechanisms of Resistance to Dehumanizing Labels」 東北大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム社会階層と不平等研究教育拠点ワークショップ (東北大学, 3 月 12 日), 2007.
- Tamura, T. 「Legitimacy of Aggression and Dehumanizing Labels」 東北大学大学院文

- 学研究科 21 世紀 COE プログラム社会階層と不平等研究教育拠点ワークショップ (東北大学, 7月23日), 2007.
- 田村 達・大淵憲一 「非人間的ラベルの対象判断とラベリングへの抵抗」 東北心理学会第 61 回大会 (岩手大学, 9月6日), 2007.
- 田村 達・大淵憲一 「攻撃の正当性と非人間的ラベリング: ラベリングによる攻撃の合理化」 日本社会心理学会第 48 回大会 (早稲田大学, 9月22日), 2007.
- 田村 達 「非人間的ラベリングが対象の感情表出への反応に及ぼす効果」 日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第 56 回大会合同大会, 2009.
- 丹治敬之・野呂文行・鶴巻正子 「比較刺激に対する反応分化手続き導入による構成見本合わせ課題獲得の促進効果」 日本行動分析学会第 26 回年次大会 (横浜国立大学, 8月9日), 2008
- 丹治敬之・鶴巻正子 「ADHD のある中学生に対する英単語の読み綴り指導 - 見本合わせ手続きと構成見本合わせ手続きを導入した指導プログラム - 」 日本特殊教育学会第 46 回大会「2008 山陰大会」 (鳥取大学・島根大学, 9月20日), 2008
- 寺本 渉・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一 「聴覚情報が視覚的 representational momentum に及ぼす影響」 聴覚研究会 (神戸, 10月), 2008
- 寺本 渉・吉田和博・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一 「一般的理解としての「臨場感」 日本バーチャルリアリティ学会 VR心理学研究委員会第 12 回研究会, 2008.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美・稲垣成昭 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤: 指導者との葛藤場面の分類」 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会第 20 回教育研究大会 (ホテル東京ガーデンパレス, 8月24日), 2007.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美・稲垣成昭 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤: 対象者との対人葛藤の分類」 第 10 回宮城県作業療法学会 (東北文化学園大学, 10月14日), 2007
- 勅使河原麻衣・渥美恵美・稲垣成昭・村井則子 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤: 対象者への葛藤解決方略」 第 42 回日本作業療法学会 (長崎県立総合体育館, 6月21日), 2008.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美 「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤: 指導者への葛藤解決方略」 全国私立リハビリテーション学校連絡協議会第 21 回教

- 育研究大会（松山全日空ホテル，8月22日），2008.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美．「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：評価技術実習と総合実習での葛藤解決方略」 第43回日本作業療法学会，2009.
- 勅使河原麻衣・渥美恵美．「臨床実習における作業療法学生の対人葛藤：学生の悩みとの関連性」 日本リハビリテーション学校協会第23回教育研究大会・教員研修会，2010.
- Tin Aung Moe 「Value variations in Japan and Myanmar」 東北心理学会第61回大会（岩手大学，9月6日），2007
- Tin Aung Moe 「Value orientations of Myanmar University students」 日本社会心理学会第48回大会（早稲田大学，9月24日），2007
- Tin Aung Moe 「A cross-cultural study of values systems in Japan and Myanmar」 東北心理学会第62回大会（東北大学，7月20日），2008
- 鶴巻正子・仁平義明 「否定的記述を含む測定が児童に及ぼす影響」 日本特殊教育学会第46回大会「2008山陰大会」（鳥取大学・島根大学，9月20日），2008
- 上原俊介 「ひとが偽善に動機づけられるとき：男女差の検討 東北心理学会第61回大会（岩手大学，9月6日），2007.
- 上原俊介・岡田卓也 「欲求に対する責任は利他的動機を生み出すか？共有的志向性が偽善動機づけに及ぼす影響」 日本心理学会第71回大会，2007.
- 上原俊介・岡田卓也．「人はなぜ道徳的に振る舞えないのか？偽善動機づけが道徳的振る舞いに及ぼす影響」 日本社会心理学会第48回大会（東洋大学，9月20日），2007.
- 上原俊介・長崎芙美・船木真悟 「対人規範の違反と怒り感情：拒絶の敏感さが怒りに及ぼす効果」 東北心理学会第62回大会（東北大学，7月20日），2008
- 上原俊介・大淵憲一・船木真悟 「対人規範の違反と怒り感情：欲求に対する責任が怒りに及ぼす効果」 日本心理学会第72回大会（北海道大学，9月19日），2008
- 上原俊介・中川知宏・古畑麻紗子・船木真悟・長崎芙美 「偽善動機づけが反社会的行動に及ぼす影響：コスト脅威の知覚に注目して」 日本社会心理学会第49回大会（鹿児島大学，11月2日），2008.
- 上原俊介．「自己利益か？公正か？関係規範が怒りの動機に及ぼす影響」 日本心理学会第73回大会，2009.
- 上原俊介・森丈弓・国佐勇輔．「共有的志向性が怒りの動機に及ぼす影響」 東

- 北心理学会第 63 回大会, 2009.
- 上原俊介・中川知宏. 「関係規範の違反と怒り感情：公正な状況に対する怒り反応」 日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループ・ダイナミクス学会第 56 回大会合同大会, 2009.
- 上原俊介・中川知宏・森丈弓. 「怒り表出における絆促進の規定因とその効果」 東北心理学会第 64 回大会, 2010.
- 上原俊介・国佐勇輔・岩淵絵里. 「義憤としての怒りを探る：拉致行為に対する怒り喚起反応の差異」 日本社会心理学会第 51 回大会, 2010.
- 上原俊介・中川知宏・国佐勇輔・岩淵絵里 「道徳的違反に対する怒り：義憤の怒りを規定する状況要因の検討」 日本社会心理学会第 52 回大会, 2011.
- Wiwattanapantuwong, J., & Abe, T. 「防災意識の国際比較研究」 東北心理学会第 24 回大会, 2010.
- Wiwattanapantuwong, Juthatip・阿部恒之 「防災意識に与える被災感情の影響－タイにおける面接調査－」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回大会, 2011.
- Wiwattanapantuwong, Juthatip・阿部恒之 「被災感情が防災意識に与える影響 日本とタイの国際比較」 日本感情心理学会第 19 回・日本パーソナリティ心理学会第 20 回合同大会, 2011.
- 山本雄大・小松さくら・大淵憲一 「社会システムと社会権力に対する認知が性差別行動正当化に及ぼす影響」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学，9 月 6 日），2007
- 山本雄大・大淵憲一 「潜在的ステレオタイプが評価極性効果に与える影響」 社会心理学会第 48 回大会（早稲田大学，9 月 24 日），2007
- 山本雄大・大淵憲一 「女性への優遇措置が課題遂行に与える影響」 東北心理学会第 62 回大会（東北大学，7 月 20 日）2008.
- 山本雄大・小松さくら・大淵憲一 「慈悲的性差別への接触が課題遂行量に与える影響」 社会心理学会第 49 回大会（鹿児島大学，11 月 3 日～4 日），2008.
- 山本雄大・大淵憲一. 「慈悲的差別への接触がもたらす低地位集団成員への否定的影響」 日本社会心理学会第 50 回大会, 2009.
- 山本雄大・大淵憲一. 「慈悲的性差別への接触が女性のパフォーマンスと性役割受容に与える影響」 GCOE 若手研究者のためのワークショップ, 2009.
- 山本雄大・大淵憲一. 「慈悲的性差別への接触が女性の自己評価に与える否定的影響」 日本社会心理学会第 50 回大会 院生リーグ, 2009.
- 山脇望美・大淵憲一 「CRTA による攻撃性の測定」北海道心理学会・東北心理学

会第 11 回大会,2011.

吉田和博・寺本 渉・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一. 「「臨場感」に関するイメージ調査」 電子通信情報学会ヒューマン情報処理研究会,2008.

3 大学院生・学部生の受賞状況

2007 年度

日高聡太(DC)他 第 5 回日本認知心理学会優秀発表賞(発表力評価部門)

菊地史倫(DC)他 第 15 回日本感情心理学会優秀発表賞

荒木 剛(DC) 東北大学総長賞

河地庸介(DC) 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション賞

山本雄大(DC) 日本社会心理学会若手研究者奨励賞

2008 年度

高橋純一(MC)他 日本基礎心理学会第 27 回大会優秀発表賞

佐藤 拓(DC)他 第 6 回日本認知心理学会優秀発表賞(社会的貢献度評価部門)

2009 年度

引地博之(DC) 日本社会心理学会若手研究者奨励賞

鈴木結花(DC) 日本基礎心理学会第 28 回大会優秀発表賞

日高聡太(DC) 日本基礎心理学会第 28 回大会優秀発表賞

菊地史倫(DC)他 第 7 回日本認知心理学会優秀発表賞(発表力評価部門)

2010 年度

高橋純一 (DC) 日本基礎心理学会第 29 回大会優秀発表賞

4 日本学術振興会研究員採択状況

2007 年度 2 名 (DC1 1 名、DC2 1 名、PD 0 名)

2008 年度 3 名 (DC1 2 名、DC2 0 名、PD 1 名)

2009 年度 3 名 (DC1 0 名、DC2 3 名、PD 0 名)

2010 年度 1 名 (DC1 1 名、DC2 0 名、PD 0 名)

2011 年度 2 名 (DC1 0 名、DC2 0 名、PD 2 名)

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2008 年度 学部 計 1 名 カリフォルニア大学(アメリカ合衆国)

2009 年度 学部 計 1 名 マルク・ブロック大学(フランス)

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
07	1	2	3
08	2	2	4
09	2	1	3
10	1	1	2
11	1	4	5
計	7	10	17

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	2	2
08	0	1	1
09	0	1	1
10	0	2	2
11	0	4	4
計	0	10	10

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

大類純子（愛知学院大学）2007 年度

今在景子（名古屋大学）2007 年度

荒木 剛（東北大学）2007 年度

柴田 寛（東北大学）2007 年度

高田奈緒美（東北福祉大学）2008 年度

河地庸介（東北福祉大学）2008 年度

佐藤 拓（新潟リハビリテーション大学）2009 年度

池田和浩（尚絅学院大学）2009 年度

日高聡太（立教大学）2009 年度

菊地史倫（鉄道総合技術研究所）2009 年度

田村 達（岩手県立大学）2009 年度

鶴巻正子（福島大学）2009 年度

山本佳子（いわき明星大学）2009 年度

中川知宏（近畿大学）2010 年度

渥美恵美（東北福祉大学）2010 年度

柴田理瑛（東北福祉大学）2010 年度

鈴木結花（東北大学）2010 年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2007 年度 1 名

2008 年度 1 名

2009 年度 0 名

2010 年度 0 名

2011 年度 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

Tohoku Psychologica Folia（年刊）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

東北心理学会事務局

東北グループダイナミックス研究会（1990 年度～現在）

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2008 年度

東北心理学会第 62 回大会（2008 年 7 月 19 日、20 日）

日本自閉症スペクトラム学会第 7 回研究大会（2008 年 9 月 13、14 日）

日本感性福祉学会第 8 回大会（2008 年 11 月 16 日）

日本基礎心理学会第 27 回大会（2008 年 12 月 6、7 日）

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

心理学専攻分野としての研究活動、教育活動ともに、毎年、着実な努力と進展がみられる。2007年度から2011年度まで、学部学生、大学院生は文学部・文学研究科内で最も所属院生・学生数が多い専攻分野の一つである。

1933年以来、心理学研究室では、日本で最も古い欧文心理学学術誌として『Tohoku Psychologica Folia』誌を刊行している。2011年で、巻数は69巻を数える。本誌は、古くから心理学の国際的抄録誌『Psychological Abstracts』の収録対象誌であり、同時にデータベース『PsycLIT』の収録対象誌になっている。海外からの投稿論文も掲載されている。継続的な国際発信の努力のあらわれであるといえる。

心理学専攻分野では、教員の研究は質量ともに優れた水準にあり、その結果は教育に効果的に反映されている。幸い教員の定員が5名であるために、学生の研究のニーズに応じられる教育領域の幅広さが確保されている。

課程博士の授与数は過去5年間で17人であり、毎年、後期課程の定員3にほぼ見合った数の課程博士を輩出している。

大学院生が国際学会において発表を行った件数は合計74件に及び、文学研究科でも突出している。これは、国内の各大学が国際学会を開催する努力をしてきたことにも起因するが、自発的に国外で発表を行う大学院生の増加をも反映しているといえる。学内における本専攻分野の学生の評価も高く、2007年度は、特に優れた学生に授与される東北大学総長賞に、大学院生が心理学専攻から選ばれている。また、2007～10年の間に、9人の大学院生がそれぞれの学会で学会賞を受賞したことは、特筆に値する。社会人大学院生も、大学教員のほか、医師、看護師など近接領域からの入学もみられる。

国外からの留学生も学部学生、大学院生とも例年コンスタントに受け入れており、国際貢献を果たしている。

官公庁や産業界、自治体、教育界からの貢献の要請にも、共同研究や研修講師、講演および特別講義、各種委員などのさまざまなかたちで、十二分に応えている。

教員の研究活動（2007～2011年度）

（仁平義明教授の業績に関しては、2007～2009年度のものを掲載、荒木剛助教の業績に関しては2009～2011年度のものを掲載）

1 教員の論文発表等

1-1 論文

仁平義明教授

神尾陽子・仁平義明 「自閉症の認知研究の現在—特集号の企画にあたって」 『心

- 心理学評論』, Vol.50, No.1, (神尾陽子・仁平義明編集 特集「自閉症の認知研究の現在」), 2007年7月
- 仁平義明・神尾陽子 「自閉症者の「並外れた才能」再考」 『心理学評論』, 50 (1), (神尾陽子・仁平義明編集 特集「自閉症の認知研究の現在」), 2007年7月
- 仁平義明・本多明生・北村康宏 「交通事故加害者の心理的苦悩からの回復過程：「ゆるし」への支援」 『三井三菱海上福祉財団成果報告集』(交通安全等・高齢者福祉), 11, 2007年8月
- 仁平義明 「自閉症者の「並外れた」能力の意味」 『教育と医学』(慶應義塾大学出版会)(No.652), 2007年10月
- Honda, A. & Nihei, Y. 「Comparison of an intelligible route description: Creating graphic maps from written route directions」. 『*Tohoku Psychological Folia*』, 66, 29-39, 2007.
- Sato, T., Kikuchi, F. & Nihei, Y. 「Adolescent and Young adult beliefs about deception」. 『*Tohoku Psychological Folia*』, 66, 54-61, 2007.
- Saeki, S. & Nihei, Y. 「Children's multiple language use in the families temporary staying in Japan: Unbalanced proportion of language use between parents and children」 『*Tohoku Psychological Folia*』, 66, 75-88, 2007.
- 仁平義明・大平直子 「双生児の親密さとアイデンティティー神話と事実」. 『東北大学文学研究科研究年報』, 第57号, 45-71, 2008年.
- 仁平義明 「日常のエラーと高安全度必要場面のエラー」 『日本情報ディレクトリ学会誌』 Vol.6, 25-30, 2008年.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「過失に対する赦しの評価に怒り感情・信憑性・重大性の評価が及ぼす影響」, 『感情心理学研究』15巻, 97-105, 2008年.
- 今野晃嗣・仁平義明 「ヒト乳幼児の気質モデルに基づいたイヌとネコの気質尺度」. 『ヒトと動物関係学会誌』 20, 56-65, 2008年.
- 仁平義明・佐伯麻有 「賞賛的アサーティブネス尺度作成の試み」. 『東北大学学生相談所年報』 第2号, 23-31, 2008年.
- 八田純子・仁平義明 「摂食障害傾向女子高校生の日常生活および身体に関する評価」 『健康心理学研究』, 21, 10-20, 2008年.
- 仁平義明・吉原直樹・平川新・増田聡・今村文彦・佐藤拓・今野晃嗣 「東北6県全市町村の防災研修ニーズー「防災・被災対応のソフトウェア」の重要性ー」. 『仙台都市研究』, vol.6, 1-9, 2008年.

- Yamamoto, Y. & Nihei, Y. 「Difficulties in adjusting to college life experienced by Students with Pervasive Developmental Disorders: Comparison with schizophrenic students.」. 『*Tohoku Psychologica Folia*』, 67, 1-5, 2008.
- Nihei, S. & Nihei, Y. 「Contrasting Rorschach test results in Asperger's syndrome and high-functioning Autism.」. 『*Tohoku Psychologica Folia*』, 67, 6-9, 2008.
- Sato, T. & Nihei, Y. 「Gender differences in confidence about lying and lie detection.」. 『*Tohoku Psychologica Folia*』, 67, 71-73, 2008.
- Honda, A. & Nihei, Y. 「Sex differences in object location memory: The female advantage of immediate detection of changes.」. 『*Learning and Individual Differences*』, 19, 234-237, 2009.
- 仁平義明 「人間力育成のパラダイム・シフト—ハーディネス（心の頑強さ）からレジリエンシー（心の回復力）へ— 岡堂哲雄編 『心理臨床フロンティア—倫理の再構築に向けて』, 『現代のエスプリ』500号, 194-205, 2009年.
- 池田和浩・仁平義明 「ネガティブな体験の肯定的な語り直しによる自伝的記憶の変容」. 『心理学研究』, 79, 481-489, 2009年.
- 佐藤拓・仁平義明 「青年期のキャリア・レジリエンス—進路決定のリスク要因・促進要因」. 『東北大学学生相談所年報』, 第3号, 23-27, 2009年.
- Sato, T. & Nihei, Y. 「Contrasting tactics in deceptive impression management.」. 『*Social Behavior and Personality: An international Journal*』, 37, 267-281, 2009.
- Sato, T. & Nihei, Y. 「Sex differences in beliefs about cues to deception.」. 『*Psychological Reports*』, 104, 759-769, 2009.
- Murakawa, Y. & Nihei, Y. 「Understanding the concept of a 'good death' in Japan: Differences in the views of doctors, palliative care and non-palliative ward nurses.」. 『*International Journal of Palliative Nursing*』, 15, 226-233, 2009.
- 山本佳子・仁平義明 「統合失調症の大学生に対する卒業をゴールとしない支援—学生相談のもう一つの方向—」, 『学生相談研究』, 30, 12-22, 2009.
- Saeki, S. & Nihei, Y. 「A longitudinal investigation of cultural adjustment and mood changes in two university students studying abroad.」 『*Tohoku Psychologica Folia*』, 68, 25-37, 2009.
- Tsurumaki, M., Sato, T., & Nihei, Y. 「The effect of negatively worded measures of self-esteem on children.」 『*Social Behavior and Personality*』, 37, 1383-1384, 2009.

- 大淵憲一 「公共事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究：手続き的公正理論の応用」 『平成 15-18 年度科学研究費補助金研究成果報告書』, 2007.
- 中川知弘・仲本尚史・山之端津由・大淵憲一 「集団同一化と集団志向性が集団非行に及ぼす影響：一般群と非行群の比較」 『応用心理学研究』, 8, 61-72, 2007.
- Hatta, T., Ohbuchi, K., & Fukuno, M. 「An experimental study on the effects of excitability and correctability on electronic negotiation」 『Negotiation Journal』, 第 23 巻, 283-305, 2007.
- Hatta, T. & Ohbuchi, K. 「Effects of visual cue and spatial distance on excitability in electronic negotiation」 『Computers in Human Behavior』, 第 24 巻, 1542-1551, 2007.
- Ohbuchi, K. & Saito, T. 「Cognitive causes of conflict avoidance among Japanese: An approach from pluralistic ignorance」 『Progress in Asian Social Psychology』, 第 6 巻, 83-97, 2007.
- 大淵憲一 「メディア社会の中の暴力」 『児童心理』, 第 867 号, 57-62, 2007.
- 大淵憲一・渥美恵美 「弁明選択の心理的および状況的規定因と文化的価値：何が謝罪を困難にするか？」 『文化』, 第 70 巻, 364-372, 2007.
- 大淵憲一 「社会的排斥と暴力：理論的・実証的検討」 『東北大学文学研究科年報』, 第 57 巻, 109-120, 2007.
- 渥美恵美・大淵憲一・稲垣成昭・勅使河原麻衣 「社会的交流技能実習事前教育プログラムに関する研究：社会的交流技能自己評価 (SA) 尺度 Ver2 作成と因子分析」 『東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 第 4 巻, 11-19, 2007.
- 稲垣成昭・渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能事前教育プログラムに関する研究：学生の自己評価と性格要因の検討」 『東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 第 4 巻, 21-28, 2007.
- 大淵憲一 「公共事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究：手続き的公正理論の応用」 『平成 15-18 年度科学研究費補助金研究成果報告書』, 2007.
- 中川知弘・仲本尚史・山之端津由・大淵憲一 「集団同一化と集団志向性が集団非行に及ぼす影響：一般群と非行群の比較」 『応用心理学研究』, 第 8 巻, 61-72, 2007.
- Ohbuchi, K., Atsumi, E., & Takaku, S. 「Do people reject apology for group harms? A cross-cultural consideration」 『Tohoku Psychologica Folia』, 第 66 巻, 46-53, 2007.
- Saito, T. & Ohbuchi, K. 「Gender differences in the cognitive cause of Japanese conflict

- avoidance: An approach in pluralistic ignorance」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 第 66 卷, 62-67, 2007.
- Tamura, T. & Ohbuchi, K. 「The moderation effect of justifiability for aggression between dehumanizing labels and aggression」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 第 66 卷, 97-104, 2007.
- 中川知宏・仲本尚史・國吉真弥・森丈弓・山入端津由・大淵憲一 「集団同一化と 集団志向性が集団非行に及ぼす効果：集団構造による差異の検討」 『平成 18 年度社会安全研究財団報告書（一般研究助成）』 , 2007.
- 大淵憲一 「メディア社会の中の暴力」 『児童心理 2007 年 10 月号臨時増刊』 , 57-62, 2007.
- 大淵憲一 「社会的排斥と暴力：実験社会心理学的検討」 『2007 年暴力與毒品犯罪心理與矯治国際學術検討會大會手冊（2007 International Conference on Violence and Drugs Abuse Proceedings）』 , 25-40, 2007.
- Ohbuchi, K. 「Do people reject apology for group harm? A cross-cultural consideration」 『CSSI Annual Report 2006』 , 142-151, 2007.
- 大淵憲一・渥美恵美 「弁明選択の心理的および状況的規定因と文化的価値：何が謝罪を困難にするか？」 『文化』 , 第 70 卷, 364-372, 2007.
- 渥美恵美・大淵憲一・稲垣成昭・勅使河原麻衣 「社会的交流技能実習事前教育プログラムに関する研究：社会的交流技能自己評価（SA）尺度 Ver2 作成と因子分析」 『リハビリテーション科学：東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』 , 4 , 11-19 , 2008.
- Ohbuchi, K. 「Japanese' conflict on justice: Fairness principles and social ideals」 『CSSI Annual Report 2007』 , 124-131, 2008.
- 八田武俊・小林正和・大淵憲一・福野光輝 「不快情動と社会的関心への注意が交渉に及ぼす影響」 『対人社会心理学研究』 , 第 8 卷, 17-21, 2008.
- 田村達・大淵憲一 「持つものと持たざるもの：「人間的感情」と差別意識」 『現代のエスプリ』 , 第 494 号 , 167-175, 2008.
- 大淵憲一 「社会的排斥と不適応：実験社会心理学的検討」 . 群馬大学社会情報学部（編） 『平成 20 年度群馬大学社会心理学セミナー報告』 , 1-21 , 2008 .
- 小松さくら・大淵憲一 「金銭と時間に関する余裕の見積もりと楽観性との関連」 『社会心理学研究』 , 第 24 卷、45-49, 2008.
- 大淵憲一・白井利明・松本由起子 「感情教育のニュアンス：その光と影」 『現代のエスプリ』 , 第 494 号 , 5-35, 2008.

- 大淵憲一・川嶋伸佳・青木俊明 「社会資本整備における公共受容の要因：政策評価次元とデモグラフィック変数による分析」 『土木学会論文集D』, 第64巻, 325-339, 2008.
- 大淵憲一・渥美恵美 「OT臨床実習のための社会的交流技能の検討：概念構成と尺度開発」 『文化』, 第71巻, 253-270, 2008.
- 大淵憲一・佐藤弘夫・三浦秀一 「現代日本人の価値観と伝統的思想：仏教、儒教、神道・国学の思想内容と調査項目の作成」 『東北大学文学研究科研究年報』, 第58巻, 154-180, 2008.
- 大淵憲一・川嶋伸佳 「現代日本人における仏教、儒教、神道・国学思想の受容：社会調査による分析」 『文化』, 第72巻, 101-122, 2008.
- Moe, T. A. & Ohbuchi, K. 「An empirical study of cultural values in Myanmar」, 『Tohoku Psychological Folia』, 第67巻, 10-20, 2008.
- Ohbuchi, K., Atsumi, E., & Takaku, S. 「Cross-cultural study on victim's responses to apology in interpersonal and intergroup conflicts」, 『Tohoku Psychologica Folia』, 第76巻, 53-60, 2008.
- 稲垣成昭・渥美恵美・勅使河原麻衣・大淵憲一 「社会的交流技能事前教育プログラムに関する研究：学生の自己評価と性格要因の検討」 『リハビリテーション科学：東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要』, 第4巻, 21-28, 2008.
- 大淵憲一 「怒りを活用する心理教育」 『現代のエスプリ』, 第503号, 185-195, 2009.
- 大淵憲一 「健全な自己愛を育てる」 『児童心理』, 第899号, 32-38, 2009.
- 熊谷智博・大淵憲一 「非当事者攻撃に対する集団同一化と被害の不公正さの効果」 『社会心理学研究』, 第24巻, 200-207, 2009.
- 高田奈緒美・大淵憲一 「対人葛藤における寛容性の研究：寛容動機と人間関係」 『社会心理学研究』, 第24巻, 208-218, 2009.
- 引地博之, 青木俊明, 大淵憲一 「地域に対する愛着の形成機構：物理的環境と社会的環境の影響」 『土木学会論文集』, 第65巻, 101-110, 2009.
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子. 「社会階層と公正感：多元的公正判断と社会的属性の関係」 『文化』, 第73巻, 83-99, 2009.
- 大淵憲一・川嶋伸佳 「日本の伝統的価値尺度の作成：仏教、儒教、神道・国学思想に基づいて」, 『文化』, 第73巻, 110-140, 2009.
- 大淵憲一 「犯罪理論の新展開：統制理論と緊張理論」, 『東北大学文学研究科

- 年報』, 第 59 卷, 206-232, 2009 .
- 大淵憲一・川嶋伸佳 「現代日本人による伝統的価値の受容: 社会属性との関連」, 『文化』, 第 73 卷, 21-46, 2009.
- Uehara, S., Nakagawa, T., Mori, T., Kunisa, Y., & Ohbuchi, K. 「Motives of anger in relationships: Relationship closeness moderates anger evoked motives」 『Tohoku Psychologica Folia』 第 68 卷, 38-48, 2009
- Tracet, A., Rasclé, O., Souchon, N., Coulomb-Cabagno, G., Petrucci, C., & Ohbuchi, K. 「Aggression in soccer: An exploratory study of accounts preference」 『Research Quarterly for Exercise and Support』, 第 80 卷, 398-402, 2009.
- Ohbuchi, K. & Atsumi, E. 「Avoidance brings Japanese employees what they care about in conflict management: Its functionality and “Good Member” image」 『Negotiation and Conflict Management』, 第 3 卷, 117-129, 2010.
- 大淵憲一 「民族間の融和は可能か: 接触仮説の可能性」 『TASC Monthly』, 第 414 号, 8-13, 2010.
- 大淵憲一 「日本思想からみた正義・公正観念: 社会心理学的検討. 平成 19 年度 ~ 21 年度科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究、課題番号 19653060) 研究成果報告書」 2010 .
- 大淵憲一 「日本における社会階層と価値観」 『東北大学文学研究科年報』 60 卷, 107-128, 2010.
- Takaku, S., Green, J. D. & Ohbuchi, K. 「A cross-national examination of the perpetrator-victim account estimation bias as a function of different types of accounts」 『Asian Journal of Social Psychology』, 第 13 卷, 274-285, 2010.
- 大淵憲一 「家族と暴力: 現代日本の「車輪の下」」 『家族療法研究』 第 27 卷, 227-233, 2010.
- 大淵憲一 「反社会性の行動遺伝学」 『青少年問題』 第 57 卷 (秋季号、No. 640), 2-7, 2010.
- 渥美恵美・大淵憲一 「作業療法学生の社会的スキル学習に対する臨床実習の効果」 『応用心理学研究』, 第 36 卷, 114-123, 2011.
- 渥美恵美・大淵憲一・勅使河原麻衣 「社会的交流技能自己評価尺度の妥当性の検証—臨床実習指導者評価を用いて」 『感性福祉研究所年報』 第 12 卷, 163-174, 2011.
- 上原俊介・船木真悟・大淵憲一. 「関係規範の違反に対する怒り感情: 人間関係タイプ、欲求の関係特異性、及び欲求伝達の影響」 『実験社会心理学研究』,

印刷中.

Saito, T. & Ohbuchi, K. 「Gender differences in Japanese conflict avoidance: An interpretation from closeness」 『Tohoku Psychologica Folia』 印刷中 .

Uehara, S., Nakagawa, T., Komatsu, S., & Ohbuchi, K. 「The role of social anxiety in anger against norm violations」 『Tohoku Psychologica Folia』 印刷中 .

Saito, T. & Ohbuchi, K. 「Who suffers pluralistic ignorance of conflict avoidance among Japanese? Individual differences in the value of social harmony」 『International Journal of Conflict Management』 , 印刷中 .

川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子 「多元的公正感と抗議行動：社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響」 『社会心理学研究』 , 印刷中 .

川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子 「社会的不平等とミクロ公正感：不公正感受性の効果」 『法と心理』 , 印刷中 .

Takada, N. & Ohbuchi, K. 「True and hollow forgiveness, forgiveness motives, and conflict resolution」 『International Journal of Conflict Management』 , 印刷中

行場次朗教授

Hidaka, S., Shigeta, R., Kawachi, Y., Sakuta, Y., & Gyoba, J. 「Speed and consistency of sound-color association in a colored-hearing test」 『Tohoku Psychologica Folia』 , 66, 68-74, 2007.

Honda, A., Shibata, H., Gyoba, J., Saitou, K., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Transfer effects on sound localization performances from playing a virtual three-dimensional auditory game」 『Applied Acoustics』 , 68 , 885-896 , 2007 .

Kawachi, Y., Kawabe, T., & Gyoba, J. 「Spatiotemporal integration of object features in the stream/bounce event perception」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』 , 25(2), 273-274, 2007.

Mochizuki, M., Tashiro, M., Gyoba, J., Suzuki, M., Okamura, N., Itoh, M., and Yanai, K. 「Brain activity associated with dual-task management differs depending on the combinations of response modalities.」 『Brain Research』 , 1172, 82-89, 2007.

Shibata, H., Suzuki, M., & Gyoba, J. 「Cortical activity during the recognition of cooperative actions」 『NeuroReport』 , 18 , 697-701 , 2007 .

Wade, N. J., Sakurai, K., and Gyoba, J. 「Guest editorial essay: Whither Wundt?」 『Perception』 . Vol 36(2) ,163-166, 2007.

作田由衣子・伊師華江・中原幸枝・赤松茂・行場次朗 「顔の印象が持つ加算的・

- 非加算的特性の印象変換ベクトル法による検証」『日本顔学会誌』, 7, 65-76, 2007.
- 本多明生・柴田寛・行場次朗・岩谷幸雄・鈴木陽一・大内誠 「三次元聴覚ディスプレイ研究の新展開 - 聴覚 VR ゲームによる転移効果 - 」 『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』, 12(4), 487-496, 2007.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Depth Representation of Moving 3D Objects in Apparent Motion Path」 『Perception』, 37, 688-703, 2008
- Suzuki, M. & Gyoba, J. 「Visual and tactile cross-modal mere exposure effects.」 『Cognition & Emotion』, 22, 147-154, 2008.
- Suzuki, M. Okamura, N., Kawachi, Y. Tashiro, M., Arao, H., Hoshishiba, T., Gyoba, J., Yanai, K. 「Discrete cortical regions associated with the musical beauty of major and minor chords」 『Cognitive, Affective, & Behavioral Neuroscience』, 8(2), 126-131, 2008.
- Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Physical offset of an invisible object can recover visual awareness suppressed by motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 27(1), 109-110, 2008.
- Suzuki, Y., Gyoba, J., & Sakamoto, S. 「Selective effects of auditory stimuli on tactile roughness perception」 『Brain Research (Special issue: Multisensory Integration)』 1242, 87-94, 2008
- 河地庸介・行場次朗 「視覚的事象の知覚に関する最近の研究動向: 物体同一性、因果性、通過・反発事象の知覚」 『心理学評論』, 51(2), 206-219.
- 日高聡太・行場次朗 「仮現運動事態で内的に形成される運動物体表象」 『心理学評論』, 心理学評論, 51, 220-234. 2008
- 柴田寛・行場次朗 「他者から手渡された物体を受け取る動作の選択」 『生態心理学研究』, 3, 35-43, 2008.
- 柴田寛・日高聡太・行場次朗・今泉修・松江克彦 「協同動作を観察する視点と適切さ評価が脳活動に及ぼす影響-NIRS を用いた検討-」 『感性福祉研究所年報』, 9, 63-72, 2008.
- Honda, A., Shibata, H., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Transfer effects on communication and collision avoidance behavior from playing a three-dimensional auditory game based on a virtual auditory display」 『Applied Acoustics』, 70, 868-874, 2009.
- Shibata, H., Gyoba J., & Suzuki, Y. 「Event-related potentials during the evaluation of

- the appropriateness of cooperative actions」 『Neuroscience Letters』, 452, 189-193, 2009.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S. & Gyoba, J. 「Psychological evaluation of higher-order facial impressions synthesized by the impression transfer vector method」 『Kansei Engineering International』, 9(1), 1-10, 2009.
- Hidaka, S., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The representation of moving 3-D objects in apparent motion perception」 『Attention, Perception & Psychophysics』, 71, 1294-1304, 2009.
- Suzuki, Y. & Gyoba, J. 「Correspondence of tactile and auditory information modifies the effects of sound on the tactile perception of roughness」 『The Journal of Psychonomic Science』, 28, 181-182, 2009.
- 日高聡太・行場次朗 「東北大学心理学研究室における古典的実験機器の歴史と特色—京都大学との比較から—」 『心理学史・心理学論』, 10, 49-55, 2009.
- 行場次朗 「感性次元の感覚関連性と脳活動」 『感性工学』, 8, 225-227, 2009.
- Hidaka, S., Manaka, Y., Teramoto, W., Sugita, Y., Miyauchi, R., Gyoba, J., Suzuki, Y., & Iwaya, Y. 「Alternation of sound location induces visual motion perception of a static object」 『PLoS ONE』, 4, e8188, 2009.
- Hidaka, S., Nagai, M., & Gyoba, J. 「Spatiotemporally coherent motion direction perception occurs even for spatiotemporal reversal of motion sequence」 『Journal of Vision』, 9, 1-12, 2009.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Location memory of visual patterns modulated by preference」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 28, 163-164, 2009.
- 寺本渉・吉田和博・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一 「臨場感の素朴な理解」 『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』, 15, 7-16, 2010.
- Teramoto, W., Manaka, Y., Hidaka, S., Sugita, Y., Miyauchi, R., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Visual motion perception induced by sounds in vertical plane」 『Neuroscience Letters』, 479, 221-225, 2010.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Sound can prolong the visible persistence of moving visual objects」 『Vision Research』, 50, 2093-2099, 2010.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Combined effects of perceptual grouping cues on object representation: Evidence from motion-induced blindness」 『Attention, Perception, & Psychophysics』, 72, 387-397, 2010.

- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Auditory temporal cues can modulate visual representational momentum」 『Attention, Perception & Psychophysics』, 72, 2215-2226, 2010.
- 寺本渉・吉田和博・日高聡太・浅井暢子・行場次朗・坂本修一・岩谷幸雄・鈴木陽一 「「迫真性」を規定する時空間情報」 『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』, 15, 483-486, 2010.
- Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「A short noise burst can recover suppressed visual awareness in motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 29, 85-86, 2010.
- Dailey, M.N., Joyce, C., Lyons, M.J., Kamachi, M., Ishi, H., Gyoba, J., & Cottrell, G.W. 「Evidence and a Computational Explanation of Cultural Differences in Facial Expression Recognition」 『Emotion』, 10, 874-893, 2010.
- Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「A short noise burst can trigger the release of motion-induced blindness」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, 29, 85-86, 2010.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschool children」 『Neuroscience Research』, 69, 246-251, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Modification of velocity perception by loud sounds」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science』, in press
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., & Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschoolers」 『Tohoku Psychologica Folia』, in press.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Different effects of expanding/contracting motion on visual short-term memory」 『The Japanese Journal of Psychonomic Science (Summary of Awarded Presentation)』, in press.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The auditory velocity illusion by sounds of different intensities」 『Tohoku Psychologica Folia』, in press.

阿部恒之教授

- Oda, Y., Abe, T., Takano, R., Tatsuta, A., & Nakamura, M. 「A model of the

- relationship between psychosocial variables and diurnal cortisol rhythm under chronic stress by using structural equations」, 『Behaviormetrika』, 34(1), 45-57, 2007
- 阿部恒之・高野ルリ子 「色彩と容貌印象の心理学的関連」, 『日本化粧品学会誌』, 31(3), 157-162, 2007.
- Kikuchi, F. ・Sato, T 「Effects of a personal relationship between deceiver and lie-receiver on ratings of veracity and forgiveness」, 『Tohoku Psychologica Folia』, 66, 40-45, 2007.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「過失に対する赦しの評価に怒り感情・信憑性・重大性の評価が及ぼす影響」, 『感情心理学研究』, 15(2), 115-123, 2008..
- 阿部恒之 「心理学にとっての化粧」, 『ファルマシア』, 44(5), 443-447, 2008.
- 阿部恒之 「化粧心理学の芽生えから今日まで」, 『フレグランスジャーナル』, 36(5), 108-110, 2008.
- 阿部恒之・佐藤智穂 「心理学で読み解くメーキャップ—色彩・錯視・顔の認知・魅力」, 『バイオインダストリー』, 25(10), 39-45, 2008.
- 阿部恒之・大川恵・高野ルリ子 「容貌の印象形成に及ぼす過般化の影響 - 顔だちマップの理論的基盤に関する実験的検討」, 『日本顔学会誌』, 8, 87-96, 2008.
- 阿部恒之・庄司耀・菊地史倫・樋口貴広 「基本精油のストレス緩和効果—印象と反応の関連」, 『アロマセラピー学雑誌』, 9, 60-78, 2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「弁明としてのウソが利益とコストの評価に及ぼす影響」, 『感情心理学研究』, 16, 220-228, 2009.
- 小宮山みなみ・阿部恒之・上原俊介・菊地史倫 「学生のQOLに影響する要因の検討—社会的行動制御スタイル・感情を中心に」, 『早稲田大学臨床心理研究』, 8, 53-66, 2009.
- 阿部恒之・佐藤智穂・遠藤光男 「目の大きさ知覚に及ぼすアイシャドーの効果—まぶたの影の位置・範囲・濃さを操作した実験的検討」, 『日本顔学会誌』, 9, 111-118, 2009.
- 阿部恒之・庄司耀・菊地史倫 「嗅覚の単純接触効果—ジャスミン・ローズの睡眠中呈示」, 『感情心理学研究—特集・化学感覚の感情心理学』, 17, 2, 84-93, 2009.
- 阿部恒之 「仁平教授の業績と学風」, 『文化』, 73(3・4), 13-18, 2010.

今野晃嗣・荒井沙穂理・阿部恒之 「顔だちマップを用いた犬種の形態印象の分類」,
『日本顔学会誌』, 10, 63-72, 2010.

河島三幸・設楽茉莉絵・阿部恒之 「ときめきによる女性の表情と魅力の変
化」 『日本顔学会誌』, 11, 107-115, 2011.

阿部恒之 「化粧品心理学のご紹介」, 『コスメチックレポートーコスメチックから
のメッセージ』, 200, 8, 2011.

阿部恒之 「化粧品と感情の心理学的研究概観」, 『におい・かおり環境学会誌』,
42, 5, 頁未定, 2011 (印刷中).

辻本昌弘准教授

辻本昌弘 「アルゼンチンにおける日系人の頼母子講：一般交換による経済的適応
戦略」 『質的心理学研究』, 5, 165-179, 2006.

辻本昌弘・國吉美也子・與久田巖 「沖縄の講集団にみる交換の生成」 『社会
心理学研究』, 23, 2007.

Tsujimoto, M. 「Economic adaptation and ethnic cooperation: The rotating savings and
credit association of the Japanese in Buenos Aires」 『Latin American Studies』,
16, 241-267, 2008.

辻本昌弘 「地域社会の事例による交換の検討」 『難民キャンプ設置による社会変
動への地元の対応に関する学際的研究—北西ケニア・トゥルカナ地方カクマ
周辺地域、社会心理学と人類学の共同調査—』 (科学研究費補助金研究成果
報告書) (研究代表者 作道信介), 270-290, 2008.

辻本昌弘 「社会的交換の生成と維持：沖縄の講集団の追跡調査」 『東北大学文
学研究科研究年報』, 58, 113-129, 2008.

Koike, S., Nakamaru, M. & Tsujimoto, M. 「Evolution of cooperation in rotating
indivisible goods game」 『Journal of Theoretical Biology』 264, 143-153, 2010.

荒木剛助教 (2008 年度以降の業績)

なし

1-2 著書・編著

仁平義明教授

<単著>

< 編著 >

仁平義明 (編著) 『防災の心理学—ほんとうの安心とは何か』 東信堂, 2009年3月

< 共同編著 >

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 20』 国際文献印刷社, 2007年4月

< 分担執筆 >

仁平義明 「嘘は真実からの逸脱か?—二分法を超えて」 仁平義明編 『嘘の臨床・嘘の現場』 (現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月

仁平義明 「抑圧という自己欺瞞はあるか」 仁平義明 (編) 『嘘の臨床・嘘の現場』 (現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月

仁平義明 「記憶植えつけ実験はゆるされるか—ジム・コウアンが巻き込まれた嵐のような出来事」 仁平義明 (編) 『嘘の臨床・嘘の現場』 (現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月

宮崎謙一・仁平義明 「モーツァルトは頭を良くするか—「モーツァルト効果」をめぐる科学とニセ科学」 仁平義明 (編) 『嘘の臨床・嘘の現場』 (現代のエスプリ 481)、至文堂, 2007年8月

佐藤拓・仁平義明 「言葉から嘘を見分ける—C B C AとR Mによる判別」 仁平義明 (編) 『嘘の臨床・嘘の現場』 (現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月

仁平義明・佐藤拓 「嘘は女性の方が上手か」 仁平義明 (編) 『嘘の臨床・嘘の現場』 (現代のエスプリ 481) 至文堂, 2007年8月

仁平義明・仁平説子 「障害理解と自己理解: クラスメイトへの障害理解促進」 柘植雅義・秋田喜代美・納富恵子・佐藤紘昭 (編) 『自立をめざす生徒の学習・メンタル・進路指導—中学・高校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等の指導—』 東洋館出版社, 2007年1月

仁平説子・仁平義明 「障害理解と自己理解: 自己理解」 柘植雅義・秋田喜代美・納富恵子・佐藤紘昭 (編) 『自立をめざす生徒の学習・メンタル・進路指導—中学・高校におけるLD・ADHD・高機能自閉症等の指導—』 東洋館出版社, 136-139, 2007.

< 単著 >

大淵憲一 『親を殺すふつうの子どもたち：ありふれた家庭のありふれた期待がもたらす危険』 PHP 研究所、2009

大淵憲一 『謝罪の研究：釈明の心理とはたらき』 東北大学出版会、2010.

< 共同編著 >

Ohbuchi, K. (編著) 『Social justice in Japan: Concepts, theories and paradigms』
Melbourne: Trans Pacific Press, 2007.

阿部恒之・大淵憲一・仁平義明・行場次朗・辻本昌弘 『心理学の視点 20』 国際
文献印刷社、2007.

原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一 (編著) 『社会階層と不平等』 放送大学教育振興会、
2008 .

大淵憲一 (編著) 『紛争と葛藤の社会心理学：対立する人の心と行動』 北大路書
房、2008 .

大淵憲一 (編著) 『感情教育：臨床・発達・教育・文芸の世界にみる感情と醇化』
(現代のエスプリ 494 号)、至文堂、2008 .

日本社会心理学会 (編)、大坊郁夫 (編集委員長)、池上知子、池田謙一、大淵
憲一、唐沢かおり、川浦康至、山口裕幸 (編集幹事) 『社会心理学事典』 丸
善、2009 .

日本心理学会倫理委員会 (編) 『社団法人日本心理学会倫理規程』 社団法人日本
心理学会、2009 .

Ohbuchi, K. & Asai, N. (編著) 『Inequality, discrimination and conflict in Japan』 Balwyn
North, Australia: Trans Pacific Press, 印刷中.

< 分担執筆 >

大淵憲一 「攻撃性と社会的勢力」 潮村公弘・福島治 (編) 『社会心理学概説』
北大路書房、53-62、2007.

Ohbuchi, K. 「The social bonds of justice: Theory and research」 In K. Ohbuchi (Ed.),
『Social justice in Japan: Concepts, theories and paradigms』 Trans Pacific Press,
3-33, 2007.

Ohbuchi, K. 「The structure justice: Theoretical considerations」 In K. Ohbuchi (Ed.),
『Social justice in Japan: Concepts, theories and paradigms』 Trans Pacific Press,
72-92, 2007.

Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness and justice: Victim psychology in conflict

- resolution」 In K. Ohbuchi (Ed.), 『Social justice in Japan: Concepts, theories and paradigms』 Trans Pacific Press, 107-126, 2007.
- 大淵憲一「レイブ神話尺度」氏原寛・岡堂哲雄・亀口憲司・西村洲衛男・馬場禮子・松島恭子(編)『心理査定実践ハンドブック』創元社, 815-817, 2007.
- 大淵憲一「不平等と公正」原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一(編著)『社会階層と不平等』放送大学教育振興会, 209-221, 2008 .
- 大淵憲一「公正な社会を目指して」原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一(編著)『社会階層と不平等』放送大学教育振興会, 222-233, 2008 .
- 大淵憲一「組織内葛藤」大淵憲一(編著)『葛藤と紛争の社会心理学：対立する人の心と行動』北大路書房, 84-94, 2008
- 大淵憲一「葛藤と紛争の社会心理学」大淵憲一(編著)『葛藤と紛争の社会心理学：対立する人の心と行動』北大路書房, 1-6, 2008.
- Ohbuchi, K. & Takada, N. 「Forgiveness for conflict resolution in Asia: Its compatibility with justice and social control」C. J. Motiel & N. M. Noor(編)『Peace psychology in Asia』, Springer, 221-236, 2009 .
- Ohbuchi, K. 「Social class and values in Japan」K. Ohbuchi & N. Asai(編)『Inequality, discrimination and conflict in Japan』Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 印刷中.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Maintaining the gender gap and benevolent sexism」K. Ohbuchi & N. Asai(編)『Inequality, discrimination and conflict in Japan』Balwyn North, Australia: Trans Pacific Press, 印刷中.

行場次朗教授

< 共同編著 >

- Gyoba, J. 「Investigation of Klee's paintings based on the 'mind-design model」 F. Maeda (Ed.) 『Paul Klee als Seelenforshcher』 Center for Integrated Research on the Mind KEIO University. 2007.
- 行場次朗・鈴木美穂・作田由衣子 「Gregory の「心のデザイン」モデルによる視覚芸術作品の分類の試み」野口薫(編)『美と感性の心理学 ゲシュタルト知覚の新しい地平』日本大学文理学部 叢書. 2007.
- 阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 20』国際文献印刷社 2007.

Honda, A., Shibata, H., Hidaka, S., Gyoba, J., Iwaya, Y., & Suzuki, Y. 「Transfer effects on auditory skills from playing virtual three-dimensional auditory games」
In B. N. Weiss (Ed), 『New Research on Acoustics』, pp141-157, Nova Science Publishers. 2008.

阿部恒之教授

< 共同編著 >

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 20』 国際文献印刷社, 2007.

< 分担執筆 >

阿部恒之 「暗黙のドレスコード」 『日本の化粧文化—化粧と美意識』, 資生堂企業資料館(編), 資生堂企業文化部, pp.43-80, 2007.

阿部恒之 「化粧」, 『ストレスの科学と健康』, 二木鋭雄(編), 共立出版, pp.189-193, 2008.

阿部恒之 「災害と化粧」, 『災害の心理学—ほんとうの安心とは何か』 仁平義明(編), 東信堂, pp.213-220, 2009.

阿部恒之 「化粧のちから」, 『化粧セラピー / 心と体を元気にする新しいちから』, 資生堂ビューティーソリューション開発センター(編), 日経 BP 社, pp.10-20, 2010.

阿部恒之 「化粧的神奇力量」, 『化粧療癒力』, 資生堂美容解答中心等(編)・陳惠莉(訳), 聯徑出版(台北) pp.10-20, 2011 (『化粧セラピー』の台湾版)

辻本昌弘准教授

< 共同編著 >

阿部恒之・大淵憲一・行場次朗・辻本昌弘・仁平義明 『心理学の視点 20』 国際文献印刷社, 2007.

< 分担執筆 >

辻本昌弘 「社会化」 潮村公弘・福島治(編) 『社会心理学概説』 北大路書房, pp.140-147, 2007.

Tsujimoto, M. 「Status, selection, and exchange in an Okinawan mutual aid system」 K. Kimura (編) 『Minorities and Diversity』 Trans Pacific Press, pp.100-112, 2011.

辻本昌弘 「文化と自己」 林洋一(監修) 『心の科学』 明星大学出版部,

pp.216-234, 2011.

荒木剛助教（2008年度以降の業績）

なし

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

仁平義明教授

仁平義明（分担訳）ジュスリン&スロボダ編『音楽と感情の心理学』（大串健吾監訳）、第7章「Negative emotions in music making: The problem of performance anxiety」を担当、誠信書房、2008.

大淵憲一教授

大淵憲一 「濃密すぎる家族の絆と内向きの関心」北海道新聞「自分とは？自己愛とは？」（1月10日付）、2007.

大淵憲一 「レイプ神話尺度」氏原寛・岡堂哲雄・亀口憲司・西村洲衛男・馬場禮子・松島恭子（編）『心理査定実践ハンドブック』、創元社、815-817、2007

大淵憲一・熊谷智宏（訳）．『コンフリクト』(Martin Jones and Andrew Fabian (Eds.), Darwin College Lecture Series, Vol. 18: Conflict. Cambridge University Press, 2006), 培風館, 2007.

大淵憲一 「攻撃行動」日本応用心理学会（編）『応用心理学事典』434-435、丸善、2008.

大淵憲一 「特別に肥大した“自己愛”：怒りに向ける対象が社会全体に」公明新聞「解説ワイド：青年による無差別殺人の背景(識者に聞く)」（4月17日付）、2008.

大淵憲一 「環境犯罪学のすすめ：「地域共同体」崩壊後の防犯を考える」『地域づくり』、第5号、2-5、2008.

大淵憲一 「肥大する自己愛に危惧」北海道新聞「相次ぐ無差別殺人」（5月14日付）、2008.

大淵憲一 「公正と文化」日本社会心理学会（編）『社会心理学事典』478-479、丸善、2009.

大淵憲一・越智啓太・藤野淳子「犯罪・非行」日本心理学会諸学会連合心理学検定局（編）『心理学検定公式問題集』、実務教育出版、346-372、2009.

大淵憲一・越智啓太・藤野淳子「犯罪・非行」日本心理学会諸学会連合心理学検

定局（編）『心理学検定基本キーワード』，実務教育出版，265-290，2009．
大淵憲一 「刑事裁判における謝罪」，『季刊 社会安全』，第 76 卷, 1, 2010.

行場次朗教授

- 行場次朗 「感覚・知覚と感性」大山正・今井省吾・和気典二・菊地正（編）『新編・知覚心理学ハンドブック』誠信書房，2007
- 行場次朗 「知覚」 海保博之・楠見孝（監修）『心理学辞典』朝倉書店, 2008
- 行場次朗 「知覚世界」他 10 項目 森 敏昭・中条和光（編集）『認知心理学キーワード』 有斐閣, 2008
- 行場次朗 「図形の認識と錯視」 内川恵二（監修）『視覚心理学入門』オーム社 2008
- 行場次朗 「形とイメージ」 原島博他（編）『知識ベース』 電子情報通信学会 2009
- 行場次朗 「感性の基本次元と脳内基盤」 日本認知心理学会監修 三浦佳世 編著 『知覚と感性』 北大路書房 2010
- 行場次朗 「美」 乾俊郎・吉川左紀子・川口潤（編）『よくわかる認知科学』 ミネルヴァ書房, 2010

阿部恒之教授

< 事典項目 >

阿部恒之 「感情の理論」，平凡社『心理学事典』，2011（印刷中）。

< パンフレット・ニュースレター等 >

阿部恒之・野家啓一 「特別対談—東北地方太平洋沖地震について改めて言葉の力について考えた」，『考えるということ』，6，2-11，2011.

阿部恒之 「東日本大震災の顔」，『顔学会ニュースレター』，46，2，2011

阿部恒之 「東日本大震災で考えたこと・実践していること」，『応用心理学のクロスロード』，4，頁未定，2011（印刷中）。

< 新聞・雑誌取材 >

阿部恒之 「東北大 100 年—学び究めて」 河北新報 （6 月 22 日付），2007.

阿部恒之 「河北抄」 河北新報 （10 月 13 日付），2007.

阿部恒之 「お年寄り 化粧で笑顔」 読売新聞埼玉版 （6 月 7 日付），2008.

- 阿部恒之 「医療ルネサンス—化粧の力」 読売新聞 (3月20日付), 2009.
- 阿部恒之 「Trend and Technology」 The Japan Economic Review (6月15日付), 2009.
- 阿部恒之 「エイジングケアは進化する」 クロワッサン (12月10日付), 2009.
- 阿部恒之 「まつげエステご用心」 読売新聞 (5月11日付), 2010.
- 阿部恒之 「技術&トレンド」 日経ビジネス (6月7日付), 2010.
- 阿部恒之 「女心を呪縛する, マイナス5歳」 POCO21 (6月10日付), 2010.
- 阿部恒之 「歴史の万華鏡/顔学~メイクアップ(前編)」 ヘアモード (9月号), 2010.
- 阿部恒之 「歴史の万華鏡/顔学~メイクアップ(後編)」 ヘアモード (10月号), 2010.
- 阿部恒之 「メイクセラピー(化粧療法)」 共同通信取材による配信で地方紙12紙に掲載 (静岡新聞夕刊, 6月30日; 伊瀬新聞, 7月5日; 日本海新聞, 7月5日; 岐阜新聞, 7月6日; 東奥新聞, 7月8日; 岩手日報, 7月8日; 中国新聞, 7月8日; 神戸新聞, 7月9日; 河北新報, 7月11日; 四国新聞, 7月19日; 長崎新聞, 8月23日; 新潟日報, 9月23日), 2010.
- 阿部恒之 「震災後の行動」 河北新報 (5月5日付), 2011.
- 阿部恒之 「化粧が私たちを元気にする」 リビング仙台 (5月14日付), 2011.
- 阿部恒之 「日本の被災地なぜ治安よい?」 神戸新聞 (6月21日付), 2011.
- 阿部恒之 「助け合いや支援で犯罪抑制 震災との関連」 産経新聞 (8月9日付), 2011.
- 阿部恒之 「犯罪学会世界大会 国, 東電の過失指摘も」 神戸新聞 (8月10日付), 2011.
- 阿部恒之 「好感を持たれるには? 心理学的考察」 河北ウイークリーせんだい (9月1日付), 2011

< 新聞連載 >

- 阿部恒之 「プリズム」 河北新報 (2009年11月18日から2010年3月30日まで毎週水曜日20回連載)
- 阿部恒之 「紙面センサー」 河北新報 (2011年10月31日から2012年3月31日まで毎月月末6回連載)

辻本昌弘准教授

辻本昌弘 書評「広瀬幸雄(編)「環境行動の社会心理学」(2008年,北大路書房)」
『社会心理学研究』, 25, 230, 2010.

辻本昌弘 書評「石黒広昭・亀田達也(編)「文化と実践:心の本質的社会性を問う」(2010年,新曜社)」『社会心理学研究』, 26, 93-94, 2010.

1-4 口頭・ポスター発表

仁平義明教授

<学会シンポジウム・ワークショップ・講演>

仁平義明 平成18年度科学技術振興調整費「重要政策課題への機動的対応の推進」
“日本人が身に付けるべき科学技術の基礎的素養に関する調査研究 21世紀
の科学技術リテラシー像” 人間科学・社会科学専門部会シンポジウム、講演
「大学生の思考の柔軟性は低下したか - ルーチンスの水差し問題の解:15年
間の変化」(東京大学駒場キャンパス,3月19日),2007.

仁平義明 日本情報ディレトリ学会 シンポジウム「ヒューマン・エラーの背
景と情報ディレトリの役割」、講演 「“日常のエラー”と“高安全必要度場
面のエラー”」(LEC東京リーガルマインド水道橋本校,9月1日),2007.

仁平義明 日本心理学会第71回大会 ワークショップ「俳句の魅力(2) - 創作
と読みへの心理学的アプローチ」、指定討論者(帝京大学,9月19日),2007.

仁平義明 日本心理学会第71回大会 ワークショップ「カウンセリング対話を科
学する(1) - 非言語行動の分析 -」、指定討論者(帝京大学,9月19日),
2007.

仁平義明 日本認知心理学会安全心理研究部会研究会講演 「防災教育のために
認知心理学ができること—4種類の防災知識の形成」(立教大学 12月1日),
2007.

仁平義明 日本情報ディレトリ学会九州支部シンポジウム「偽」について:人
はなぜ嘘をつくの、だまされるのか? 講演「偽」について:人はなぜだ
まされるのか? (アクロス福岡;日本認定心理士会九州・沖縄支部共催,2月
15日),2008.

仁平義明 第46回全国保健管理研究集会東北地方研究集会 特別講演 「学生の
人間力育成のパラダイム・シフト—ハーディネス(心の頑強さ)からレジリ
エンシー(心の回復力)へ」,(仙台国際センター,7月24日),2008.

仁平義明 日本学会議「脳と意識」分科会主催シンポジウム「社会脳2008」 講

- 演 「だまされる心」(京都大学;日本ワーキングメモリ学会共催,8月2日), 2008.
- 仁平義明 日本心理学会第72回大会ワークショップ「カウンセリングを科学する(2)」 指定討論者 (北海道大学 9月19日), 2008.
- 仁平義明 日本小児科学会第206回宮城地方会特別講演 「子どものレジリエンシー(心の回復力)をめぐる研究の動向」 (ハーネル仙台 11月8日), 2008.
- 仁平義明 日本音楽知覚認知学会 2008年秋季研究発表会公開シンポジウム「音楽環境と子どもの発達」指定討論者 (大阪学院大学 12月7日), 2008.
- 仁平義明 第5回宮城県立がんセンターフォーラム 特別講演 「がん患者と家族の心の回復力(レジリエンシー)研究の動向」 (宮城県立がんセンター2月14日), 2009.
- 仁平義明 「日本笑い学会」第16回総会・研究発表会記念講演 「“心の回復力”(レジリエンシー)とユーモア」(東北大学 7月12日, 2009.
- 仁平義明 日本心理学会第73回大会学会企画シンポジウム「心理学と倫理(2) 倫理規程の活用について考える」話題提供者「倫理規程違反があったとき」(立命館大学 8月28日), 2009.
- 仁平義明 日本学術会議心理学教育プログラム委員会 報告者「高等学校教育における心理学:現状と課題(1)」(日本学術会議 9月7日), 2009.

< 国際学会での研究発表 >

- Murakawa, Y., & Nihei, Y. 「Achieving a ‘Good’ Death in Cancer Patients -- Perceptions among Healthcare Professionals in Japan」 The 9th World Congress of Psycho-Oncology (London, England; Sep. 16-20) 2007.
- Nihei, Y., & Konno, A. 「Development of a temperament scale for dogs and cats: (1) Sub-scale reliability and temperament types」 11th International Conference on Human-Animal Interactions (Tokyo, Japan ; October 6-8), 2007.
- Konno, A., & Nihei, Y. 「Development of a temperament scale for dogs and cats: (2) A factor analysis and a cross-species comparison」 11th International Conference on Human-Animal Interactions (Tokyo, Japan ; October 6-8), 2007.
- Nihei, Y. 「Memory」 (Program address) The 10th International Conference on Music Perception and Cognition (Sapporo, August 25-28.) 2008
- Nihei, Y. & Sato, T. 「The overly suspicious person is easily deceived: The Moses illusion and paranoia tendencies.」 SARMAC□ (The 8th Meeting of the Society for

- Applied Research in Memory & Cognition) (Kyoto, July 26-28.) 2009
- Ikeda, K. & Nihei, Y. 「The effect of biased retelling and biased rewriting on autobiographical memory.」SARMAC□(The 8th Meeting of the Society for Applied Research in Memory & Cognition) (Kyoto, July 26-28.) 2009
- Sato, T., Kikuchi, F., & Nihei, Y. 「Linguistic cues for detecting deception: Morphological and content-based analysis.」SARMAC□(The 8th Meeting of the Society for Applied Research in Memory & Cognition) (Kyoto, July 26-28.) 2009

< 国内学会での一般研究発表 >

省略

大淵憲一教授

< 講演・シンポジウム・ワークショップ：国際学会等 >

- 大淵憲一 「社会的排斥と暴力：実験社会心理学的検討」2007年暴力犯罪心理と矯正国際シンポジウム」(玄奘大学社会科学院,台湾,10月13日),2007.
- Ohbuchi, K. 「Japanese' conflict on justice: Fairness principles and social ideals」
Workshop "Justice in Cultural Context." (Duke University, USA, 8月9日), 2007.
- Komatsu, S. & Ohbuchi, K. 「Relationship between Interpersonal Conflict Styles and Personality among Japanese undergraduate students」 Symposium at the International Conference on Learning Competency (Seoul, Korea, 1月18日), 2008.
- Ohbuchi, K. Symposium on 「Forgiveness as a response to interpersonal conflict: Limits and possibilities」(コメンテーター). International Association of Conflict Management 2009 Conference (Hyatt Regency Kyoto, Japan, 6月16日), 2009.
- 大淵憲一 「社会階層と逸脱：青少年の非行と社会的関係の病理」(企画、司会) 東北大学文学研究科グローバルCOE国際シンポジウム(東北大学、1月23日), 2010.
- Ohbuchi, K. Developmental courses in juvenile and adult delinquency」(企画・司会). A symposium at the 16th Congress of International Society for Criminology (神戸国際センター, 8月7日), 2011.

< 講演・シンポジウム・ワークショップ：国内学会等 >

- Ohbuchi, K. 「Forgiveness and justice in social relations」(企画). Tohoku University COE International Symposium (東北大学川内キャンパス, 3月24日), 2007.

- Ohbuchi, K. 「Inequality issues in Hong Kong」 (企画、コメンテーター) . Tohoku University COE Special Workshop (東北大学川内キャンパス, 12月2日), 2007.
- Ohbuchi, K. 「Intergroup relations and social fairness」 (企画、コメンテーター) Tohoku University COE Special Workshop (東北大学川内キャンパス, 3月22日), 2008.
- 大淵憲一 「発達領域における攻撃研究の新展開(2): 健康・適応との関連をみる」 (コメンテーター) . 日本心理学会第72回大会 (北海道大学, 9月21日) , 2008 .
- 大淵憲一 「犯罪心理学における人格要因: 自己統制の低さと逸脱」 . パーソナリティ心理学会第17回大会シンポジウム「人はなぜ犯罪を起こすにいたるのか: パーソナリティとの関連を探る」 (お茶の水大学, 11月16日) , 2008 .
- 大淵憲一 「公正の社会的絆: 正義・公正の心理学」 . 東北大学大学院文学研究科グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」開始記念式典・公開講演会 (東北大学百周年記念会館会議室, 2月7日) , 2009 .
- 大淵憲一 「Social justice, social stratification, and intergroup conflict」 (企画) . 東北大学文学研究科グローバルCOE「社会階層と不平等教育研究拠点」国際シンポジウム (仙台国際センター, 2月24日) , 2009.
- 大淵憲一 「社会階層と青少年の逸脱」 (企画、司会) . 東北犯罪科学研究会・東北大学文学研究科グローバルCOE「社会階層と不平等教育研究拠点」共催ワークショップ (東北大学萩ホール会議室 6月20日) , 2009 .
- 大淵憲一 「非行臨床の新潮流: マルチシステムミックセラピーの実際」 (企画、司会) . 東北犯罪科学研究会 (東北大学文学研究科心理学研究室 8月3日) , 2009 .
- 大淵憲一 「心理学専攻生の進路調査から」 . 日本心理学会第73回大会日本心理学会企画ラウンドテーブル「日本心理学会は将来どのような学会を目指すのか: 将来構想に関するアンケート調査の結果から」 (立命館大学敬学館, 8月26日) , 2009 .
- 大淵憲一 「防犯心理学の研究動向」 (コメンテーター) . 日本犯罪心理学会第47回大会ミニシンポジウム (沖縄国際大学、宜野湾市、10月11日) , 2009 .
- 大淵憲一 「家庭と暴力: 社会心理学の観点から」 . 日本家族研究・家族療法学会第27回福島大会基調講演 (福島県郡山市、ビッグパレットふくしま, 6月4日) , 2010
- 大淵憲一 「犯罪心理学における倫理」 (コメンテーター) . 日本犯罪心理学会第48回大会シンポジウム (目白大学, 9月18日) , 2010 .

大淵憲一「コンフリクト・リゾリューション教育：学校での紛争解決教育（CRE）の可能性」（コメンテーター）．日本応用心理学会第78回大会シンポジウム（信州大学，2011年9月10日）。

< 国際学会での一般研究発表 >

Tamura, T., & Ohbuchi, K. 「The moderating effect of rationality of aggression between dehumanizing labels and aggression」 Poster presented at the Society for Personality and Social Psychology 8th Annual Meeting, (Memphis, Tennessee, USA; January 27), 2007.

Nakagawa, T., & Ohbuchi, K. 「Effect of collective and individual low self-control and group identification on collective problem behavior」 The British Psychological Society (York, United Kingdom, 3月21日), 2007.

Ohbuchi, K. & Atsumi, E. 「Avoidance as a long-range strategy in organizational conflicts: Its functionality and “Good Fellow” image」 The 2008 Conference of International Association of Conflict Management (Renaissance Chicago Hotel, Chicago, USA, 7月5日), 2008.

Nakagawa, T., Nakamoto, N., Kuniyoshi, M., Mori, T., Yamanoha, T., & Ohbuchi, K. 「Effect of perceived group discrimination and permeability of group boundaries on group identification」 The International Society for Research on Aggression (Budapest, Hungary, 6月11日), 2008.

Tamura, T., & Ohbuchi, K. 「The effect of dehumanizing labels on aggression and justification for the behavior」 The International Society for Research on Aggression (Budapest, Hungary, 6月11日), 2008.

Mori, T., Takahashi, M., Kanto, K. & Ohbuchi, K. 「Risk Assessment of Delinquents in Japanese Juvenile Classification Home」 . Annual meetings of the American Society of Criminology (St. Louis, USA, 11月13日), 2008

Kawashima, N. 「How do People Justify Social Inequalities? : An Examination of System Justification Theory with Japanese People」 . The 3rd International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia (Soul, Korea, 3月13日), 2009.

Takada, N. & Ohbuchi, K. 「Forgiveness between China and Japan: The effect of categorical level on Chinese forgiveness toward Japanese」 . The 3rd International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia (Soul,

- Korea, 3月13日), 2009.
- Komatsu, S. & Ohbuchi, K. 「A personality approach to Japanese preference of avoidance in conflict: Neuroticism and its interaction with the situation」. Poster presented at International Association of Conflict Management 2009 Conference (Hyatt Regency Kyoto, Japan, 7月15日), 2009.
- Hikichi, H., Ohbuchi, K. & Aoki, T. 「Promotion of Cooperation among Community Residents: Effects of Familiarity with Local Historical Heritages and Commitment to the Community」. The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (Las Vegas, USA, 1月28-30日), 2010.
- Kawashima, N., Ohbuchi, K., Kumagai, T., Asai, N. 「Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of the immutability belief」. Poster presentation at The 11th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Negative Effects of the Exposure to Benevolent Sexism on Women's task Performance.」. The 11th Annual Conference of Society for Personality and Social Psychology, 2010.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「Benevolent sexism: Do women expect it?」. GCOE International Symposium: Inequality, Discrimination and Social Identity, 2010.
- Yamamoto, T. & Ohbuchi, K. 「The Effect of Women's Social Status on the Attitude toward Benevolent Sexism」. The 13th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (San Antonio, TX), 2011.
- Kawashima, N. & Ohbuchi, K. 「Micro fairness mediates the relationship between social inequalities and psychological well-being」. Poster presentation at The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (San Antonio, TX), 2011.
- Nakamata, T. & Ohbuchi, K. 「Predispositions to approach and avoid the positive and negative stimuli」. The 16th General Meeting of the European Association for Social Psychology (Sweden), 2011.
- Togawa, E. & Ohbuchi, K. Approach to juvenile sexual offenders with TAT. Paper presented at the 16th World Congress of the International Society for Criminology (Kobe International Conference Center, Kobe), 2011.
- Nakagawa, T. & Ohbuchi, K. 「Effect of collective low self-control and strain in delinquency with peer」. Poster presented at the the 16th World Congress of the

International Society for Criminology (Kobe International Conference Center, Kobe),
2011.

< 国内学会での一般研究発表 >

省略

行場次朗教授

< 招待講演・学会主催シンポジウム >

行場次朗 『系統発生的視点から見た知覚，認知』 日本基礎心理学会 2007 年
度第 1 回フォーラム 2007 年 6 月 企画

行場次朗 「感性次元の感覚関連性と脳活動」 第 9 回日本感性工学会企画セッ
ション『感性をとらえる心理学の諸相』 2007 年 8 月 話題提供

行場次朗 第 71 回日本心理学会ワークショップ『認知領域の知覚・記憶・思考
研究間のつながりを考える』 2007 年 9 月 話題提供

行場次朗 第 71 回日本心理学会小講演 寺本渉 『外部空間把握における自己身
体運動情報の役割について』 2007 年 9 月 司会

行場次朗 『「こころ」ってなんだろう？ - 心理学が解き明かす心のしくみ-』
2007 年度日本基礎心理学会公開シンポジウム 2007 年 10 月 企画

Gyoba, J. & Oyama. Recent attempts and versatile applications of multi-dimensional
psychophysics. Theme Session, International Society for Psychophysics (Fechner
Day 2007) 2007 October Tokyo 企画・講演

Gyoba, J. Investigating sensory-relevance of affective dimensions and the corresponding
brain activities. The 6th International Symposium on Advanced Technology. Tokyo
2007 November, Invited talk.

行場次朗 「意識論の最前線：心理・神経科学的知見とモデル」 第 53 回日本
理論心理学会シンポジウム 企画・司会

行場次朗 『芸術とコミュニケーション』 電子情報通信学会ヒューマンコミュ
ニケーショングループシンポジウム特別講演 2008 年 3 月 企画

行場次朗 『触覚とロボット』 日本基礎心理学会 2007 年度第 2 回フォーラム
2008 年 3 月 企画

行場次朗 『感覚間相互作用研究の現在とこれから』 日本基礎心理学会 2008
年度第 1 回フォーラム 2008 年 5 月 企画

行場次朗 日本心理学会第 72 回大会シンポジウム『意識の諸相』 2008 年 9 月

企画・司会・話題提供.

日高聡太・行場次朗 「東北大学における古典的実験機器の歴史と現状ー京都大学との比較からー」 日本心理学会第72回大会ワークショップ 『国内における実験心理学機器のアーカイブ化の現状と問題点』 2008年9月
話題提供.

柴田寛・行場次朗 「適切な受け取り動作の選択に關与する脳内基盤」 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会 2009年6月 招待講演

行場次朗 『「こころ」のサイエンスー心理学が解き明かす心のしくみー』 2009年度日本基礎心理学会公開シンポジウム 2009年10月 企画

行場次朗 『臨床的問題への基礎心理学的アプローチ』 日本基礎心理学会2009年度第2回フォーラム 2010年3月 企画・司会

行場次朗 『東日本大震災は被災地の心理学者に何を考えさせたか』 北海道・東北合同心理学会第11回大会企画シンポジウム 2010年9月 企画・司会

行場次朗 『「美感」研究の新展開』 日本心理学会第75回大会ワークショップ 2011年9月 指定討論

行場次朗 『「こころ」のサイエンスー心理学が解き明かす心のしくみー』 2011年度日本基礎心理学会公開シンポジウム 2011年11月 企画

< 海外発表 >

国際学会

Sakurai, T., Akita, T., Okada, Y., Ishi, H., Sakuta, Y., Gyoba, J., and Akamatsu, S.
「Automatic face image generation system for higher-order impression transformation」 Proceeding of International Workshop on Advanced Image Technology (Bangkok, Thailand; January 8), 2007, pp.572-577.

Fukumitsu, Y., Suzuki, Y., Shibata, H., Koizumi, M., Gyoba, J., & Hagiwara, H.
「Children's awareness of morpho-syntactic information: an auditory ERP study」 13th Annual Conference on Architectures and Mechanisms for Language Processing (Turku, Finland; August 26), 2007.

Hidaka, S., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Depth information contained in the representation of moving 3-D objects in apparent motion perception」 ECVP 2007, (Arezzo, Italy; August 28), 2007

Hidaka, S., Satoh, S., and Gyoba, J. 「Psychophysical analyses of the size effects of

- spatial attention on figure-ground assignment」 Fechner Day 2007 , (Tokyo, Japan ; October 22), 2007
- Kawachi, Y., Kawabe, T., Gyoba, J. 「 Temporal window of colour-motion binding in the stream/bounce event perception 」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Shibata, H. & Gyoba, J. 「 Effects of loading a weight on the perceived limb length 」 14th International Conference on Perception and Action. (Japan, Kanagawa; July 2-3), 2007.
- Shibata, H. & Gyoba, J. 「 Event-related potentials elicited by processing the appropriateness of visually presented cooperative actions 」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 30), 2007.
- Shibata, M, Kawachi, Y, & Gyoba, J. 「 Combined effects of perceptual-grouping cues on object representations revealed by motion-induced blindness 」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Ishi, H. & Gyoba, J. 「 Effects of backward dynamic change of happy and angry facial expressions on the perception of neutral faces 」 , Perception, vol36, Suppl., pp.105-106, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Suzuki, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「 Spatial memory bias effects in viewing preferred stimuli 」 30th European Conference on Visual Perception, (Arezzo, Italy; August 29), 2007.
- Suzuki, Y., & Gyoba, G. 「 Selective modification of tactile roughness perception in terms of auditory stimuli 」 8th International Multisensory Research Forum, (Sydney, Australia; July 5), 2007.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「 Effects of tack-irrelevant sounds on the tactile perception of roughness 」 The 23rd Meeting of the International Society of Psychophysics (Tokyo, Japan; October 20), 2007.
- Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Koizumi, M., Gyoba, J., & Hagiwara, H. 「 An event-related potential study on semantic congruity during listening to Japanese sentences in children and adults 」 13th Annual Conference on Architectures and Mechanisms for Language Processing, (Turku, Finland; August 27), 2007.
- Hidaka, S., Nagai, M., & Gyoba, J. 「 Non-reversed motion perception induced by the spatiotemporal reversal of apparent motion sequences 」 8th Annual Meeting of Vision Sciences Society (Naples, Florida; May 11), 2008

- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Auditory modulation of an ambiguous motion sequence affects the resolution of subsequent motion displays」 Second International Workshop on Kansei, (Fukuoka, Japan; March 6), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Crossmodal effects of a single auditory tone on multiple visual events」 31th European Conference on Visual Perception, (Utrecht, The Netherlands; August 25), 2008.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S., & Gyoba, J. 「Role of facial impressions and attractiveness on the mere exposure effect.」 Perception Vol. 37 Supplement (European Conference of Visual Perception 2008 Abstracts, p.35), (Utrecht, August), 2008
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Temporal window of crossmodal interaction between multiple visual events and a single auditory tone」 Asia Pacific Conference on Vision, (Brisbane, Australia; July 19), 2008.
- Kawachi, Y., Grove, P. M., Sakurai, K., & Gyoba, J. 「Two streams make a bounce: Induced motion reversal by crossing the trajectories of two motion sequences」 Vision Sciences Society 8th Annual Meeting, (Naples, Florida; May 10), 2008.
- Shibata, M., Kawachi, Y., & Gyoba, J. 「Effective spatial ranges for perceptual grouping cues in motion-induced blindness」 Asia-Pacific Conference on Vision, (Brisbane, Australia; July 20), 2008.
- Shibata, M., Kawachi, Y., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y., 「Suppressed visual awareness can be recovered by sounds presented in the relevant locations」 31th European Conference on Visual Perception, (Utrecht, Netherlands; August 27), 2008.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Sound can enhance visual representational momentum」 IMRF 2008 (Hamburg, Germany; July 16), 2008
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Dynamic auditory cues modulate visual motion processing」 ECVF 2008 (Utrecht, the Netherlands; August, 26), 2008
- Ishi, H., Sakuta, Y., Akamatsu, S., & Gyoba, J.A 「Face Image Generation System for Transforming Three Dimensions of Higher-order Impression.」 International Workshop on Advanced Image Technology (IWAIT 2009) (Seoul; January), 2009

- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S., & Gyoba, J. 「Psychological evaluation and the applicability of the Impression Transfer Vector method for synthesizing higher-order facial impressions」 International Workshop on Advanced Image Technology (IWAIT 2009), (Seoul; January) 2009
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Effects of Sounds on Tactile Roughness Depend on the Congruency between Modalities」 Third Joint Eurohaptics Conference and Symposium on Haptic Interface for Virtual Environment and Teleoperator Systems (World Haptics 2009) (Salt Lake; March) , 2009.
- Sakuta, Y., Ishi, H., Akamatsu, S. & Gyoba, J. 「Mere exposure effect and unconscious processing of facial impression」 European Society of Philosophy and Psychology (ESPP 2009), (Budapest; August), 2009
- Suzuki, Y., Takahashi, J., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「An ERP Study on the Semantic Processing of Native Language in Children Enrolled in a Foreign Language Immersion Program」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, (Kyoto, October), 2009
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「Effects of development and non-native language activities on the semantic processing of native language in preschool children」 18th International Society for Brain Electromagnetic Topography, (Kyoto, October), 2009.
- Sakamoto, S., Furune, F., Teramoto, W., Sakurai, K., Gyoba, J., Suzuki, Y. 「Effect of vestibular information on sound source distance travelled estimation」 International Multisensory Forum, (New York, June), 2009.
- Hidaka, S., Nagai, M., Bennett, P. J., Sekuler, A. B., and Gyoba, J. 「Impaired luminance detection in apparent motion trajectory」 9th Annual Meeting of Vision Sciences Society, (Sarasota, May), 2009.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Effects of tone-sequence frequency changes on visible persistence of apparently moving visual stimuli」 International Multisensory Forum, (New York, June), 2009.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Completion of a visual motion representation by auditory information」 International Multisensory Forum, (New York, June), 2009.

- Teramoto, W., Hidaka, S., Gyoba, J., and Suzuki, Y. 「Intra- and inter-modal completion of a visual motion representation」 European Conference on Visual Perception, (Hamburg, August), 2009.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「Visual preference modulates the spatial location memory of visual patterns」 8th Tsukuba International Conference on Memory, (Tsukuba, March), 2010.
- Kawachi, Y., Shibata, M., Kawabata, H., Kitamura, M., and Gyoba, J. 「An fMRI study on temporal characteristics of crossmodal/unimodal bouncing effects」 International Multisensory Forum, (Liverpool, June), 2010
- Shibata, M., Yousuke, K., Yairi, S., Iwaya, Y., Gyoba, J., & Suzuki, Y. 「Latencies for the crossmodal release of motion-induced blindness」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Suzuki, Y., & Gyoba, J. 「Spatial factors influencing the sound effects on the tactile perception of roughness」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Hidaka, S., Teramoto, W., Sugita, Y., Manaka, Y., Miyauchi, R., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y. & Suzuki, Y. 「Sounds can induce illusory visual motion perception」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., & Gyoba, J. 「Encoding-efficiency of visual pattern modulates the audio-visual interaction in repetition blindness」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Takahashi, J., Kawachi, Y., and Gyoba, J. 「The capacity of visual short-term memory for expanding and contracting objects」 15th annual meeting of the ASSC (Association for the Scientific Study of Consciousness), 2011.
- Takahashi, J., Hidaka, S., Teramoto, W., and Gyoba, J. 「Repetition blindness modulated by objects' encoding-efficiency」 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takahashi, J., Suzuki, Y., Shibata, H., Fukumitsu, Y., Gyoba, J., Hagiwara, H., and Koizumi, M. 「An ERP study on the semantic processing of native language in preschoolers: The effects of development and non-native language exposure」 Tohoku International Symposium on Multidisciplinary Neuroscience, 2011.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Sugita, Y., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y. & Suzuki, Y.

- 「The contribution of spectral-cue-based sound localization to illusory visual motion perception」 11th International Multisensory Research Forum, (Liverpool, June), 2010.
- Sakuta, Y. Ishi, H. Akamatsu, S. & Gyoba, J. 「The effects of the facial impressions on the mere exposure effect –On the aspect of facial expressions」 European Conference on Facial Expression (Duisburg, July), 2010.
- Teramoto, W., Hidaka, S., Sugita, Y., Sakamoto, S., Gyoba, J., Iwaya, Y. & Suzuki, Y. 「Effects of the alternation of sounds on the perceived direction of visual motion」 European Conference on Visual Perception, (Lausanne, August), 2010.
- Kawachi, Y., Matsue, Y., Shibata, M., Imaizumi, O., and Gyoba, J. 「Self-stimulated prepulse inhibition」 International Congress of Clinical Neurophysiology, (Kobe, November), 2010.
- Kawachi, Y., Shibata, M., Kawabata, H., Kitamura, M., & Gyoba, J. 「An fMRI study on temporal characteristics of crossmodal/unimodal bouncing effects」 11th International Multisensory Research Forum, (Fukuoka, October), 2010.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「Louder sounds make objects ' apparent sizes larger」 The 9th Tsukuba International Conference on Memory, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The effect of auditory stimuli on visual size perception」 The 15th Annual Meeting of The Association for the Scientific Study of Consciousness, 2011.
- Takeshima, Y. & Gyoba, J. 「The occurrence rate of the fission illusion differs depending on the complexity of visual stimuli」 The 12th International Multisensory Research Forum, 2011.

< 国内発表 >

約 95 件 (省略)

阿部恒之教授

< 招待講演・学会主催シンポジウム >

阿部恒之・高野ルリ子 「色彩と容貌印象の心理学的関連」, 第 32 回日本香粧

品学会シンポジウム(東京・ヤクルトホール,6月7日),2007(招待講演).
阿部恒之 「化粧のもう一つの顔—日常生活に組み込まれた感情調整装置」,第
62回日本交通医学会総会(仙台・ホテル仙台プラザ,6月7日),2008(招
待講演).
阿部恒之 「大学全入時代の心理学教育の現状と課題」,東北心理学会 63 回大
会シンポジウム(弘前大学,6月20日),2009.
阿部恒之 「美しいこと・老いること—美容の心理学」,日本美容福祉学会第 9
回学術集会特別公開講座(代々木・山野ホール,10月24日),2009
阿部恒之 「味と香りと行動の人間科学」,日本心理学会第 74 回大会シンポジ
ウム(大阪大学,9月22日),2010(指定討論).
阿部恒之 「東日本大震災は被災地の心理学者に何を考えさせたか」,北海道心
理学会・東北心理学会第 11 回合同大会シンポジウム(北翔大学,8月21
日),2011.

< 自主企画ワークショップ >

(指定討論者) 「心的イメージと感情に関する実験心理学的アプローチ」 日本
心理学会第 72 回大会(北海道大学,9月20日),2008.
(指定討論者) 「化粧心理学のパラダイム(2)」 日本心理学会第 72 回大会
(北海道大学,9月21日),2008.
(連名発表) 「嗅覚の単純接触効果—睡眠中の嗅覚刺激呈示が嗜好に及ぼす影
響」,日本心理学会第 73 回大会(立命館大学,8月27日),2009.
(話題提供) 「日本心理学会・味嗅覚と行動に関する研究会—味わうこと,香る
こと,食べること」,日本心理学会第 74 回大会(大阪大学,9月21日),
2010.

< 国際学会発表 >

Kikuchi, F.・Sato, T.・Abe, T.・Nihei, Y. 「The effects of the deception as a result of
varying contents concerning the possibility of occurrence on ratings of
truthfulness and forgiveness」 『XXIX International Congress of Psychology』
(ベルリン,7月22日),2008
Kikuchi, F.・Sato, T.・Abe, T. 「Is humor a better excuse than a lie?」,The eighth
biennial meeting of the Society for Applied Research in Memory and Cognition,
(京都,7月28日),2009.

Kawashima, M. ・ Nagasaki, F. ・ Nomura, M. ・ Hikima, R. ・ Abe, T. 「The modern meaning of 'TOKIMEKI', the Japanese traditional word on the emotional state」, International Society for Research on Emotion 2009 Conference , (ルーベン , 8月7日) , 2009.

KIKUCHI, F. ・ SATO, T. ・ Abe, T. 「The double-edged sword of humor: Humor appreciation as a key of tolerance for mistakes」, International Society for Research on Emotion 2009 Conference , (ルーベン , 8月8日) , 2009.

Wiwattanapantuwong, J. ・ Abe, T. 「Psychological influence over natural disaster preparation: a cross-country comparison between Thai and Japanese citizen」, The 3rd Thailand-Japan International Academic Conference (TJIA 2010) (名古屋大学 , 11月19日) , 2010.

Kawashima, M. ・ Shitata, M. ・ Hikima, R. ・ Abe, T. 「Evaluation of facial attractiveness with emotional change: Does a woman become more beautiful when she experiences tokimeki?」, The 10th Scientific Conference of Asian Societies of Cosmetic Scientists , (ソウル , 4月9日) , 2011.

Kikuchi, F. ・ Akita, Y. ・ Abe, T. 「Influence of olfactory cognition on the perceived effect of lip balm」, The 9th Tsukuba International Conference on Memory , (学習院大学 ・ 3月7日) , 2011.

Wiwattanapantuwong, J. ・ Abe, T. 「The role of emotions in disaster preparation: A cross-country comparison between Japan and Thailand」, International Society for Research on Emotion 2011 Conference , (京都ガーデンパレス ・ 7月27日) , 2011

Abe, T. 「Crime and mutual aid in disaster areas」, The 16th World Congress of the International Society for Criminology (神戸 ・ 国際会議場 , 8月9日) , 2011.

Wiwattanapantuwong, J. ・ Abe, T. 「The difference of disaster preparation styles between central and southern Thailand's citizen」, The 4th Thailand-Japan International Academic Conference , (東京大学 ・ 11月26日) , 2011.

< 国内一般発表 >

阿部恒之 「感情とマナー—他者の行為への感情評価が自分の行為に及ぼす影響」 日本感情心理学会第15回大会 (大阪学院大学 , 5月20日) , 2007

菊地史倫 ・ 佐藤拓 ・ 阿部恒之 ・ 仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討—“真

- 実性”と“許容性”」 日本感情心理学会第 15 回大会（大阪学院大学，5 月 20 日），2007.
- 庄司耀・阿部恒之 「感情の適応的機能に関する研究」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学，9 月 6 日），2007.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討—“真実性”と“許容性”」 日本感情心理学会第 15 回大会（大阪学院大学，5 月 20 日），2007.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「生起確率操作によるウソの検討—ウソをつかれるときの信じることと赦すこと」 日本認知心理学会第 5 回大会（京都大学，5 月 26 日），2007.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「日常生活における利己的・利他的動機に基づくウソ」 東北心理学会第 61 回大会（岩手大学，9 月 6 日），2007.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「利他的なウソが自己と他者の感情評価に及ぼす影響」 『日本感情心理学会第 16 回大会（吾妻女子大学，5 月 18 日），2008.
- 庄司耀・菊地史倫・阿部恒之 「社会生活マナー形成における感情の役割—エスカレーター乗車に関する調査」 日本感情心理学会第 16 回大会（吾妻女子大学，5 月 18 日），2008.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「強調語が利他的ウソの社会的機能に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 6 回大会（千葉大学，6 月 1 日），2008.
- 菊地史倫・阿部恒之・庄司耀・樋口貴弘 「基本精油がもたらすストレス緩和効果の生理心理学的検討」 日本生理心理学会第 26 回大会（琉球大学，7 月 6 日），2008.
- 菊地史倫・阿部恒之・庄司耀 「モラルと感情に関する探索的研究—新聞記事“モラルを問う”への投書内容の検討」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大学，9 月 21 日），2008.
- 庄司耀・阿部恒之・菊地史倫・樋口貴弘 「ストレス課題に対する香りの認知的効果の検討—印象・嗜好の関連について」 日本心理学会第 72 回大会（北海道大学，9 月 19 日），2008.
- 庄司 耀・阿部恒之「睡眠中の香り接触による生理心理学的変化」 東北心理学会第 62 回大会（東北大学，7 月 19 日），2008.
- 佐藤智穂・阿部恒之「メーキャップが顔の知覚に及ぼす影響」 東北心理学会第 62 回大会（東北大学，7 月 19 日），2008.
- 佐藤智穂・阿部恒之「アイシャドーが目の大きさ知覚に及ぼす影響」 日本顔学

- 会第 13 回大会（東京大学，10 月 11 日），2008.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「ユーモア知覚が過失に対する寛容さに及ぼす影響」 日本感情心理学会第 17 回大会（徳島大学，5 月 31 日），2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「他者との関係維持方略としてのウソ」，東北心理学会第 63 回大会（弘前大学，6 月 20 日），2009.
- 菊地史倫・庄司耀・阿部恒之 「嗅覚の単純接触効果—睡眠中の嗅覚刺激呈示が嗜好に及ぼす影響」 日本認知心理学会第 7 回大会（立教大学，7 月 19 日），2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「ユーモアによる過失の言い訳—笑い反応の表示効果」 日本心理学会第 73 回大会（立命館大学，8 月 26 日），2009.
- 佐藤智穂・阿部恒之 「手・爪の美しさについて—手と爪の形状の相互作用」 東北心理学会第 63 回大会（弘前大学，6 月 20 日），2009.
- 佐藤智穂・阿部恒之 「手の美しさと爪の形状の関連」 日本心理学会第 73 回大会（立命館大学，8 月 28 日），2009.
- 長崎芙美・河島三幸・野村美佳・阿部恒之 「『ときめき』という心理現象の実態把握—対象と生理反応の自覚を中心に」 日本心理学会第 73 回大会（立命館大学，8 月 27 日），2009.
- 加藤ちあき・阿部恒之 「学生生活における気晴らしに関する心理学的研究」 東北心理学会第 63 回大会（弘前大学，6 月 21 日），2009.
- 設楽茉莉絵・阿部恒之 「性別判断に及ぼす顔の色彩情報の影響」 東北心理学会第 63 回大会（弘前大学，6 月 20 日），2009.
- 菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之 「嘘の誤算—嘘の露見が弁解の効能に与える影響」 日本心理学会第 74 回大会（大阪大学，9 月 22 日），2010.
- 設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之 「ときめきは表情にあらわれるか」 日本心理学会第 74 回大会（大阪大学，9 月 22 日），2010.
- 河島三幸・設楽茉莉絵・引間理恵・阿部恒之 「ときめいているときの表情—他者による弁別と形態特徴」 第 15 回日本顔学会大会（東京医科歯科大学，10 月 24 日），2010.
- 設楽茉莉絵・河島三幸・阿部恒之 「ときめいている顔の魅力と印象」 東北心理学会第 64 回大会（宮城学院女子大学，9 月 11 日），2010.
- 加藤ちあき・阿部恒之 「携帯型ゲームの生理心理学的効果」 東北心理学会第 64 回大会（宮城学院女子大学，9 月 11 日），2010.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「防災意識の国際比較研究—タイ人，

- 日本人, タイ人日本留学生を対象に」 東北心理学会第 64 回大会 (宮城学院女子大学, 9 月 11 日), 2010.
- 河島三幸・設楽茉莉絵・引間理恵・阿部恒之 「感情変化に伴う表情の魅力の変化:ときめく女性はキレイ?」 SCCJ 研究討論会・ASCS 韓国大会国内報告会 (大阪国際交流センター, 6 月 25 日), 2011.
- 李佳容・阿部恒之 「日台の化粧習慣と美容意識」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会 (北翔大学・8 月 21 日), 2011.
- Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「防災意識に与える被災感情の影響—タイにおける面接調査」 北海道心理学会・東北心理学会第 11 回合同大会 (北翔大学・8 月 21 日), 2011.
- 李佳容・阿部恒之 「化粧意識についての日台比較—半構造化面接を中心に」 日本感情心理学会第 19 回大会 (京都光華女子大学・9 月 3 日), 2011.
- 織田弥生・高野ルリ子・阿部恒之 「短期的・長期的心理状態を測定可能な情動・覚醒質問紙の作成 (3)—妥当性の検討(2)」 日本心理学会第 75 回大会 (日本大学・9 月 15 日), 2011
- Juthatip Wiwattanapantuwong・阿部恒之 「被災感情が防災意識に与える影響—日本とタイの国際比較」 日本感情心理学会第 19 回大会 (京都光華女子大学・9 月 3 日), 2011.

辻本昌弘准教授

<招待講演・学会主催シンポジウム>

- 辻本昌弘 「地域社会の歴史と相互協力」 『聞くこととしての時間—生きた時間の記述』 日本質的心理学会第 4 回大会 大会シンポジウム (奈良女子大学, 9 月 30 日), 2007.
- 辻本昌弘 「地域社会の事例による社会的交換の検討」グローバル COE「心の社会性に関する教育研究拠点」第 3 回一般公開ワークショップ (東京工業大学, 3 月 9 日), 2008.
- 辻本昌弘 「ナラティブと生活実践」 『ナラティブ・アプローチの向こう側:質的研究の豊饒化に向けて』 日本質的心理学会第 5 回大会 研究交流委員会企画シンポジウム (筑波大学, 11 月 30 日), 2008.
- 辻本昌弘 「地域研究の視点から」 『新たな社会心理学の展開と現状からの脱却』 日本社会心理学会第 50 回大会記念シンポジウム (大阪大学, 10 月 11 日), 2009.

辻本昌弘 「南米日系人の調査から」 『フィールドワーク：東北フィールド学派の系譜をめぐって』日本質的心理学会第7回大会 大会企画シンポジウム(茨城大学, 11月27日), 2010.

< 自主企画ワークショップ >

辻本昌弘 「南米日系人の講集団にみる危機対処」 『「安全・安心」の社会哲学』日本社会心理学会第50回大会 日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会 合同大会ワークショップ(大阪大学, 10月12日), 2009.

< 海外発表 >

Tsujimoto, M. 「An indigenous form of social exchange in Okinawa Island」 International Conference of Revisited Asian Society, (Yogyakarta, July 23), 2011.

< 国内発表 >

小池心平・中丸麻由子・辻本昌弘 「経済的講集団における面識関係の活用と社会的ジレンマ」 第47回数理社会学会大会(京都産業大学, 3月7日), 2009.
辻本昌弘・Alejandro Kuda 「アルゼンチン日系人の生活史」 東北心理学会第64回大会(宮城学院女子大学, 9月12日), 2010.

荒木剛助教(2008年度以降の業績)

< 招待講演・学会主催シンポジウム >

荒木 剛 「ペシミズム(悲観主義)の positive な側面」 日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会企画シンポジウム『パーソナリティを多面的に捉える』(東北大学, 7月25日), 2009.

< 国内発表 >

荒木 剛・佐藤 拓・菊地史倫・池田和浩 「侵入思考に対する自我違和的評価と関連する諸要因—パーソナリティ、統制感の影響—」 東北心理学会第62回大会(東北大学, 7月20日) 2008.

荒木 剛・佐藤 拓・菊地史倫・池田和浩 「侵入思考に対する自我異和的評価と関連する諸要因□パーソナリティ、対処スタイルの影響□」 日本パーソナリティ心理学会第17回大会(お茶の水女子大学, 11月15日、16日), 2008.

荒木 剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価と対処方略の関係 - 縦断的検討 - 」 東北心理学会第 63 回大会, 2009.

荒木 剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係」 日本行動療法学会第 35 回大会, 2009.

荒木 剛・佐藤拓・菊地史倫・池田和浩. 「侵入思考に対する自我違和的評価とコーピングの関係(2)」 日本心理学会第 74 回大会, 2010.

2 教員の受賞歴 (2007 ~ 2011 年度)

仁平義明教授

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「第 15 回日本感情心理学会優秀発表賞」, 2007 年

佐藤拓・仁平義明 「第 6 回日本認知心理学会優秀発表賞」 2008 年

池田和浩・仁平義明 「日本心理学会優秀論文賞」 2009 年

大淵憲一教授

行場次朗教授

日高聡太・行場次朗 「第 5 回日本認知心理学会優秀発表賞(発表力評価部門)」, 2007

河地庸介・行場次朗 「電子情報通信学会平成 19 年度ヒューマンコミュニケーション賞」, 2007.

寺本渉・吉田和博・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一 「日本バーチャルリアリティ学会 2011 年度論文賞」, 2011.

行場次朗 「第 6 回今井賞」, 2011.

阿部恒之教授

菊地史倫・佐藤拓・阿部恒之・仁平義明 「第 15 回日本感情心理学会優秀発表賞」, 2007.

遠藤光男・桐田隆博・阿部恒之「2010 年度基礎心理学研究優秀論文賞」, 2011

辻本昌弘准教授

辻本昌弘・國吉美也子・與久田巖「第 10 回日本社会心理学会奨励論文賞」、2008 年

荒木剛助教（2008 年度以降）

なし

教員による競争的資金獲得（2007～2011 年度）

（1）科学研究費補助金

仁平義明教授

仁平義明, 科学研究費補助金（萌芽研究・研究代表者）「ことばで説明しにくいものの説明：運動の言語的説明に関する研究」（2006 年度～2008 年度）

仁平義明, 科学研究費補助金（基盤研究(B)・分担研究者）「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用」（2007 年度）

仁平義明, 科学研究費補助金（基盤研究(B)・研究代表者）「発達障害児のリジリエンシー（心の回復力）の形成要因に関する研究」（2008 年度～）

大淵憲一教授

文学研究科 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」（事業推進担当者）2003 年度～2007 年度

科学研究費補助金（萌芽研究、研究代表者）「日本思想からみた正義・公正観念：社会心理学的検討」2007 年度～2009 年度

科学研究費補助金（基盤研究(B)、研究分担者）「中高年者の高次脳機能と筋運動機能および生活習慣との関連に関する神経心理学的研究」2007 年度～

科学研究費補助金（基盤研究(B)、研究分担者）「脳画像の適正な社会的使用のための基礎研究」2008 年度～

科学研究費補助金（基盤研究(C)、研究分担者）「教育価値観と葛藤解決の包括的研究：国際比較と世代間比較」2008 年度～

グローバル COE「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」（事業推進担当者）2008 年度～

科学研究費補助金（基盤研究(B)、研究代表者）「現代日本人の価値観：古層と伝統的思想（仏教、儒教、神道・国学）の影響」2010 年度～2013 年度

行場次朗教授

科学研究費補助金「基盤研究（C）（一般）」「意味微分法で抽出される感性次元の脳内基盤の解明」（2009～2011 年度） 代表

科学研究費補助金「基盤研究（B）（一般）」「顔の視覚像が感性印象に寄与する因子の実験的・心理学的分析」（2009～2011年度） 分担

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「児童青年期精神障害および高齢者関連疾患における先進的個別化予防ケアシステムの構築に関する研究」（平成20～平成24年度）分担

科学研究費補助金「基盤研究（B）（一般）」「心のデザイン」モデルによる視覚芸術の特性と脳内基盤の解明」（2006～2008年度） 代表

科学研究費補助金「萌芽研究」「短調美と長調美の特質と脳内基盤の差異」（2006～2008年度） 代表

科学研究費補助金「基盤研究（B）（一般）」「顔と物体の高次視覚印象の予測モデルと共通的感性にもとづく造形デザインへの応用」（2006～2008年度） 分担

科学研究費補助金「特定領域研究（公募研究）」「PETによる分子・機能イメージングを組み合わせたヒトの認知・注意・感情の機能研究」（2005～2007年度） 分担

科学研究費補助金「特別推進研究」「マルチモーダル感覚情報の時空間統合」（2007～2011年度） 分担

科学研究費補助金「基盤研究（B）（一般）」「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用」 分担

文部科学省学術フロンティア推進事業「五感を介する刺激測定に基づく健康向上のための人間環境システムの構築」（平成16～20年度）分担

科学研究費補助金「基盤研究（S）（一般）」「OS型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究」（平成22～26年度）分担

科学研究費補助金「基盤研究（B）（一般）」「実験心理学における古典的実験機器のアーカイブ化とその活用」（平成22～24年度）分担

阿部恒之教授

「ハイパー・ダイアローグの包括的理解」（研究分担者）,基盤研究(C)2150002 ,
（研究代表者：戸島貴代志）, 2009年度～2011年度

辻本昌弘准教授

科学研究費補助金若手研究(B) 「地域社会における資源交換と相互協力」（2006年度～2008年度） 代表

東北大学 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」(2005 年度～2007 年度) 事業推進担当者
東北大学グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点」事業推進担当者(2008 年度～)
科学研究費補助金若手研究(B) 「アルゼンチン日系人の文化変容」(2009 年度～) 代表

荒木剛助教(2008 年度以降)

科学研究費補助金若手研究(スタートアップ) 「侵入思考に対する自我異和的評価と思考抑制の関係」(2008～2009 年度) 代表

(2) その他

仁平義明教授

総長裁量経費「地域社会を災害から守るための防災科学研究拠点の形成と地域連携事業の構築」(分担研究者:2007・2008・2009 年度)

大淵憲一教授

なし

行場次朗教授

なし

阿部恒之教授

平成 18 年度社団法人日本アロマ環境協会研究助成(2006 年 10 月～2007 年 9 月)

(株)資生堂 共同研究「現代女性における理想的な手及び爪の形態に関する心理学的研究」(2008 年 10 月～2009 年 9 月)

(株)カネボウ 共同研究「ときめきの心理学的研究」(2008 年 10 月～2009 年 3 月)

(株)カネボウ 共同研究「ときめきの心理学的研究(2)」(2009 年 4 月～2009 年 9 月)

(株)カネボウ 共同研究「ときめきの心理学的研究(3)」(2009 年 10 月～2010 年 3 月)

(株)任天堂 共同研究「エンタテインメントとスマートエイジングの研究」(研究代表者の加齢医学研究所より研究分担,2009 年 10 月～2010 年 9 月)

東北大学防災科学研究拠点(総長裁量経費,2010 年 4 月～)

国土交通省 「名取川美化アドバイザー」（契約としては㈱建設技術研究所東北支社への学術指導，2010年11月15日~2011年3月31日）

辻本昌弘准教授

東北開発記念財団 海外派遣援助金（2007年度）

荒木剛助教（2008年度）

なし

教員による社会貢献（2007～2011年度）

< 委員等 >

仁平義明教授

日本学術会議連携会員（2006年3月～）

日本学術会議心理学教育分科会委員（2006年～）

日本学術会議脳と意識分科会委員（2006年～）

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2008・2009）

日本学術振興会審査・評価第一部会専門委員（2008・2009）

日本学術振興会特別研究員等審査会委員（2009）

八戸工業高等専門学校「文部科学省学生支援GP」外部アドバイザー（2008）

宮城県立こども病院倫理委員会外部委員（2004～）

宮城県立こども病院治験審査委員会外部委員（2004～）

東北放送番組審議会委員（2009～）

NPO 法人ワンダーポケット（宮城県立こども病院ボランティア支援団体）理事（2003～2009）

大淵憲一教授

日本学術会議連携委員（2005年度～）

日本社会安全研究財団評議員（2006年度～）

放送大学客員教員（宮城学習センター所属）（1998年度～2010年度）

文部科学省科学技術・学術審議会専門委員（2007年度～2010年度）

文部科学省科学研究費補助金における評価に関する委員会評価者（人文・社会系）（2007年度～2010年度）

学位評価・授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員（2007年度～2008

年度)

独立行政法人社会技術研究開発センター評価委員会専門委員 (2009 年度 ~)

仙台地方裁判所委員会委員 (2009 年度 ~)

行場次朗教授

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (2005 ~ 現在)

文部科学省科学技術動向研究センター専門調査員 (2001 年度 ~ 現在)

大学基準協会評価委員 (2006 ~ 2008)

阿部恒之教授

なし

辻本昌弘准教授

なし

荒木剛助教 (2008 年度以降)

仙台市教育局「学習意欲の科学的研究に関するプロジェクト」構成委員 (2010 年度 ~)

仙台市教育局「たくましく生きる力育成プログラム」開発検討会議アドバイザー (2010 年度 ~)

< 公開講座・公開シンポジウム・公開講演等 >

仁平義明教授

仁平義明 仙台豊齢学園主催 ふれあい福祉コース講座「社会貢献活動□ - 高齢者の社会貢献」(於仙台市シルバーセンター) 講演「“ユーモアも社会貢献か”」 2007 年 7 月 2 日.

仁平義明 東北大学工学研究科附属災害制御研究センター主催「チャレンジ防災講座」(エルパーク仙台) 「東北 6 県全市町村の防災教育ニーズを分析する」 2007 年 7 月 18 日.

仁平義明 NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・宮城 「ボランティアコーディネーター養成講座」(仙台戦災復興記念館) 講演 「自閉症児の特別な才能観の見直し - 障害者の能力をほんとうに活かすために - 」 2007 年 9 月 29 日.

- 仁平義明 宮城県特別支援教育センター開放講義 「子どもに障害をどう説明すればいいのか」(宮城県特別支援教育センター) 2007年12月5日. 仁平義明 山形県庄内保健所・庄内児童相談所主催 平成19年度児童虐待防止研修会講演 「児童虐待の世代間連鎖を予防するために—子どもの心の回復力(レジリエンシー)を育てる条件」(鶴岡市勤労者会館 11月9日), 2007.
- 仁平義明 第35回日本臨床矯正歯科医会大会 講演 「レジリエンシーを育てる矯正歯科治療」(栃木県総合文化センター 11月14日), 2007.
- 仁平義明 宮城県立こども病院「倫理に関する研修会」講演 「医療の場におけるあやまち・謝罪・ゆるしを考える」(宮城県立こども病院愛子ホール 12月25日), 2007.
- 仁平義明 宮城県金融広報委員会平成19年度金融広報アドバイザー研修会 講演 「人はなぜ悪徳商法にだまされるか—心理学的アプローチから」(宮城県庁 1月10日), 2008.
- 仁平義明 八戸工業高等専門学校新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)「地域資源と学寮を活用した人間力の育成」講演「メンターが育てる心の回復力」(八戸工業高等専門学校 2月6日), 2008.
- 仁平義明 社団法人神奈川学習障害教育研究協会(神奈川LD学会)2007年度冬のセミナー 「子どものレジリエンシー(心の回復力)を育てる」(ウィリング横浜 2月10日), 2008.
- 仁平義明 宮城県・財団法人自治総合センター主催 地域防災力支援シンポジウム 「宮城県沖地震に備えた地域における防災教育」(仙台国際センター 3月27日), 2008.
- 仁平義明 東北大学主催 東北大学新入生歓迎セミナー「東北大学の最先端と未来」 「文化としてのカラスの自動車利用行動」(仙台国際センター 4月5日), 2008.
- 仁平義明 広島市矯正歯科医会創立25周年記念講演 「人間力の考え方の転換—ハーディネス(心の頑健さ)からレジリエンシー(心の回復力)へ—」(広島市歯科医師会館 6月1日), 2008.
- 仁平義明 日本自閉症スペクトラム学会「自閉症スペクトラム支援士」北海道支部資格認定講座 講義「自閉症者の”特別な才能”を見直す」(石狩市保健福祉総合センターりんくる 8月10日), 2008.
- 仁平義明 財団法人東北自治研修所 第108回東北六県管理者研修(地震防災) 講演「東北自治体の防災ニーズと防災の心理学」(東北自治研修所 10月

31日), 2008.

仁平義明 福島大学人間発達文化学類 学術講演会 「レジリエンシー(心の回復力)研究の最前線」(福島大学 10月28日), 2008.

仁平義明 福島県臨床心理士会主催 第10回こころの健康会議 基調講演「子どもの心の回復力(レジリエンシー)を育てる」(福島医科大学 11月16日), 2008.

仁平義明 宮城県立こども病院安全対策講習会講演「エラー学入門」(宮城県立こども病院 12月15日), 2008.

仁平義明 公開シンポジウム in Fukushima 2009 「発達障害のある子どもの心の回復力(レジリエンシー)を考える 基調講演「心の回復力(レジリエンシー)研究と実践の動向」(コラッセふくしま 2月7日), 2009.

仁平義明 「南光台学院」記念講話 「人間はだまされるようにプログラムされている」(南光台市民センター 2月20日), 2009.

仁平義明 福島大学学生支援グループ・学生生活委員会講演会 「大学生の心の回復力を考えるー強い心からしなやかな心へ」(福島大学 2月27日), 2009.

仁平義明 仙台ロータリークラブ講演「人間力育成の世界的転換ーハーディネス(心の強さ)からレジリエンシー(心の回復力)へ」(ホテルメトロポリタン仙台 4月14日), 2009.

仁平義明 東北大学災害防止対策全学講習会 講演「安全の心理学」(東北大学 金属材料研究所講堂 6月12日), 2009.

仁平義明 平成21年度(第29回)「仙台の教育を語る会」シンポジウム 基調講演 「心のつよさ(ハーディネス)から心の回復力(レジリエンシー)へー子どもの心に今求められているものは何かー」(仙台市ホテル白萩 7月9日), 2009.

仁平義明 第49回仙台市私立幼稚園PTA連合研修大会 講演「子どもの心の回復力を育てる」(仙台市イズミティ 21 9月3日) 2009.

仁平義明 須賀川養護学校郡山分校教育講演会 「人間関係で傷ついた子どもの心の回復力を育てる」(須賀川養護学校郡山分校 9月25日), 2009.

大淵憲一教授

大淵憲一 「暴力犯罪者の心理」平成19年度保護司特別研修(福島県穴原温泉摺上亭大島, 6月21日), 2007

- 大淵憲一 「青少年の暴力」放送大学宮城学習センター・オープンキャンパス・ミニ講義（放送大学宮城学習センター, 7月14日）, 2007
- 大淵憲一 「社会的排斥と不適応行動」高大連携事業地域開催公開講座「東北大学公開講座」（宮城県仙台第一高等学校, 8月2日）, 2007
- 大淵憲一 「男性・女性の心理学：夫婦関係の理解のために」 仙台調停協会講演会（仙台地方裁判所, 10月2日）, 2007
- 大淵憲一 NHK 総合テレビ番組「ためしてガッテン:怒りの心理学」企画協力(2007年11月7日放送)
- 大淵憲一 「児童虐待と親を巡る問題（講演者本間博彰）（企画・司会）犯罪心理学会東北地区研究会講演会（東北大学さくらホール, 2008年3月29日）.
- 大淵憲一 「ADRの心理学」境界紛争解決支援センターふくしま設立準備委員会主催 ADR 相談員・調停員養成講座(郡山市労働福祉会館, 2008年5月31日).
- 大淵憲一 「社会的排斥と不適応行動：実験社会心理学的検討」. 第5回群馬大学社会心理学セミナー（群馬大学ミューズホール, 10月23日）, 2008.
- 大淵憲一 「社会心理学入門：人の心を推測する」. 秋田県能代高等学校出前授業（11月12日）, 2008
- 大淵憲一 「社会心理学からみた現代の子ども達の心：家族内の暴力事件の分析から」. 石巻保健教育研究会講演会（石巻市こもれびの降る丘遊楽館, 12月2日）, 2008.
- 大淵憲一 「家族と暴力」. ひょうご講座（兵庫県民会館, 6月5日）, 2009.
- 大淵憲一 「実証研究に基づく犯罪原因論：統制理論と緊張理論の展開」. 法務省矯正研修所講義（法務省矯正研修所, 9月25日）, 2009.
- 大淵憲一 「裁判と心理学」. 放送大学宮城学習センター入学者の集い・講話（東北大学金属材料研究所9月27日）, 2009.
- 大淵憲一 「ストレスと非行：ストレイン理論の展開」. 仙台家庭裁判所研修（仙台家庭裁判所, 10月1日）, 2009.
- 大淵憲一 「犯罪理論の新展開：統制理論と緊張理論」. （法務省矯正研修所, 3月1日）, 2010
- 大淵憲一 「取調の心理学」. 東北管区警察局取調技能専科（東北管区警察学校, 8月3日）, 2010.
- 大淵憲一 「ストレスと犯罪」（法務省矯正研修所, 9月17日）, 2010.
- 大淵憲一 「ストレスと犯罪」（法務省矯正研修所, 3月9日）, 2011.
- 大淵憲一 「自己統制研究の最前線」（法務省矯正研修所, 9月16日）, 2011

大淵憲一「取調の心理学」東北管区警察局取調技能専科（東北管区警察学校, 10月19日）, 2011.

大淵憲一「取調の心理学」（宮城県警察学校, 12月7日）, 2011.

行場次朗教授

行場次朗 特別講演会 Associate Prof. J. M. Brown 『Visual Streams and Shifting Attention』 東北大学文学研究科 2008年12月15日 企画・司会

行場次朗 特別講演会 Prof. N. Wade 『Space and motion in science and art』 東北大学文学研究科 2006年11月10日 企画・司会

行場次朗 特別講演会 Prof. V. Sarris 『Relational psychophysics』 東北大学文学研究科 2007年10月26日 企画・司会

行場次朗 日本感性福祉学会第8回大会 特別講演 原島博 教授 『コミュニケーション技術は文化の創造を目指す』 2008年11月16日 企画・司会

行場次朗 日本感性福祉学会第8回大会 シンポジウム 『感性福祉と情報工学・心理学の接点』 2008年11月16日 主催・企画・司会

行場次朗 Prof. M. E. McCourt 『Brightening Prospects for Understanding the Neural Coding of Perceived Luminance: Lessons from 25 Years of Research on Grating Induction』 日本基礎心理学会第27回大会特別講演 2008年12月6日 主催・企画・司会

行場次朗 『ヴント文庫見学・古典的心理実験機器展示会』 日本基礎心理学会第27回大会特別企画 主催・企画

行場次朗 特別講演会 Prof. Wolfgang Skrandies 『Human cognitive neurophysiology —Examples from perceptual learning and language processing—』 東北大学文学研究科 2009年10月6日・企画・司会

行場次朗 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会 電気通信研究所 2001年から毎年12月 企画

阿部恒之教授

阿部恒之 講義「化粧品心理効果」, 日本化粧品技術者会主催・化粧品技術基礎講習会（有楽町・朝日ホール等）, （2000-）2010

阿部恒之 講義「化粧品と心理」, 西日本化粧品工業会等主催・化粧品技術基礎講習会（大阪・大阪商工会議所国際会議ホール等）, （2003-）2010

阿部恒之 講義「化粧の心理学」, 文化服装学院スタイリスト科2年ファッション

- ンモデルコース（新宿・同校），2006-2007
- 阿部恒之 講演「生きることの形」，有備館講座（宮城県大崎市・スコレハウス，6月16日），2007
- 阿部恒之 講演「美しさの起源—化粧とふるまいの心理学」，フォーラム21・梅下村塾（軽井沢・富士ゼロックス「軽井沢倶楽部」，7月14～15日），2007
- 阿部恒之 講演「化粧心理学—美しさを科学する」，仙台放送社員向け講演会（仙台・仙台放送社屋，7月24日），2007
- 阿部恒之 講演・展示「心理学の百年・心理学研究室の五十年」，東北大学百周年記念祭・文学研究科展示（東北大学片平キャンパス，8月25～26日），2007
- 阿部恒之 講演「喜怒哀楽に揺れる心と化粧」，みやぎ県民大学（東北大学南キャンパス，9月22日），2007
- 阿部恒之 講義「心理学入門—心の不思議を探る」，宮城県立石巻高校特別授業（10月25日），2007
- 阿部恒之 講演「化粧に向けられた心理学のまなざし」，東北大学心理学研究室茶話会／日本認定心理士会北海道・東北支部研修会（メディアテーク仙台，2月22日），2008
- 阿部恒之 講義「心理学入門—心の謎をいかに探るか」，宮城県立第二女子高校特別授業（11月13日），2008
- 阿部恒之 講演「美しく生きる—化粧と心」，資生堂学園創立50周年記念特別セミナー（東京・資生堂学園，3月14日），2009
- 阿部恒之 講演「心の謎を見つけ，課題を立てる—方法論再考」，みやぎ県民大学・教免許状更新講座（東北大学南キャンパス，9月14日），2009
- 阿部恒之 講義「心理学入門」，山形県立山形東高校特別授業（10月6日），2009
- 阿部恒之 ラジオ出演 「東北大学防災 UPDATES!」，FM 仙台（12月6日，12月20日），2009
- 阿部恒之 ラジオ出演 「あなたを守る防災ラジオ」，FM 仙台（12月20日），2009；（1月16日），2010
- 阿部恒之 講演「美しい年齢の重ね方・一瞬も一生も美しく／加点法の美意識」，第2回元気！健康！フェア in とうほく（仙台国際センター，2月28日），2010
- 阿部恒之 講演「メンタルケア論 —化粧という感情調節装置」，第120回メンタルケア・スペシャリスト養成講座・基礎課程（フォレスト仙台，4月11

- 日), 2010
- 阿部恒之 講演 「心理学で解き明かす化粧の秘密」, 東北文化研究会(片平
さくらホール, 7月10日), 2010
- 阿部恒之 講義「心理学入門」, 平成22年度高大連携に係わる地域公開講座(宮
城県立白石高校会場, 7月20日), 2010
- 阿部恒之 パネリスト「感情を表す,感情を読み取る一人と人とを結ぶ心理学」,
同志社大学心理学部開設記念シンポジウム2010(同志社大学 9月23日),
2010
- 阿部恒之 講演「被災者のマナー—被災後の生活と治安」, 東北大学による東日
本大震災1ヶ月後緊急報告会(仙台・トラストシティ カンファレンス, 4
月13日), 2011 (東北大学防災科学研究拠点)
- 阿部恒之・本多明生・Juthatip Wiwattanapantuwong 講演「被災者のマナー(2)—被
災時の混乱と助け合い」, 東北大学による東日本大震災3ヶ月後緊急報告
会(仙台・国際センター, 6月10日), 2011 (東北大学防災科学研究拠
点)
- 阿部恒之・本多明生・Juthatip Wiwattanapantuwong 講演「被災者のマナー(3)—被
災後の生活と治安」, 東北大学による東日本大震災6ヶ月後報告会・復興
に向けての大学の役割(仙台・トラストシティ カンファレンス, 9月13
日), 2011 (東北大学防災科学研究拠点)
- 阿部恒之 講演「震災と心理学—被災者のマナー」, 広島修道大学人文学部主催
学術講演会(広島修道大学・6月24日), 2011
- 阿部恒之 講演「メンタルケア論 —化粧という感情調節装置」, 第130回メン
タルケア・スペシャリスト養成講座(仙台会場)・基礎課程(フォレスト
仙台・10月30日), 2011
- 阿部恒之 講演「男と女—見た目の違いと心の違い」, 斉理蔵の講座,(丸森町・
斉理蔵・6月4日), 2011
- 阿部恒之 講演「加齢と美しさ」, 加齢研市民公開講座・スマートエイジング(加
齢研・10月15日), 2011
- 阿部恒之 ラジオ出演 「あなたを守る防災ラジオ」, FM 仙台, 放送日未定,
2011

辻本昌弘准教授

福島県立安積高等学校模擬授業(2008年9月25日)

福島県立安積黎明高等学校「大学・学問体験講座」（2008年11月5日）
齋理蔵講座「南米の日系人を訪ねて」（2009年6月6日）
辻本昌弘 「人間の心理と行動」有備館講座（宮城県大崎市・スコレハウス，5月15日），2010
辻本昌弘 「困難をどう生き抜くか」山形大学人文学部特別招待講義（山形大学，6月3日），2010
辻本昌弘 「人間の心理と行動」福島県立安積黎明高等学校「大学・学問体験講座」（7月7日），2010
辻本昌弘 「人間の心理と行動」みやぎ県民大学（東北大学，9月17日），2011

荒木剛助教（2008年度以降）

北海道教育大学三講演会「人間発達と心理学」（2008年7月12日）
秋田県立本荘高等学校模擬講義「心の仕組みを探る - 心理学入門 -」（2009年7月8日）

教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

仁平義明教授

日本心理学会議員（2001～現在）
日本音楽知覚認知学会理事・編集委員（1999～2009）
日本音楽知覚認知学会監事（2009～）
『心理学評論』編集委員（2002～2007）
日本心理学会常務理事（2009～）
日本心理学会優秀論文賞選考委員（2009～）
日本心理学会倫理委員会委員長（2009～）
日本心理学会公益社団法人化特別委員会委員長（2009～）
日本心理学諸学会連合教育委員会委員（2009～）
日本認知心理学会安全研究部会長（2003～現在）
日本認知心理学会理事（2009～）
日本音楽知覚認知学会会長（2007～2009）
日本認定心理士会北海道・東北支部長（2007～2009）
日本自閉症スペクトラム学会評議員（2008～現在）
Tohoku Psychologica Folia Chief editor (2005～現在)
The 10th International Conference on Music Perception and Cognition 準備委員
（2008）
SARMAC （The 8th Meeting of the Society for Applied Research in Memory &

Cognition) 準備委員 (2009)

大淵憲一教授

”Psychology , Crime , and Law”誌編集委員 (2001 年度 ~)
”Tohoku Psychologica Folia”誌副編集長 (2001 年度 ~)
日本グループ・ダイナミクス学会理事 (2009 年度 ~)
日本犯罪心理学会編集委員 (2001 年度 ~)
日本犯罪心理学会常任理事 (2006 年度 ~)
日本心理学会理事 (2006 年度 ~ 2008 年度)
日本心理学会代議員 (2009 年度 ~ 2011 年度)
日本心理学会倫理委員会委員(2006 年度 ~ 2008 年度)
日本心理学会将来構想検討委員会委員 (2006 年度 ~ 2009 年度)
日本社会心理学会常任理事 (2006 年度 ~ 2008 年度)
日本社会心理学会理事 (2005 年度 ~ 2008 年度)
アジア社会心理学会副編集長 (2004 年度 ~ 2008 年度)
アジア社会心理学会副会長 (President Elect) (2006 年度 ~ 2007 年)
日本応用心理学会理事 (2006 年度 ~)
国際犯罪学会第 16 回世界大会組織委員 (2008 年度 ~ 2011 年度)
日本犯罪心理学会会長 (2009 年度 ~)

行場次朗教授

日本心理学会理事・広報委員会委員長 (2009 年度 ~)
日本心理学会編集委員会副編集委員長 (2008 年度 ~ 2009 年度)
日本認知心理学会理事・企画委員会委員長 (2003 年度 ~ 2008 年度)
日本認知心理学会常務理事 (2009 年度 ~ 2010 年度)
日本認知心理学会副理事長・将来計画委員会委員長 (2010 年度 ~)
日本基礎心理学会常務理事 (2005 年度 ~)
International Multisensory Research Forum 2011 Organizing Committee (2010 年度 ~)
International Conference on Computer Vision Theory and Applications プログラム委員 (2005 年度 ~ 2008 年度)
電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ委員長(2007 年度)
電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ顧問 (2008 年 ~)

東北心理学会幹事（1998年度～）

阿部恒之教授

日本生理心理学会 評議委員（2004年～）

『Tohoku Psychologica Folia』 編集委員（2006年～）

日本感情心理学会 『感情心理学研究』 副編集委員長（2007年～2009年）

日本感情心理学会 『感情心理学研究』 編集委員長（2010年～）

日本感情心理学会 理事（2010年～）

辻本昌弘准教授

質的心理学研究常任編集委員（2005年度～2007年度）

『Tohoku Psychologica Folia』 編集委員（2005年度～）

日本グループ・ダイナミクス学会理事（2007年度～2008年度）

日本社会心理学会 学会大会検討委員（2007年度～2008年度）

日本社会心理学会 学会賞選考委員（2009年度）

荒木剛助教（2008年度以降）

なし

□ 教員の教育活動

（1）学内授業担当（2011年度）

1 大学院授業担当

大淵憲一教授

心理学研究演習

心理学総合演習（分担）

心理学総合演習（分担）

課題研究

行場次朗教授

心理学研究実習

心理学研究演習

心理学特論

課題研究

阿部恒之教授

心理学研究演習

実験心理学特論

心理学総合演習 (分担)

心理学総合演習 (分担)

心理学研究実習 ・ (は主担、 は分担)

課題研究

辻本昌弘准教授

心理学研究演習

心理学総合演習 (分担)

心理学総合演習 (分担)

心理学研究実習 (分担)

心理学研究実習 (分担)

課題研究

2 学部授業担当

大淵憲一教授

社会心理学演習

社会心理学各論

心理学研究法 (分担)

心理学基礎実験 (分担)

行場次朗教授

心理学基礎実験

心理学研究法

実験心理学概論

実験心理学各論

人文社会総合

心理学 (全学教育)

英語基礎文献講読 (全額教育)

阿部恒之教授

実験心理学概論

実験心理学各論

心理学基礎実験 ・ (は主担、 は分担)

心理学研究法 (分担)

辻本昌弘准教授

社会心理学概論
社会心理学基礎購読
心理学基礎実験（分担）
文化心理学各論
文化心理学演習
心理学研究法（分担）

荒木剛助教

心理学基礎実験（分担）

3 共通科目・全学科目授業担当

大淵憲一教授

なし

行場次郎教授

人文社会科学総合

心理学

阿部恒之教授

人文社会総論（2コマ担当）

心理学（理・医・保・歯・薬・農）

生態学合同講義（1コマ担当）

辻本昌弘准教授

心理学

人文社会科学総合

（2）学術振興会会員（2007～2011年度）

行場次郎教授

平成18年度 PD 鈴木美穂 PD 作田由衣子 DC2 柴田寛

平成19年度 DC2 河地庸介 DC1 日高聡太

平成20年度 PD 柴田寛 DC1 鈴木結花

平成21年度 DC2 柴田理瑛

平成22年度 DC1 高橋純一

平成23年度 PD 鈴木結花 PD 柴田理瑛

（3）他大学への出講（2007～2011年度）

仁平義明教授

宮城学院女子大学 (2001 ~ 2009 年度)

尚絅学院大学 (2004 ~ 2009 年度)

京都大学 (2008 年度)

九州大学 (2008 年度)

新潟大学 (2009 年度)

大淵憲一教授

放送大学 (2001 年度 ~)

宮城学院女子大学 (2001 年度 ~)

聖和短期大学 (2004 年度 ~ 2009 年度)

ノースアジア大学法学部 (2004 年度 ~)

いわき明星大学 (2006 年度)

東北学院大学教養学部 (2009 年度)

東北福祉大学通信教育部 (2010 年度)

沖縄国際大学 (2010 年度)

行場次朗教授

山梨大学工学部非常勤講師 (2010 年 ~)

岩手大学人文社会学部非常勤講師 (2010 年度)

昭和女子大学非常勤講師 (2009 年度)

福島大学人間発達学科非常勤講師 (2006 年 ~)

北海道大学大学院教育学研究科非常勤講師 (2007 年)

日本大学人文学部非常勤講師 (2007 年度)

大阪大学大学院人間科学研究科非常勤講師 (2007 年)

東北福祉大学福祉心理学科 (2001 年度 ~)

放送大学宮城学習センター (2001 年度 ~)

立教大学現代心理学部 本間元康課程博士論文審査委員会委員 (2008 年度)

筑波大学図書館情報メディア研究科

坂本謡子課程博士論文審査委員会委員 (2007 年度)

阿部恒之教授

福島学院大学福祉学科 (2003 年 ~)

福島学院大学大学院臨床心理学研究科 (2007 年 ~ 2009 年)

武蔵野大学薬学科 (2006 年 ~ , 2007 年より客員教授)

昭和女子大学 (2009 年 ~ , 集中講義, 2011 年より客員教授)

山形大学 (2007 年 9 月・集中講義)

琉球大学 (2008 年 1 月・集中講義)

新潟大学 (2008 年 11 月・集中講義)

広島大学 (2012 年 2 月・集中講義)

辻本昌弘准教授

いわき明星大学 (2004 年度～)

東北文化学園大学 (2005 年度～2008 年度)

聖和学園短期大学 (2005 年度～2007 年度)

北海道大学 (2006 年度)

荒木剛助教 (2008 年度以降)

東北学院大学教養学部 (2008 年度～)

福島大学人間発達文化学類 (2008 年度)

仙台医療福祉専門学校 (2009 年度)

山形大学人文学部 (2009 年度)

宮城県高等看護学校 (2010 年度～)